

沼津の教育

令和5年度



沼津市教育委員会

表紙の紋章

表紙の図柄はおもだか澤瀉を表し、水野家の紋所であった。当時の沼津城の鬼瓦の紋章にも使われていた。

水野忠友は1777年（安永6年）三河の大浜から沼津へ移封を命ぜられ、荒廃した三枚橋城のあとに沼津城を築いた。

この城は観潮城ともいわれ、富士を背景に、南は狩野川から千本松原越しに駿河湾が望まれる美しいながめであった。

目 次

沼津市の概要	沼津市の概要	1
	市章のいわれ・沼津市民憲章・市の木・市の花	2
教育行政	沼津市の教育年表	3
	教育委員会・教育長及び教育委員	7
	歴代教育長・教育委員	8
	教育委員会機構図	9
	教育委員会事務局職員等の配置人員	10
	沼津市教育大綱	11
	沼津市教育基本構想	12
	総合教育会議	23
	学校規模・学校配置の適正化	23
	郷土への理解	23
教育財政	教育財政	24
学校教育	学校教育	30
	市立小・中学校	35
	市立沼津高等学校・中等部	53
	市立幼稚園	57
	市立認定こども園	58
	私立幼稚園・認定こども園	59
社会教育	社会教育委員・生涯学習	62
	成人教育	66
	芸術文化	71
	文化財	73
	歴史民俗資料館	86
	明治史料館	88
	戸田造船郷土資料博物館	92
	芹沢光治良記念館	94
	若山牧水記念館	97
	庄司美術館	99
	健全育成	101
	青少年教育センター	106
	ゆめとびら舟山	114
	市民文化センター	117
	図書館	122
社会体育	社会体育	135
	香陵アリーナ（沼津市総合体育館）	140
	市営野球場・大岡公園内運動場	141
	西部市民運動場・中瀬市民運動場・戸田テニスコート	142
	戸田B & G海洋センター	143
資料	市内諸学校一覧	145
	学校・施設図	146

沼津市の概要

沼津市は北緯35° 06' 東経138° 52'（市役所所在地）に位置し、南は深く入り込む駿河湾を隔てて遠く大瀬岬を眺め、北に秀麗富士を仰ぎ、伊豆箱根連山に源を発する狩野川が市街中心部を流れており、四季を通じて温暖な気候に恵まれている。

明治元年 9月	添地の長屋を利用して素読・手習・算術の3教科を授ける「代戯館」（だいぎかん）が設けられ、同年12月に我が国最初の小学校である「沼津兵学校附属小学校」へ引き継がれた。
明治21年	沼津港線（蛇松線）が完成
明治22年	町制施行（人口11,000余人、1,800世帯、城内・上土・本町・三枚橋）、同年東海道線が開通し、沼津駅が開設される。
明治26年	沼津御用邸が造営される。
大正12年 7月 1日	沼津町と楊原村が合併し、同時に市制を施行して全国89番目の市となる。
昭和 8年	沼津港が完成
昭和 9年	丹那トンネルが開通し、この後、次々に重工業生産工場が建設される。
昭和19年 4月	4か村（片浜村・金岡村・大岡村・静浦村）と合併
昭和30年 4月	4か村（愛鷹村・大平村・内浦村・西浦村）と合併
昭和43年 4月	駿東郡原町と合併
昭和55年12月	「青少年健全育成都市」宣言
昭和62年 3月	「核兵器廃絶平和都市」宣言
平成12年11月	県内初の「特例市」に移行（平成27年 4月 1日制度廃止）
平成17年 4月	田方郡戸田村と合併

現在、面積186.82km²、人口188,613人（令和5年4月1日現在）であり、東名高速道路沼津インターチェンジ、国道1号・246号・414号、東海道本線及び御殿場線のほか、隣接市町と連絡する新東名高速道路（長泉沼津インターチェンジ）、東海道新幹線に加え、平成28年3月には東名高速道路愛鷹スマートインターチェンジが、平成29年3月には新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジが供用開始になるなど、首都100km圏にある県東部地区交通網の拠点として多面的な発展を遂げており、「人・まち・自然が調和し、活躍するまち」をめざしている。

（過去5年間の人口の推移）

住民登録人口（4月1日現在）

年次	世帯数	人口		
		男	女	計
平成31年	91,624	96,277	98,762	195,039
令和2年	92,467	96,003	98,204	194,207
令和3年	92,835	95,137	97,507	192,644
令和4年	92,851	93,949	96,468	190,417
令和5年	93,387	93,064	95,549	188,613

※ 住民基本台帳法の改正に伴い、平成26年度から、世帯数・人口は「外国人を含めた住民基本台帳人口」を掲載している。



沼津市章

市章のいわれ

ヌマヅの「ヌ」と沼津市の名勝として名高い千本松原の松葉をとってこれを組み合わせ図案化したもので、昭和2年の市議会において市章として決定された。

沼津市民憲章



沼津市民憲章
マーク

私たち沼津市民は

1. 緑と水と空、このかけがえのない自然を守り育て、清潔な環境をつくります。
1. すすんで心身をきたえ、健康と文化の向上につとめます。
1. 仕事に生きがいを見だし、意欲をもって働きます。
1. 人権を尊重し、時間と規則を守ります。
1. 善意と思いやりをもって、温かい家庭と社会を育てます。

昭和48年7月制定

市の木「松」

富士山を背景に、寄せる白波に緑が映える千本松原は、東海の名勝として古くから人々に愛されてきた。



老松・古松に多くの歴史を秘めたこの松原は歌人・若山牧水、作家・井上靖の作品にも登場し、千本浜公園内には、その歌碑・文学碑も建てられている。

「松」は、このほか香貫山、愛鷹山など市内の各所に植えられ、沼津ゆかりの木として昭和45年4月、「市の木」に制定された。

市の花「はまゆう」

初夏になると白い繊細な花を開くはまゆうは、沼津市の大瀬岬の砂地に群生し、昭和45年4月「市の花」に制定された。



このひがん花科の植物は、万葉集にもうたわれた名花で、海浜砂地に自生し、花が木綿(ゆう)に似ていることからこの名が付けられた。

沼津市の教育年表

明治元年	徳川氏駿河移封にあたり、旧幕府陸軍部の沼津移住の有志、添地に代戯館を設け少年たちに漢籍洋算を教授
明治2年	沼津兵学校・同附属小学校開校
明治4年	沼津兵学校附属小学校は沼津兵学校の兵部省移管に伴い沼津小学校と改称
明治6年	沼津小学校が公立小学集成舎と改称 旧本陣清水太郎作方に明強舎を創立
明治10年	集成舎と明強舎が合併し沼津巒（沼津学校）となる
明治21年	沼津尋常小学校附属「沼津文庫」設立
昭和3年	沼津尋常高等小学校を第一尋常小学校、沼津女子尋常小学校を第二尋常小学校、楊原尋常高等小学校を第三尋常小学校と改称し、各校の高等科を廃止。第四尋常高等小学校創立
昭和10年	村名を変更したことに伴い鷹根尋常高等小学校を愛鷹村立愛鷹尋常高等小学校と改称 「沼津文苑」創刊
昭和13年	第五尋常小学校創立
昭和16年	尋常高等小学校・尋常小学校ともに校名を国民学校と改称
昭和19年	第六国民学校が市道・松下を校区に創立 片浜・静浦・大岡・金岡の各村が沼津市と合併したことにより各村立国民学校を沼津市立国民学校と改称
昭和21年	第一中学校（市立高前身）創立
昭和22年	教育基本法、学校教育法改正（4月1日施行） 学校教育法の施行により、国民学校を小学校と改称。中学校および旧制中等学校に併設中学校を創立 村立戸田小・中学校創立
昭和23年	第一中が沼津市立沼津高等学校と改称し、東熊堂へ移転
昭和25年	静浦東小創立 市立高が学校法人沼津高等学校と改称
昭和26年	静浦西小創立
昭和27年	沼津市に教育委員会事務局（学務課・管理課・指導課）を設置 学校法人沼津高等学校が再び市立となり商業科を設置 沼津市立図書室（沼津文庫）開設 沼津市教育委員の選挙が行われ、沼津市教育委員会が発足 浮島・愛鷹・内浦・西浦・大平の各村及び原町に教育委員会を設置
昭和29年	市立高体育館竣工 第五小西分校（開北小）創立 沼津聾学校並びに寄宿舎落成
昭和30年	大平・西浦・内浦・愛鷹の各村が沼津市に合併し、各村立小中学校が沼津市立と改称 浮島村が原町と合併し、同村立小・中学校は原町立と改称
昭和32年	第六小が千本小と改称。開北小が第五小より分離独立
昭和35年	岡野喜太郎氏に名誉市民の称号を贈呈
昭和37年	駿河図書館開館 市立高が三枚橋へ新築移転
昭和38年	文化会館開館
昭和39年	市立高新体育館竣工。普通校舎増築竣工
昭和40年	市立高に衛生看護科設置
昭和41年	青少年センター開設
昭和42年	市立高プール竣工 教育研究奨励制度発足
昭和43年	原町と沼津市の合併により原・浮島の小中学校は沼津市立と改称 市立高の衛生看護科に専攻科（修業年限2年）設置 勤労青少年ホーム開館
昭和44年	戸田造船郷土資料博物館開館
昭和45年	西浦西小が西浦小に統合。香貫小創立
昭和47年	門池小創立

昭和48年	今沢小創立 少年自然の家開所 市民体育館開館
昭和49年	ぬまづ社会科研究会著『ぬまづ昔ばなし』発行 大平幼稚園・戸田幼稚園開園 歴史民俗資料陳列館開館
昭和50年	今沢中・門池中創立
昭和51年	西浦・内浦中を統合し、中学校校地を長井崎に決定
昭和52年	市立高グラウンド整備竣工
昭和54年	戸田小新校舎完成 休場遺跡が国史跡に指定 沢田小創立 戸田舟山に「みどりの学校」を開設
昭和55年	芹沢光治良氏に名誉市民の称号を贈呈 屋内温水プール開所 青少年健全育成都市宣言
昭和56年	原東小・長井崎中創立 勤労者体育センター開所
昭和57年	大岡南小創立 市民文化センター開館
昭和58年	井上靖氏に名誉市民の称号を贈呈
昭和59年	明治史料館開館 「歴史民俗資料陳列館」を「歴史民俗資料館」に改称
昭和61年	青少年教育センター開設
昭和62年	若山牧水記念館開館
昭和63年	市立高専攻科新校舎竣工 長浜城跡が国史跡に指定
平成元年	生涯学習推進本部設置
平成2年	長倉三郎氏が文化勲章を受章、名誉市民の称号を贈呈
平成5年	市立高商業科閉科 市立図書館新築開館
平成7年	興国寺城跡が国史跡に指定
平成10年	戸田舟山「みどりの学校」を「ゆめとびら舟山」に改称
平成11年	戸田保育園・幼稚園合築施設「へだっこセンター」完成
平成12年	ちえづくり・ひとづくり・沼津の教育21推進事業開始 庄司美術館（愛称モンミュゼ沼津）開館
平成14年	市立高新校舎（普通教室棟、特別教室棟）竣工 小学校における国際理解教育「わたしたち小さくても大きな国際人事業」の推進 情報通信のブロードバンド化に対応し、高速通信網に接続
平成15年	市立高衛生看護科閉科。中等部創立 学校図書館を利用した学習活動の展開を推進（司書教諭配置） 大岡信氏に名誉市民の称号を贈呈
平成16年	魁光章設立 「人づくり未来塾」開始 戸田幼保教育特区
平成17年	市立高専攻科閉科 教育企画室設置 戸田村が沼津市に合併し、村立幼稚園・小中学校・図書館が沼津市立と改称 「人づくり未来塾推進事業」により、各校が自らの裁量で事業を企画実施し、主体的に執行 通学区の弾力化「隣接校選択制」導入
平成18年	国が「言語教育推進事業」を特区として認定。市内小中学校（市立高中等部を除く）に言語科を導入 松城家住宅が国重要文化財に指定
平成19年	静岡県教育委員会（静東教育事務所）から指導業務が移管

平成19年 平成20年	教育推進会議に対し「これからの沼津市における教育のあり方について」を諮問し、答申を受ける 「沼津市教育委員会事務評価委員会」設置 ロボカップジャパンオープン開催 ジュニアスキルズ第1回開催 市立高新体育館竣工 高尾山古墳発掘調査（H20からH21まで）
平成21年	「夢ある人づくり塾」開始 「沼津市教育基本構想」策定 「がんばる学校応援事業」により特色ある学校づくりを支援 芹沢光治良記念館開館
平成22年	静浦地区3小学校を統合、静浦中は旧静浦西小へ移転 静岡県が2月23日を「富士山の日」として制定 「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」が国重要有形民俗文化財に指定 環境教育の一環として全小中学校に太陽光発電システムを設置
平成23年	教職員研修センター開設 東日本大震災を踏まえ、学校の防災計画の見直し
平成24年	市立高生活館（求道館）竣工 西部市民運動場開設 「高尾山古墳発掘調査報告書」刊行。「高尾山古墳シンポジウム」開催
平成25年	「沼津大志学習」プラン策定 「沼津市スポーツ推進基本計画」策定 「沼津市新市民体育館整備基本構想」策定 大岡市民運動場整備竣工
平成26年	「学力保証プログラム事業」開始 静浦小中一貫学校開校
平成27年	「沼津市教育基本構想」改訂 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正をうけ、総合教育会議を設置 教育大綱の策定に着手 長浜城跡史跡整備完了。一般公開
平成28年	首長による沼津市教育大綱策定 旧教育長と旧教育委員長の職務を兼ねた「新教育長」就任 「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の概略方針」策定 「イングリッシュアドベンチャー事業」「みんなで受けよう！英検3級事業」「イングリッシュデビュー事業」等英語力向上に向けた事業開始 旧沼津御用邸苑地が国名勝に指定
平成29年	少年自然の家廃止 「沼津市立小中学校の適正規模・適正配置の基本方針」策定 「『チーム学校』実現事業」により、教育の充実と教員の執務時間の確保を支援 「沼津市新市民体育館整備基本計画」策定
平成30年	市立小中学校（市立高中等部を除く。）を小中一貫教育の研究校に指定 市立図書館が「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける
平成31年 （令和元年）	第四小学校・第五中学校に共同学校事務室を設置 勤労青少年ホーム廃止 市立小中学校（市立高中等部を除く。）で小中一貫教育を導入 「成人式」を「二十歳の集い（はたちのつどい）」へ名称変更 全小学校の普通教室等にエアコンを設置
令和2年	新型コロナウイルス感染拡大に伴い市立小中学校（園）において90日間の臨時休業 臨時休業に伴う学習支援として市内小中学校児童生徒に図書カードを配布 GIGAスクール構想・オンライン授業等研究プロジェクトチーム結成 市立中学校3年生を対象に補習学習として「沼津寺子屋」を開催 首長による沼津市教育大綱策定 「沼津市新屋内温水プール基本構想」策定 コミュニティ・スクール導入開始

令和2年	<p>地域学校協働本部設置開始</p> <p>「沼津市学校教育におけるICT活用方針 ～N-GIGA～」策定</p> <p>全中学校の普通教室等にエアコンを設置</p> <p>屋内温水プール閉館</p>
令和3年	<p>「ぬまづ電子図書館」開館</p> <p>沼津市版GIGAスクール構想において1人1台端末（Chromebook）を貸与及び活用環境整備</p> <p>「沼津市教育基本構想」策定</p> <p>戸田幼稚園を廃止し、幼保連携型認定こども園「戸田こども園」を開園</p> <p>内浦小学校・西浦小学校を廃止し、長井崎小学校を開校</p> <p>長井崎小中一貫学校開校</p> <p>戸田小中一貫学校開校</p> <p>「スポーツ振興課」が教育委員会事務局から「ウィズスポーツ課」として市長部局（産業振興部）へ移管</p> <p>学校教育課内に情報教育推進室と学校給食室を設置</p> <p>学校給食会計の公会計化</p> <p>緊急事態宣言下における夏休みの延長</p> <p>1人1台端末（Chromebook）の持ち帰りを開始</p>
令和4年	<p>県教育委員会より指定を受け、幼児教育支援充実事業研究を開始</p> <p>英語パフォーマンステストを導入</p> <p>国重要文化財松城家住宅の保存修理工事が完了</p> <p>市立高新入学生に1人1台端末（iPad）を導入（BYAD方式）</p> <p>「新成人議会」を「二十歳の議会（はたちのぎかい）」へ名称変更</p> <p>市民体育館・勤労者体育センター・香陵武道場を廃止し、香陵アリーナ（沼津市総合体育館）を開館</p>
令和5年	<p>文化振興課内に文化政策室と文化施設係を設置</p>

教育行政

教育委員会

〔教育長及び教育委員〕



奥村 教育長



川口 教育長職務代理者



土屋 委員



重光 委員



佐藤 委員

職 務	氏 名	職 業	就任年月日
教 育 長	奥 村 篤	—	平成31. 4. 1
教育長職務代理者	川 口 浩 史	介 護 福 祉 士	27. 10. 19
委 員	土 屋 葉 子	歯 科 医 師	22. 10. 22
委 員	重 光 純	弁 護 士	28. 10. 10
委 員	佐 藤 清 子	会 社 役 員	令和3. 10. 26

令和5年4月1日現在

◎歴代教育長・教育委員

〈教育長〉

令和5年4月1日現在

氏名	就任年月日	退任年月日
芝 順 照	昭和28. 4. 1	昭和31. 9. 30
工 藤 悟 朗	31. 10. 1	43. 9. 30
望 月 庄次郎	43. 10. 1	49. 9. 30
鈴 木 孝	49. 10. 7	55. 9. 30
桑 原 良 文	55. 10. 9	63. 6. 20
杉 田 克 己	63. 7. 9	平成4. 10. 3
五月女 武	平成4. 10. 10	11. 3. 31
長 澤 靖 夫	11. 4. 1	16. 3. 31
工 藤 達 朗	16. 4. 1	28. 3. 31
服 部 裕美子	28. 4. 1	31. 3. 31
奥 村 篤	31. 4. 1	現 在

〈教育委員〉

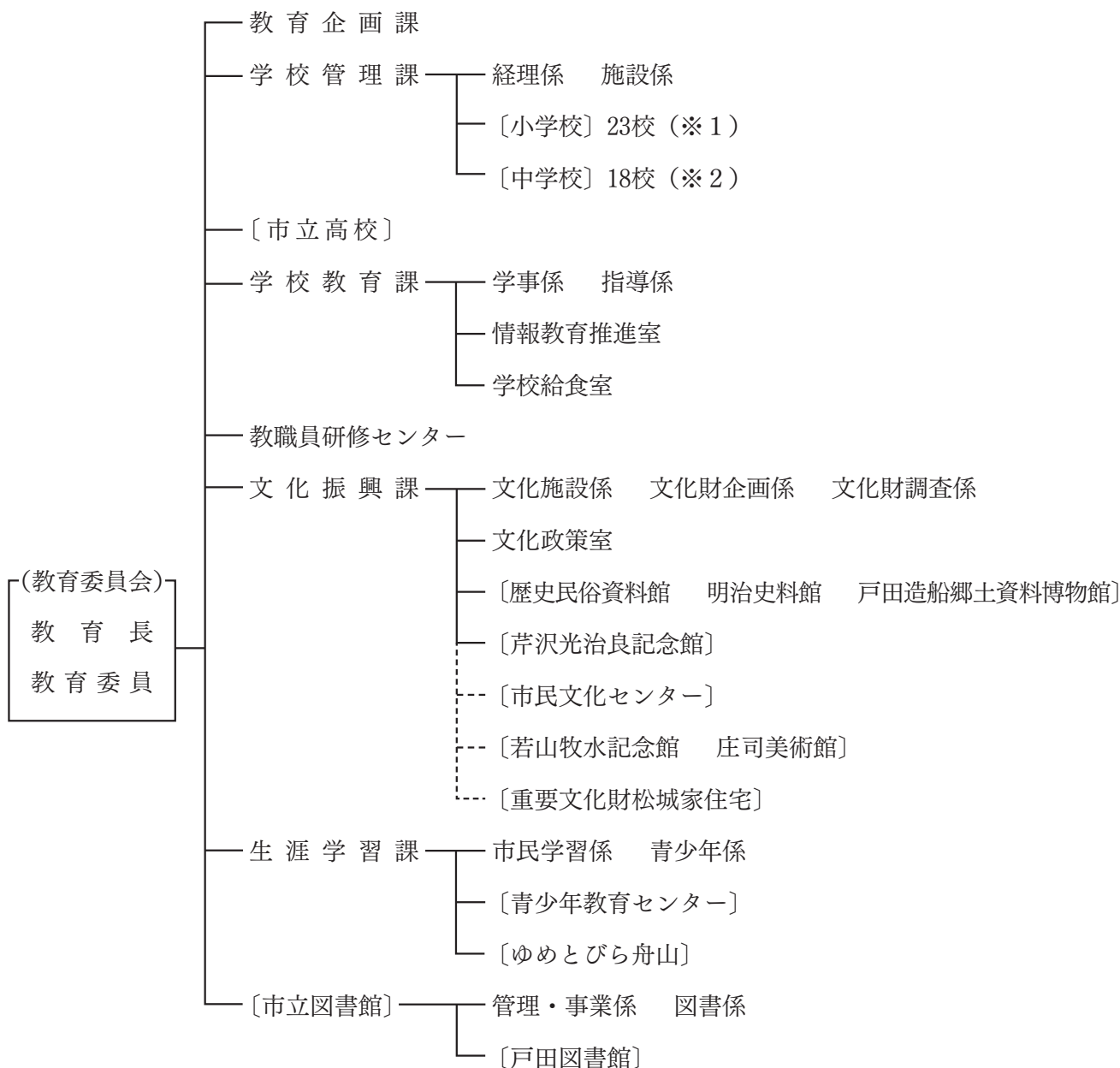
氏名	就任年月日	退任年月日
西 山 倉 吉	昭和27. 11. 1	昭和30. 4. 29
鈴 木 辰 蔵	27. 11. 1	31. 9. 30
堀 田 健 男	27. 11. 1	31. 9. 30
原 田 良 道	27. 11. 1	31. 9. 30
矢 田 唯 雄	27. 11. 1	31. 9. 30
芝 順 照	28. 4. 1	31. 4. 30
西 島 恭 正	30. 5. 27	31. 5. 25
堤 俊 一	31. 6. 4	31. 9. 30
楨 正 男	31. 10. 1 33. 10. 4	33. 9. 30 37. 10. 3
内 田 善次郎	31. 10. 1	32. 9. 30
海 瀬 孝 衛	31. 10. 1	34. 9. 30
光 林 糸八郎	31. 10. 1	35. 9. 30
工 藤 悟 朗	31. 10. 1	43. 9. 30
一 杉 藤 平	32. 10. 1	36. 9. 30
清 水 清 二	34. 10. 1	40. 5. 25
渡 辺 与五郎	35. 10. 1	39. 9. 30
山 本 常 子	36. 10. 1	44. 9. 30
磯 部 泰 輔	37. 10. 4	45. 10. 3
宇 野 三 郎	39. 10. 1	51. 9. 30
石 井 貞 二	40. 7. 24	45. 1. 14
望 月 庄次郎	43. 10. 1	昭和49. 9. 30

氏名	就任年月日	退任年月日
伊 東 清 重	昭和44. 10. 1	52. 7. 5
秋 山 桂左矩	45. 3. 27	46. 9. 30
大 塚 三八雄	45. 10. 4	53. 10. 3
保 坂 貢	46. 10. 13	50. 10. 12
鈴 木 孝	49. 10. 4	55. 9. 30
加 藤 三 郎	50. 10. 13	54. 10. 12
植 松 ふさ子	51. 10. 1	55. 9. 30
勸 山 弘	52. 10. 4	56. 6. 19
杉 山 光 男	53. 10. 12	平成2. 10. 11
浅 野 良 哉	54. 10. 13	昭和62. 10. 12
荒 木 陽 子	55. 10. 4	平成4. 10. 3
桑 原 良 文	55. 10. 4	昭和63. 6. 20
土 橋 義 廣	56. 10. 5 60. 10. 26	60. 10. 4 平成5. 10. 25
龍 崎 芳 郎	62. 10. 13	3. 10. 12
杉 田 克 己	63. 7. 6	4. 10. 3
原 正 守	平成2. 10. 19	6. 10. 18
田 澤 寛 子	4. 10. 8	8. 10. 7
鈴 木 善之助	3. 10. 14	11. 10. 13
五月女 武	4. 10. 8	11. 3. 31
石 川 三 義	5. 10. 26	21. 10. 25
寺 田 鼎	6. 10. 19	10. 10. 18
渡 邊 妙 子	8. 10. 8	20. 10. 9
積 惟 貞	10. 10. 22	14. 10. 21
長 澤 靖 夫	11. 4. 1	16. 3. 31
内 田 文 喬	11. 10. 19	19. 10. 18
勝 呂 弥 生	14. 10. 22	22. 10. 21
工 藤 達 朗	16. 4. 1	28. 3. 31
久 松 但	19. 10. 19	27. 10. 18
細 沼 早希子	20. 10. 10	28. 10. 9
三 好 勝 晴	21. 10. 26	令和3. 10. 25
土 屋 葉 子	22. 10. 22	現 在
川 口 浩 史	27. 10. 19	現 在
重 光 純	28. 10. 10	現 在
佐 藤 清 子	令和3. 10. 26	現 在

教育委員会機構図

令和5年4月1日現在

(教育委員会事務局)



[] は出先機関及び主要施設

---- は指定管理者制度を導入している主要施設

※1 小学校には静浦小中一貫学校、長井崎小中一貫学校、戸田小中一貫学校を含む

※2 中学校には市立高等部、静浦小中一貫学校、長井崎小中一貫学校、戸田小中一貫学校を含む
〔大平幼稚園〕の事務は、市民福祉部子育て支援課が平成27年度から補助執行している

教育委員会事務局職員等の配置人員

(令和5年5月1日現在)

課・施設等		区分	事務職員	技術職員	業務員等	教諭等	会計年度 任用職員	計
教育次長			1					1
教育企画課			4			(指導主事) 3	1	8
学校管理課			8	5	2		1	16
学校教育課			8		2	(指導主事) 12 (兼3)	136	158(3)
教職員研修センター						(指導主事) 3	6	9
文化振興課			18(兼1)	1(兼1)		(指導主事) 1	10	30(1)
生涯学習課			10				7	17
施設	市立図書館		11	1	1		40	53
	戸田図書館		2(兼1)				2	4(1)
	歴史民俗資料館		2				3	5
	明治史料館		3				4	7
	戸田造船郷土資料博物館		1				3	4
	芹沢光治良記念館		2				2	4
	青少年教育センター		3			(指導主事) 3	9	15
	ゆめとびら舟山		1(兼1)				3	4(1)
市立高等学校			3		1	49	24	77
市立小学校 23校					8		93	101
市立中学校 18校					4		54	58
市立幼稚園 1園			1			5		6
市立認定こども園 1園						9	4	13
計			78(3)	7(1)	18	85(3)	402	590(6)

※学校基本調査をもとにしています。

沼津市教育大綱

目的・趣旨

「誇り高い沼津を創造する ^{たか} 貴き志を持つ人づくり」

「貴き志を持つ人」とは

- ・夢を実現するべく、変化する社会の中で意思を持って学び続ける人
- ・他者を尊重し、社会のために尽くす人
- ・シビックプライドを持ち、主体的に社会を変えていこうと行動する人

期 間

令和3年度から令和7年度までの5か年

基本方針

1 人間力を磨く教育

- 確かな知性の育成 豊かな心の育成 健やかな体の育成

社会情勢がめまぐるしく変化し、予測が困難な時代を迎える中、自分らしくたくましく生きていくためには、「知」すなわち確かな知性、「徳」すなわち豊かな心、「体」すなわち健やかな体をバランスよく育て、個の資質を高めていくことが重要です。

夢と志を持って、可能性に挑戦するために必要な力を確実に育んでいくため、「知・徳・体」の育成により人間力を磨く教育を推進していきます。

2 地域総がかりで取り組む教育

- 地域が学びを育て、学びが地域を育てるまちの推進 生涯を通じた学びの推進
 人づくりとまちづくりの一体的な推進

市民の価値観やライフスタイルが多様化する中、持続可能な社会を築いていくためには、地域における人と人との繋がりを深めるとともに、地域に貢献できる人材を育て、豊かで活力ある地域社会を実現することが重要です。

地域の物的資源や人的資源を生かしながら生涯を通じた学びを促進し、人づくりとまちづくりの連携を推進していきます。

※ 「沼津市教育大綱」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、本市の教育が目指す基本的な方向や推進すべき施策を明らかにするものとして、本市の教育理念とその施策に関する基本的な方針を定めたものである。本市における最上位計画である「沼津市総合計画」を踏まえるとともに、国の「第3期教育振興基本計画」を参酌して策定した。

沼津市教育基本構想

1. 目的「誇り高い沼津を創造する ^{たか} 貴き志を持つ人づくり」

これまで本市は、一人一人が心豊かで充実した生活を実現できるよう、誰もが生涯にわたって学び、その成果を生かして、大きな夢や希望を持つ「夢ある人」が育つことを目指してきました。

これからは、一人一人の夢の実現にとどまらず、あらゆる場所で挑戦し続け、「沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わって社会を変えていく」というシビックプライドを持った、「貴き志を持つ人」の育成を進めていきます。

2. 期 間

「沼津市教育大綱」と同様、令和3年度から令和7年度までの5か年

3. 施策の方向

(1) 人間力を磨く教育

現在、人生100年時代を迎えようとしており、また、様々な分野におけるAIやIoT、ビッグデータ、ロボットなどの技術革新、グローバル化の進展など、社会情勢が目まぐるしく変化しています。

このような変化の激しい時代を迎え、子供から高齢者まで誰もが、自分らしく明るく生き生きと暮らすためには、生涯にわたる教育を通じて、知（確かな知性）、徳（豊かな心）、体（健やかな体）を主体的に身に付けることが必要です。

近年、幼児期から質の高い教育を提供することの重要性が高まるとともに、社会人の学びの継続や学び直しなども必要とされており、「**確かな知性の育成**」が求められています。

また、豊かな情操、多様性の尊重、自他の生命の尊重、自己肯定感、他者への思いやり、人間関係を築く力などが必要とされており、「**豊かな心の育成**」が求められています。

さらに、近年、健康寿命といった言葉も注目されている中、子供の体力低下や生活習慣病が問題となっており、知、徳に加え、「**健やかな体の育成**」も求められています。

これらのことから、知、徳、体、すなわち人間力を磨き、それらをバランスよく兼ね備えることが重要であり、系統的、継続的、かつ横断的な視点で、本市における教育を推進していきます。

(2) 地域総がかりで取り組む教育

少子化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化などにより、地域における人のつながりや支え合いの希薄化が進んでいます。人口減少などの社会の大きな変化の中において、誰もが生涯にわたり学習し、その成果を地域での活動等にも生かしていくことで、持続可能な社会をつくることができます。

一人一人が孤立することなく、地域でともに学び、相互に認め合うとともに、これまで育まれてきた地域の歴史を学び、郷土への愛着や誇り、帰属意識を育み地域づくりに取り組むという「**地域が学びを育て、学びが地域を育てるまちの推進**」が求められています。

また、人生100年時代を見据え、生涯の各ライフステージにおいて、知識や技術等を獲得し、それを活用することにより、生きがいを持って豊かな人生を送ることができるよう、「**生涯を通じた学びの推進**」が求められています。

さらに、教育とまちづくりを連携させて相乗効果を図り、まちの主役である人を大切にするとともに、誰もが明るく生き生きと暮らせるまちづくりを目指すことが求められており、今後、「人づくりとまちづくりの一体的な推進」に取り組んでいきます。

※ 平成18年の教育基本法改正により、地方公共団体の教育行政の基本計画を定めることが努力義務となったことから、本市では、平成21年に「沼津市教育基本構想」を策定し、平成27年には当時の社会状況等を踏まえて改訂した。

その後の社会状況及び教育を巡る状況の変化を受け、国は平成30年6月に「第3期教育振興基本計画」を策定し、静岡県も平成31年に「第3期静岡県教育振興基本計画」を策定している。

このような動向に加えて、本市では、令和3年4月を始期とする「第5次沼津市総合計画」及び「沼津市教育大綱」を策定したことを受け、令和3年度を始期とする新たな「沼津市教育基本構想」を策定した。

4. 沼津市教育基本構想実施計画（R3～R7）

【表の見方】

- ◆節・項は、「沼津市教育基本構想」に対応しています。
- ◆主な事業等については、主要な事業を記載していますが、それ以外にも、学校・園等の教育活動において、理念の実現を図っています。
- ◆主な事業等の【参考】は、教育委員会所管以外の事業等を参考として示しています。
- ◆主な事業等の【再掲】は、事業内容が複数項に該当するため、複数回掲載された事業等を示しています。

第1章 人間力を磨く教育

節	項	目	施策の方向	主な事業等
1	1	(1) 確かな学力の育成	ア 遊び、学びの充実 幼稚園・保育所・認定こども園等において計画的に構成された教育環境の下で、幼児の自発的な遊びや体験を通じた学びの十分な確保に努めます。	1 民間保育所等施設整備事業 【参考】 2 幼稚園運営管理事業 3 私立幼稚園教育支援事業
			イ 学習の基盤となる資質・能力の育成 子供たちが変化の激しい予測困難な社会において、主体的に判断し他者と協調して生きていくために必要な、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を図ります。	4 言語教育による表現力・読解力育成事業（言語科） 5 ICT活用教育推進事業 6 研究・美術活動推進事業 7 理科教育推進事業 8 理科教育振興事業 9 教職員研修センター運営事業（調査研究）
		(2) 読書活動及び図書館活用の推進	ア 読書活動の推進 発達段階に合った本を読む環境を整え、幅広い読書活動や豊かな読書経験を重ねることにより、自分とは違ったものの見方や考え方を広げたり身に付けたりしていくことができるよう、読書環境の向上に取り組めます。 イ 図書館活用の推進 図書館では、読書習慣を確立し、生涯にわたり学び続けられるよう、幅広いジャンルの図書の整備・更新や、資料の電子化などの環境整備を進めるとともに、各種図書館サービスの充実を図ります。 また、学校図書館を言語活動や探求活動の場と位置付け、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した図書館活用を推進します。	10 親子絵本ふれあい事業 【参考】 11 言語教育による表現力・読解力育成事業（学校司書配置） 12 図書館自主事業 13 言語教育による表現力・読解力育成事業（学校司書配置）【再掲】 14 図書館資料整備事業 15 図書館電子化推進事業 16 図書館サービス拡充事業
	2	(1) 国際教育の推進	英語をはじめとする外国語教育の推進に努めるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などを通して、物事に柔軟に対処する力や、論理的に表現する能力、コミュニケーション能力等を身に付けられるよう、学びの広がりや深まりのある授業づくりに努めていきます。	17 言語教育による表現力・読解力育成事業（言語科） 【再掲】 18 国際理解教育推進事業 19 国際理解教育体験事業（隔年実施）
			(2) 英語教育の推進	幼児期においては、日常生活の中で、異なる文化に触れる活動に親しんだり、英語に慣れ親しむきっかけをつくったりする環境を整えます。その上で、小中学校においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」といった4技能を総合的に身に付けていきます。高校においては、4技能をバランスよく伸ばしていくことはもとより、社会の諸課題に向き合いながら、沼津を愛しグローバルな視点で地域社会を創生するグローバル人材の育成を目指します。
		(1) グローバルな視点を持つ人の育成		

節	項	目	施策の方向	主な事業等
1	3	(1) 子供の学びを支える教育環境の整備	ア 系統的な学びのシステムの確立 小中、中高のそれぞれにおいて、経営理念や運営、学習指導、生徒指導等の方針を共有し、教育のベクトルを揃えることで、系統的な学びの確保を目指します。	26 言語教育による表現力・読解力育成事業（小中一貫教育） 27 児童生徒指導訪問事業 28 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（小中連携） 29 中高一貫教育推進事業（中高の連携）
			イ 個別最適な学びと協働的な学びの実現 子供の力を最大限引き出し、学力の向上を図るため、ICTを活用し、個別最適な学習や効果的な協働学習を展開していきます。 また、ICT環境の整備や教員のICT活用指導力の向上に努めます。	30 ICT活用教育推進事業【再掲】 31 市立高校ICT活用教育推進事業
			ウ 教職員が子供と向き合う環境の整備 教職員が、一人一人の子供と向き合うことに専念できる環境整備を図ります。	32 ICT活用教育推進事業【再掲】 33 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（教員の支援） 34 学校給食公会計化推進事業
			エ 教職員の資質・能力の向上 一人一人の教職員が、個々の課題解決のために、主体的に研修に取り組むことができる体制の充実を図り、計画的な支援に努めます。	35 教科指導研究事業 36 教職員研修センター運営事業
			オ 学校規模・学校配置の適正化の推進 子供たちにとってよりよい教育環境を整備するとともに、教育の質の更なる充実を目指し、学校規模・学校配置の適正化を推進します。	37 学校規模・学校配置適正化推進事業 38 学校施設整備事業
			カ 施設設備の充実 子供たちが安全・安心で充実した学校生活を送ることができるよう、学校施設の整備や維持管理を適切に行い、その充実を図ります。	39 小中学校営繕・改修事業（教室環境の充実） 40 小中学校営繕・改修事業（安全対策） 41 小中学校営繕・改修事業（施設整備） 42 市立高校施設改修事業
		(2) 学習の情報及び機会の充実	広く市民に対して生涯学習に関する情報発信を行い、市民が学ぶことのできる機会の充実を図ります。	43 市民大学開設事業 44 生涯学習推進事業（「さんさんだより」の発行）
		(3) 知を支える社会教育施設の充実	ア 図書館の充実 他の社会教育施設等との連携を推進するほか、電子書籍サービス等の拡充など、市民の生涯学習の支援機能を充実します。 また、各園等、学校、家庭、地域との連携を図り、子供の読書活動を推進します。	45 図書館電子化推進事業【再掲】 46 地域、保育所、学校等との連携の強化 47 図書館自主事業【再掲】
			イ 博物館の充実 子供たちが郷土の偉人の功績や昔の生活を学ぶ地域学習の場として利活用できるよう、学校教育と連携した取組を進めます。 また、学芸員等の調査研究成果を公開するほか、資料や図書を閲覧する場を設けることで、市民の自主的な学習を支援します。	48 歴史民俗資料館管理運営費（特別展・企画展開催事業） 49 明治史料館管理運営費（企画展開催事業） 50 戸田造船郷土資料博物館管理運営事業
		2	1	(1) 基本的な生活態度や習慣の確立

節	項	目	施策の方向	主な事業等	
2	1	(2)	コミュニケーション能力の育成	ア 遊びの充実 遊びを通して、友達と過ごす楽しさを味わったり、自分の存在感を感じたりして、様々な感情の交流をする機会を創出します。	53 幼稚園運営管理事業 【参考・再掲】
			イ 相手の考えを受け止め、自分の思いを表現する態度の育成 人間関係を構築するためのコミュニケーション能力とその基礎となる言語能力の向上を図ります。	54 言語教育による表現力・読解力育成事業（言語科） 【再掲】 55 沼津市幼児教育研究協議会補助金（幼児期・学齢期の円滑な接続に配慮したカリキュラムの編成） 【再掲】	
		(3)	キャリア教育の推進	将来、子供たちが社会人・職業人として自立していくために必要なキャリアプランニング能力、課題適応能力等を育成するため、各発達段階に応じた勤労観や職業観を形成します。	56 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（職業体験等） 57 中高一貫教育推進事業（キャリア教育） 58 伝統技能体験事業 【参考】
		(4)	持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な地球規模の課題を自らの問題として捉え、配慮・行動できるよう、持続可能な開発のための教育を推進します。 また、幅広い世代を対象とした環境教育の機会を設け、顕在化している環境問題への認識を促すため、市・事業者・学校が連携した環境教育を推進します。	59 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（実践的環境教育） 60 地球温暖化対策推進事業 【参考】 61 環境を大切にする人づくり推進事業【参考】 62 自然環境保全事業【参考】 63 生活環境保全事業【参考】 64 SDGs教育推進事業 65 言語教育による表現力・読解力育成事業（言語科） 【再掲】 66 国際理解教育推進事業 【再掲】 67 国際理解教育体験事業（隔年実施）【再掲】 68 郷土の歴史と偉人学習事業 69 博物館所蔵古文書等調査整理事業 70 史跡等活用事業 71 地域史保存活用事業 72 消費者行政経費【参考】 73 地震防災啓発事業【参考】 74 自主防災会活性化事業 【参考】 75 防災訓練事業【参考】
	(5)	青少年による体験活動等の推進	子供たちの感性や知的好奇心の育成及び創造性の向上を図るために、学校や家庭では、経験できない体験型の学習を創出します。	76 青少年教育推進事業 77 青少年体験学習推進事業	
2	2	(1)	防災教育の推進	災害から生命や身体を守るため、自ら考え、判断し、行動する力を身に付けられるよう、防災教育の充実を図るとともに、地域との連携を密に取り、施設・設備などの安全対策を強化します。 各園等と学校においては、施設の立地条件や地域の実情などを踏まえた防災計画を策定し、様々な災害を想定した防災訓練を年間の教育計画に位置付け、防災教育を進めます。	78 学校安全計画の作成及び取組 79 救急救命研修事業 80 地震防災啓発事業 【参考・再掲】 81 自主防災会活性化事業 【参考・再掲】 82 防災資機材整備事業 【参考】 83 防災訓練事業【参考・再掲】

節	項	目	施策の方向	主な事業等	
2	豊かな心の育成	社会を生き抜く力の育成	(2) 交通安全教育の推進	各園等、学校、家庭、地域、関係機関が連携し、地域総がかりで交通事故から市民を守る取組を進めます。	84 通学路安全推進事業 85 交通安全父母の会連合会補助事業【参考】 86 交通安全推進事業【参考】
			(3) 防犯教育の推進	子供たちにとって安全・安心な環境確保のため、各園等と学校、家庭、地域などが組織的に対応するとともに、子供自らが自分の身を守るができるよう、発達段階に応じた指導を進めます。	87 学校安全計画の作成及び取組【再掲】 88 防犯まちづくり事業【参考】 89 青少年教育センター運営事業
			(4) 学びを止めない危機管理体制の整備	大規模災害やウイルス感染症等の発生時にもつながりを維持し、学びを止めない体制を整備します。	90 ICT活用教育推進事業【再掲】 91 市立高校施設改修事業【再掲】
			(5) 情報モラル教育・メディアリテラシー教育の推進	情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てるとともに、安全に生活するための知識や技能、健康への意識を育てる取組を進めます。情報モラルやメディアリテラシーについて、学校、家庭、地域が共に考え、適切な関わり方を身に付けていく機会の充実を図ります。	92 ICT活用教育推進事業【再掲】 93 市立高校ICT活用教育推進事業【再掲】
			(6) 主権者教育の推進	社会を形成する者としての意識を醸成し、自身が課題を多面的・多角的に捉え、判断する力を育むための主権者教育を推進します。	94 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（職業体験等）【再掲】 95 青少年健全育成推進事業（わたしの主張大会、高校生しゃべり場inぬまづ、新成人議会）
			(7) 消費者教育の推進	あらゆる年齢層の市民を対象として、行政、学校、地域、事業者等と連携・協働し、主体的に判断し責任を持って行動できる消費者を育成します。	96 生涯学習推進事業（出前講座）【参考・再掲】 97 消費者行政経費事業【参考】 98 消費生活相談員による消費者教育出前講座の実施
			3	自他を尊重する心の育成	(1) 自尊感情・自己肯定感を高める取組
(2) 多様性を尊重する教育の推進	地域に暮らす全ての人が、お互いの人権を尊重し、個性を認め合いながら安心してともに暮らすことができるよう、多様な性の在り方に対する理解や多文化共生、ノーマライゼーション等に向けて取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現や働き方改革に取り組みます。	101 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（福祉体験等） 102 中高一貫教育推進事業（総合学習、探究活動） 103 多文化共生推進事業【参考】 104 男女共同参画推進事業【参考】			
(3) いじめを許さない学校を目指した取組	子供、教職員、保護者、地域が、いじめに対する共通認識を持ち、いじめは絶対に許されないという規範意識を醸成し、いじめの未然防止を図ります。また、いじめの積極的かつ正確な認知に努め、早期対応につなげます。	105 いじめ対策生徒指導推進事業			
(4) 青少年のための健全育成の推進	家庭、地域、行政、関係機関が連携・協力し、青少年の健全育成を図ります。また、青少年が各自の意見や考えを共有する場や、教養や技術を身に付ける場を提供します。	106 青少年対策事業 107 青少年健全育成事業 108 二十歳の集い事業 109 青少年教育推進事業【再掲】 110 青年教育推進事業 111 ゆめとびら舟山運営管理経費 112 各種団体補助金 113 青少年教育センター運営事業【再掲】			

節	項	目	施策の方向	主な事業等
2	4	(1) 感性を育む教育の推進	ア 自然や幅広い世代、地域との触れ合い 心を揺り動かすような豊かな生活体験や自然体験の充実を図るとともに、異年齢交流の機会や地域とのつながりの場を設けていきます。 また、幼児期の子供たちが、学齢期につながる資質・能力を育むために、異年齢交流の機会や地域とのつながりの場を設けます。	114 沼津市幼児教育研究協議会補助金（世代間・地域との交流の促進）
			イ 豊かな心の育成 道徳教育の充実を進め、豊かな体験を通じた心の育成や感性・情操を豊かにするための機会の創出を図ります。また、芸術文化に触れる機会を設け、豊かな心の育成を図ります。	115 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（交流活動等） 116 庄司美術館管理運営事業 117 若山牧水記念館管理運営事業 118 芹沢光治良記念館管理運営事業 236 中学校部活動改革推進事業
		(2) 読書を通じた心の育成	ア 本に親しむ 読み聞かせなど、家庭における読書習慣の確立を支援するため、市立図書館をはじめ、各地区センター図書室では、幅広いジャンルの図書を整備します。	119 図書館資料整備事業【再掲】 120 図書館電子化推進事業【再掲】 121 親子絵本ふれあい事業【参考・再掲】
			イ 読書習慣の確立 幼稚園・保育所等において、読み聞かせ等、読書に親しむ機会や読書環境の充実を図るとともに、家庭に向けて読書の大切さを啓発します。	122 言語教育による表現力・読解力育成事業（学校司書配置）【再掲】 123 地域、保育所、学校等との連携の強化【再掲】
			ウ 自ら本に手を伸ばす子供の育成 子供が本に親しむ時間を確保するため、年間計画における読書の時間を位置付け、学校図書館の授業等における活用を図ります。 また、発達段階や興味関心に合った本の整備など、学校図書館における環境の整備に努め、児童生徒の読書活動を支援します。	124 言語教育による表現力・読解力育成事業（学校司書配置）【再掲】
		(3) 自ら体験する	ア 五感を通じて学ぶ体験活動 子供たちに新たな気付きをもたらす五感を通じて学ぶ体験活動の充実を図るとともに、主体的に地域の行事やボランティア活動に参加しようとする態度を育みます。	125 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（主体的体験等）
			イ 創造力、探求心の育成 地域の教育資源を積極的に活用し、実際の自然、社会、文化、スポーツなど、五感を働かせて体験しながら学ぶ機会を創出します。また、地域の人と一緒に活動することや、働く人の様子を見聞きすること、音楽や芸術を鑑賞し感想を述べ合うことなど、多くの人と関わり合いながら学ぶ機会の充実を図ります。	126 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（主体的体験等）【再掲】 127 中高一貫教育推進事業（総合的探究活動）
		(4) 市民の芸術文化環境の充実	市民による自主的な芸術文化活動を促進し、市民が直接体験する機会を提供するとともに、練習や発表、鑑賞の機会の充実をめめます。また、沼津の文学風土に触れる機会を提供します。	128 芸術文化振興事業 129 まちなかコンサート開催事業 130 文学のまちづくり推進事業 131 魅力ある文化芸術発信事業
		(5) 人々に潤いを与える文化施設	質の高い音楽や舞台芸術を鑑賞する場としてだけでなく、目的に応じて使い分けが可能なホール機能を維持するとともに、日頃の芸術文化活動の場として利活用できる施設の充実を図ります。	132 市民文化センター管理運営事業
		(6) 地域特有の文化風土を生かした教育の推進	地域特有な文化風土を、後世に継承していくため、文化資源を収蔵展示する施設等においてイベントや企画展等を実施するなど、地域に根差したものとして学んでいく機会を提供します。	133 庄司美術館管理運営事業 134 若山牧水記念館管理運営事業 135 芹沢光治良記念館管理運営事業

節	項	目	施策の方向	主な事業等
3	1	(1) 体力の育成	幼児期から自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、自ら心身を鍛えられるよう、自発的な遊び・学びの確保に努めるとともに、授業や行事、部活動などの指導、家庭・地域社会との連携を通じて、子供たちの体力を育成します。	136 幼稚園運営管理事業【参考・再掲】 137 部活動推進事業 237 中学校部活動改革推進事業【再掲】
		(2) スポーツ機会の充実	健康の増進や体力の向上のため、ライフステージに応じたスポーツ機会の提供、高齢者や障害のある人などが参加しやすい環境の整備、スポーツを支える人材の育成・活用の充実を図ります。	138 部活動推進事業【再掲】 139 いきいきスポーツ推進事業【参考】 140 体力づくり教室運営事業【参考】 141 健康づくり推進事業【参考】 238 中学校部活動改革推進事業【再掲】
	2	(1) 健康教育の推進	市民の健康意識の向上を図り、自発的な健康づくりの取組を促進するとともに、健康に関する主体的な学習を積み重ねることにより、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培います。	142 学校保健会事業費交付金 143 薬学講座 144 学校保健関係事務経常経費 145 健康づくり推進事業【参考・再掲】 146 成人健康教育・相談事業【参考】
		(2) 健康な心と体を育む食育の推進	食育の推進を通して、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てます。	147 食育推進事業 148 学校給食衛生管理事業 149 地産地消研究事業 150 食育推進事業【参考】 151 食育や地産地消に関する事業【参考】 152 魚食普及・地産地消推進事業【参考】

第2章 地域総がかりで取り組む教育

節	項	目	施策の方向	主な事業等
1	1	(1) 地域学習の推進	地域の歴史や先人の働き等を学ぶことや、地域の課題を解決する過程を通して、郷土に対する愛着や誇りを育み、将来の地域社会を担う人材の育成につなげていきます。	153 郷土の歴史と偉人学習事業【再掲】 154 沼津の魅力発信推進事業【参考】
		(2) 郷土を学ぶ教育施設の充実	博物館等において、資料の収集・整理と適切な保管に努め、地域の成り立ちや暮らし、偉人の功績などを伝える貴重な資料を次世代に引き継ぎます。	155 歴史民俗資料館管理運営費(特別展・企画展開催事業)【再掲】 156 明治史料館管理運営費(企画展開催事業)【再掲】 157 戸田造船郷土資料博物館管理運営事業【再掲】
		(3) 文化財の保存・活用	国民共有の財産である史跡や天然記念物、有形文化財等については、後世に残していくために、適切な整備や管理、保存を進めます。また、史跡めぐりや体験学習、地域での出張展示など、歴史資源を活用して文化財に触れる機会を提供します。文化財の魅力などを市民に向け啓発することにより、文化財を守り、活用していく担い手の育成に取り組みます。	158 博物館所蔵古文書等調査整理事業【再掲】 159 史跡等保全整備事業 160 史跡等活用事業【再掲】
		(4) 地域史の活用	沼津市史や戸田村史の編さん過程で収集した資料などについて適切に保存管理し、調査研究の成果を市民に提供するなど活用を図ります。また、歴史資料などを継続して収集するとともに、行政文書等について適切な保存に努めます。	161 地域史保存活用事業【再掲】 162 図書館資料整備事業(地域資料の情報提供)【再掲】

節	項	目	施策の方向	主な事業等
1	2	(1) 家庭の教育力の向上	ア 家庭教育の推進と子育てネットワークの構築 妊娠・出産、子育てに関する相談事を受け止める体制の充実や、講演会や座談会の開催等を通じ、子育てに関する悩みの共有と軽減を図り、保護者同士の横のつながりの構築と、家庭の教育力の向上を図ります。	163 社会教育振興事業（自信がもてる子育て講座・家庭教育講座支援事業・家庭教育支援チーム出前講座） 164 家庭児童相談事業【参考・再掲】 165 児童虐待防止対策事業【参考】 166 地域子育て支援事業【参考】 167 母子教育相談・乳幼児健康診査事業【参考】
			イ 保護者による活動の充実 保護者による活動の充実を図るため、保護者団体の活動を支援します。	168 社会教育振興事業（家庭教育講座支援事業） 169 沼津市PTA連絡協議会運営費補助事業
		(2) 地域の教育力の向上	地域の多様な主体が協力し、親子の育ちを応援することや充実した時間を過ごすための環境づくりを推進します。また、地域行事への参加やボランティア活動など、地域社会との関わりを通して、子供たちがこれからの時代に必要な力や、地域への愛着や誇りを育むことができるよう、地域が人を育て、人が地域をつくる循環の実現を図り、地域の発展の担い手となる人材の育成に努めます。	170 地域子育て支援事業【参考・再掲】 171 青少年を健やかに育てる会運営費補助金 172 地域コミュニティ事業【参考】
		(3) 学校と地域との連携・協働の推進	コミュニティ・スクールの導入等により、学校、家庭、地域が当事者意識を持ち、目標やビジョンを共有しながら、能動的に学校運営に参画する、地域総がかりの体制づくりを推進します。	173 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（コミュニティ・スクールの推進） 174 生涯学習推進事業（地域学校協働本部設置） 175 子どもの居場所づくり推進事業【参考】
2	1	(1) 学びの場と機会の充実	ア 地域に根ざした学習活動の推進 地域住民のニーズを適切にきみ取りつつ、地域の自主性・主体性を生かし、地域に密着した学習活動を推進します。また、地域における学習活動を推進する人材の育成に努めます。	180 生涯学習推進事業（生涯学習地域推進員育成・各講師派遣・さんさん学習フェスティバル） 239 中学校部活動改革推進事業【再掲】
			イ 高齢者の生涯学習の推進 高齢者が、生きがいのある明るく健康的な社会生活を送ることができるための学びの場を提供します。また、地域の中で知識・技術・経験を生かせる場を提供します。	181 社会教育振興事業（高齢者学級） 182 生涯学習推進事業（まちな識者）
			ウ 障害のある人の生涯学習の推進 障害のある人が、いつでも気軽に生涯学習に参加できる環境の整備と、情報の発信に努めます。	183 社会教育振興事業 184 市民大学開設事業 185 生涯学習推進事業
			エ 図書館を活用した生涯学習の推進 何歳になっても市民が学び続けることができるよう、所蔵資料を充実させるとともに、地域の情報の拠点として様々な情報発信に努めます。 また、まちづくり、産業振興、健康・福祉など多様な分野と連携を図り、地域の活性化につなげます。	186 図書館資料整備事業【再掲】 187 図書館電子化推進事業【再掲】 188 地域、保育所、学校等との連携の強化【再掲】

節	項	目	施策の方向	主な事業等
2	1	(2) 生涯にわたって親しむスポーツの充実	ア スポーツ活動の推進 スポーツに親しみ、関心を寄せ、習慣化を図ることができる環境を整えます。また、各種スポーツ大会を支援するとともに、指導者の育成支援に努め、競技スポーツの人口の拡大や競技力の向上を図ります。	189 スポーツ振興事業【参考】 190 アスリート連携事業【参考】 191 沼津サイクルツーリズム推進事業【参考】 192 アスクラロ沼津ホームタウン推進事業【参考】 193 フェンシングのまち沼津推進事業【参考】
			イ スポーツ施設の整備 既存施設の適切な維持・管理や計画的な改修とともに、利用者の需要等に応じて施設の整備充実を図ります。	194 屋外運動場夜間照明施設整備事業【参考】 195 社会体育施設運営事業【参考】 196 新屋内温水プール整備事業【参考】 197 総合体育館整備事業【参考】
			ウ スポーツ環境の整備・充実 関係団体との連携を強化し、ニーズに合った支援に取り組みます。また、関係団体との連携をとりながら、指導者育成の支援、ボランティアが活動できる場や情報の提供などを通じて、スポーツ活動を支える人材の育成や活動の充実を図ります。	198 いきいきスポーツ推進事業【参考・再掲】 199 スポーツ関係団体補助金【参考】
	2	(1) 幼稚園・保育所・認定こども園等の連携	子供的生活や発達の連続性を踏まえ、教育・保育を一体的に捉えた幼稚園・保育所・認定こども園相互間の連携、さらに行政、関係機関等との連携を図ります。	200 沼津市幼児教育研究協議会補助金（園間の連携）
			(2) 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 各園等と小学校が、組織的・継続的な情報交換に努めるとともに、幼児期から学齢期における発達の流れの理解を図ります。	201 幼保小連携協議会
	3	(1) 切れ目ない支援の充実	障害のある子供とその家族が、子供の状況に応じた専門的な支援を受け、安心・安定した生活を送ることができるよう、個々のケースに合わせて的確に対応するとともに、関係機関が連携し、各ライフステージに応じた切れ目ない支援の充実を図ります。	202 多様な保育サービス事業【参考】 203 児童発達支援センター運営費【参考】 204 就学支援事業 205 母子教育相談・乳幼児健康診査事業【参考・再掲】
			(2) 多様なニーズへの対応	ア 外国人児童生徒等への支援 外国人児童生徒等の困り感に寄り添い、日本語学習や日本語による教科等の学習への支援を行うとともに、保護者や指導者に対し、適切な支援を行います。
		イ 特別支援教育の充実 子供や家庭に寄り添い、個に応じた教育的ニーズを踏まえた効果的な指導が行えるよう、関係機関等と連携した体制づくりに取り組みます。 また、障害のある子供とない子供がともに学び、互いを尊重し合う心を育むインクルーシブ教育システムを推進します。	207 特別支援教育推進事業 208 就学者介助費用補助事業	
		ウ 不登校の子供への支援 不登校の未然防止に向けて、魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校の早期発見、早期対応に努めます。また、不登校児童生徒に寄り添いつつ、必要に応じて関係各課及び外部機関と連携する中で、児童生徒の社会的自立を図ります。	209 教育相談推進事業 210 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（教育相談）	
		エ 性的マイノリティの子供へのきめ細やかな対応 SOGI・性的マイノリティの子供と他の子供それぞれへの配慮の均衡を図りながら、学校生活を送る上での適切な支援を図ります。	211 SDGs教育推進事業 212 男女共同参画推進事業【参考】	

節	項	目	施策の方向	主な事業等
2	3	(3) 教育相談の充実	関係者が十分に連携しながら、悩みを抱えた子供や保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、専門家による助言を行うなど、学校以外でも相談できる体制を整えます。	213 学校教育・家庭教育「地域総がかり」推進事業（教育相談）【再掲】 214 教育相談推進事業【再掲】
		(4) セーフティネットの充実	学校を子供の貧困対策の要として位置付け、貧困家庭の子供たちを早期に生活支援や福祉制度につなげていくことができるよう、学校、行政、各福祉機関等の支援ネットワークの連携強化を図ります。また、深刻化する児童虐待を早期に発見できるように、学校体制を整えます。	215 居場所づくりコーディネーター事業（令和4年度から）【参考】 216 児童虐待防止対策事業【参考】
3	1	自分らしいライフスタイルを実現できるまちづくりとの連携	市民が地域資源等について学べる機会やまちづくりについて子供たちとともに考える機会の創出、お互いの人権を尊重し、個性を認め合う教育を推進します。また、働き方改革の推進や、地域における交流拠点や子育てをサポートする場としての学校施設の活用など、教育を取り巻く環境の充実を図ります。	217 沼津の魅力発信推進事業【参考・再掲】 218 多文化共生推進事業【参考・再掲】 219 男女共同参画推進事業【参考・再掲】 220 公民連携リノベーションまちづくり推進事業【参考】
		地域の宝を活かすまちづくりとの連携	学校の授業等において、本市のスポーツや伝統的な地域の祭り、歴史・文化資源等の活用を図り、郷土の魅力への気付きや興味、関心を喚起し、地域への愛着を育むとともに、認知度向上につなげます。	221 沼津の魅力発信推進事業【参考・再掲】 222 沼津の魅力満喫事業【参考】 223 まちなみ景観形成推進事業（景観まちづくり学習）【参考】 224 沼津サイクルツーリズム推進事業【参考・再掲】 225 アスルクラロ沼津ホームタウン推進事業【参考・再掲】 226 フェンシングのまち沼津推進事業【参考・再掲】
	3	安全・安心のまちづくりとの連携	子供から高齢者まで市民一人一人の防災意識を高めるとともに、学校、家庭、地域、関係機関の連携により通学路の点検や登下校の指導を実施するなど、交通事故や犯罪から市民の命を守るための交通安全意識や防犯意識の向上を図ります。	227 防災訓練事業【参考・再掲】 228 交通安全父母の会連合会補助事業【参考・再掲】 229 交通安全推進事業【参考・再掲】 230 防犯まちづくり事業【参考・再掲】
		4	環境と共生する持続可能なまちづくりとの連携	学校教育における様々な機会を捉えた環境教育・学習の推進や、環境保全意識の醸成を図るとともに、市民一人一人が日常生活と環境との関わり方について理解を深め、持続可能な社会の構築を目指して、自主的かつ積極的な環境の保全や美化活動への取組を推進します。

総合教育会議

平成27年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、すべての地方公共団体に総合教育会議が設置されることとなった。

本市においても、「沼津市総合教育会議」を設置し、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して教育行政に取り組んでいる。

会議における協議・調整事項

- (1) 市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定（P11に掲載）
- (2) 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策
- (3) 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

令和4年度は、「地域総がかりで取り組む教育」に関連する、学校規模・学校配置の適正化、コミュニティ・スクール、部活動の地域移行の3つをテーマとした会議を1回開催した。その後、同一テーマで、地域住民を対象に「地域教育懇話会」を全ての中学校区単位で開催し、説明及び意見交換等を行った。

学校規模・学校配置の適正化

本市では、平成29年に「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定し、児童生徒にとってよりよい教育環境の整備及び教育の質の更なる充実を図るために、学校規模・学校配置の適正化に取り組んでいる。少子高齢化やグローバル化等の進展により子供たちを取り巻く状況が変化しても、持続的で魅力ある学校教育が実施できるよう、学校の配置や学校間の連携等についての検討も必要である。

また、学校は教育の場であるとともに地域交流の拠点であることから、地域の実情に応じたきめ細やかな分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校統合や小中一貫校化の適否について考えていく。

令和4年度は、児童生徒数に関する小中学校区別人口推計調査を実施し、ホームページ上での公表や令和4年12月から令和5年3月にかけて開催した「地域教育懇話会」を通じ、適正化に向けた基本的考え方も含めて地域住民に周知した。

郷土への理解

沼津市は、恵まれた自然環境と地理的条件によって古くから発展し、多くの偉人を輩出している。また、風光明媚、気候温暖な土地柄もあり、訪れたり、定住したりした、沼津とゆかりのある数多くの偉人もおり、その活動の軌跡が残されている。

郷土とその歴史を知り、親しむことは、郷土愛を育むとともに生涯を豊かなものとする。市民が接する機会の提供や情報の発信に取り組んでいる。

教育財政

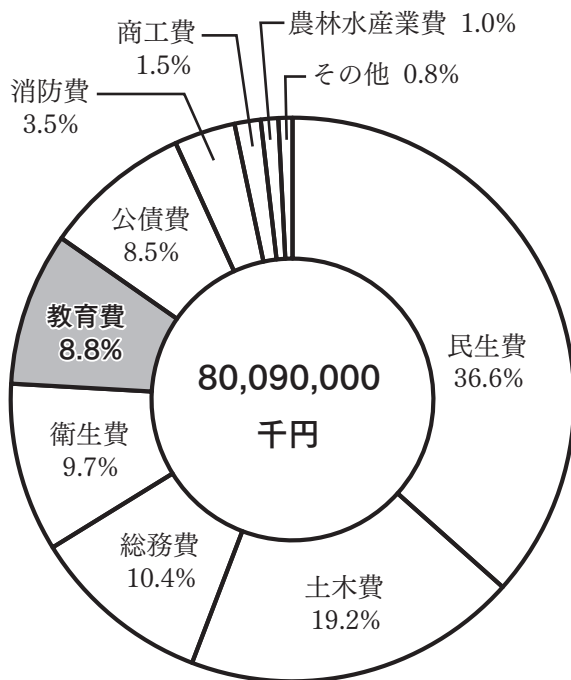
令和5年度教育予算（当初予算）は70億5,667万6千円で、前年度比15.8%、9億6,392万4千円の増となり、一般会計予算に占める割合は、8.8%と前年度の7.8%を1.0ポイント上回った。

教育費を費目別にみると、学校営繕・改修事業等の小・中学校費が21億1,139万5千円（前年度比3億8,281万1千円増）、市立高校の学校管理に係る高等学校費が6億6,348万2千円（前年度比7,685万3千円増）で、合わせて教育費の39.3%を占めている。

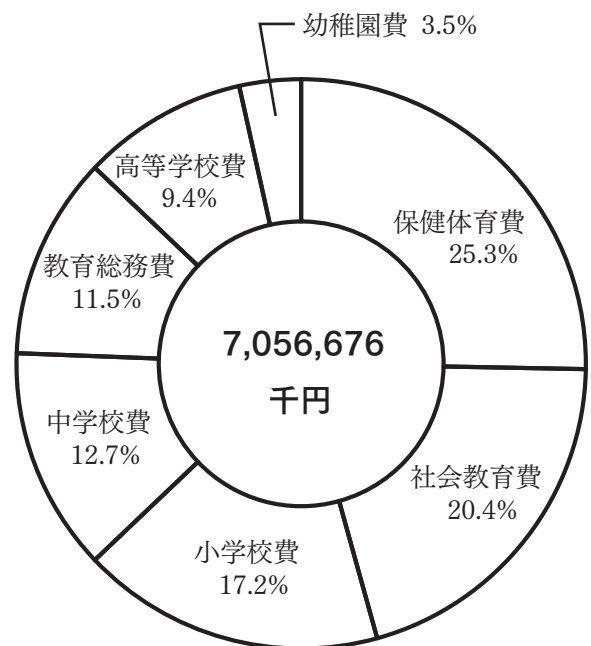
教育費の25.3%を占める保健体育費は17億8,203万2千円（前年度比3億9万5千円増）で、学校保健体育費、体育施設費などが主なものである。また、教育費の20.4%を占める社会教育費は、14億3,824万円（前年度比2億942万8千円増）で、史跡等保全整備事業等の文化財保護費、図書館運営にかかる図書館費、市民文化センター運営にかかる市民文化センター費、青少年健全育成事業等の青少年対策費などが主なものである。このほか、教育総務費は8億1,550万5千円（前年度比488万2千円増）、幼稚園費は2億4,602万2千円（前年度比1,014万5千円減）となっている。

令和5年度の予算執行に当たっては、教育大綱や教育基本構想の理念の下、効率的かつ計画的な事業運営と事務効率化による経費削減に努めるとともに、「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を基本とする施策の展開を図っていく。

1. 令和5年度一般会計歳出予算と教育費予算



〔一般会計〕



〔教育費〕

2. 令和5年度教育費予算内訳

(単位：千円)

	項 目	金 額	左のうち人件費	所 管
教 育 総 務 費	1. 教育委員会費	4,163	3,279	教育企画課
	2. 事務局費	567,638	555,039	教育企画課、学校管理課
	3. 育英奨学費	4,696	16	学校管理課
	4. 学校指導費	238,887	2,474	教育企画課、学校教育課、 教職員研修センター
	5. 言語障害指導費	121		学校教育課
	小 計	815,505	560,808	
小 学 校 費	1. 学校管理費	1,081,544	132,695	学校管理課
	2. 教育振興費	74,144		学校管理課
	3. 特別支援学級費	6,584		学校管理課、学校教育課
	4. 学校建設費	50,000		学校管理課
	小 計	1,212,272	132,695	
中 学 校 費	1. 学校管理費	661,527	85,635	学校管理課、市立高
	2. 教育振興費	82,200		学校管理課
	3. 特別支援学級費	5,596		学校管理課、学校教育課
	4. 学校建設費	149,800		学校管理課
	小 計	899,123	85,635	
高 等 学 校 費	1. 学校管理費	663,482	481,482	市 立 高
	小 計	663,482	481,482	
幼 稚 園 費	1. 幼稚園費	56,871	47,875	子育て支援課
	2. 教育振興費	189,151		学校教育課、子育て支援課
	小 計	246,022	47,875	

(単位：千円)

	項 目	金 額	左のうち人件費	所 管
社 会 教 育 費	1. 社会教育総務費	221,035	218,757	生涯学習課
	2. 社会教育振興費	11,985		文化振興課、生涯学習課
	3. 青少年対策費	157,906	125,917	生涯学習課、子育て支援課
	4. 図書館費	471,274	189,418	図書館
	5. 文化振興費	67,152		文化振興課
	6. 文化財保護費	99,306	164	文化振興課
	7. 自然体験施設費	5,441	55	生涯学習課
	8. 博物館費	120,755	58,508	文化振興課
	9. 市民文化センター費	283,386	110	文化振興課
	小 計	1,438,240	592,929	
保 健 体 育 費	1. 保健体育総務費	307,068	299,928	学校管理課
	2. 学校保健体育費	961,403	32,932	学校管理課、学校教育課、 子育て支援課
	3. 社会体育費	106,222	70,573	生涯学習課、ウイズスポーツ課
	4. 体育施設費	407,339	14,957	ウイズスポーツ課
	小 計	1,782,032	418,390	
合 計		7,056,676	2,319,814	

○人口1人当たりの教育費

(単位：円・人)

区 分 \ 年 度	R 2 (決算)	R 3 (決算)	R 4 (当初予算)	R 5 (当初予算)
教 育 費	7,480,121,243	5,896,524,233	6,092,752,000	7,056,676,000
人 口(4月1日現在)	194,207	192,644	190,417	188,613
1人当たり教育費	38,516	30,608	31,997	37,414

○児童1人当たりの小学校費

(単位：円・人)

区 分 \ 年 度	R 2 (決算)	R 3 (決算)	R 4 (当初予算)	R 5 (当初予算)
小 学 校 費	1,324,427,261	856,763,288	997,512,000	1,212,272,000
児 童 数(5月1日現在)	8,145	7,811	7,577	7,372
1人当たり小学校費	162,606	109,687	131,650	164,443

○生徒1人当たりの中学校費

(単位：円・人)

区 分 \ 年 度	R 2 (決算)	R 3 (決算)	R 4 (当初予算)	R 5 (当初予算)
中 学 校 費	1,190,424,789	563,407,050	731,072,000	899,123,000
生 徒 数(5月1日現在)	4,516	4,527	4,395	4,276
1人当たり中学校費	263,602	124,455	166,342	210,272

3. 学校施設建設事業費

年度 区分	R 2 (決算)	R 3 (決算)	R 4 (当初予算)	R 5 (当初予算)
小 学 校	—	—	—	50,000千円 校舎実施設計等 1 件 (第四小学校)
中 学 校	—	—	—	149,800千円 校舎実施設計等 4 件 (大岡中学校他)
高 校	—	—	—	—

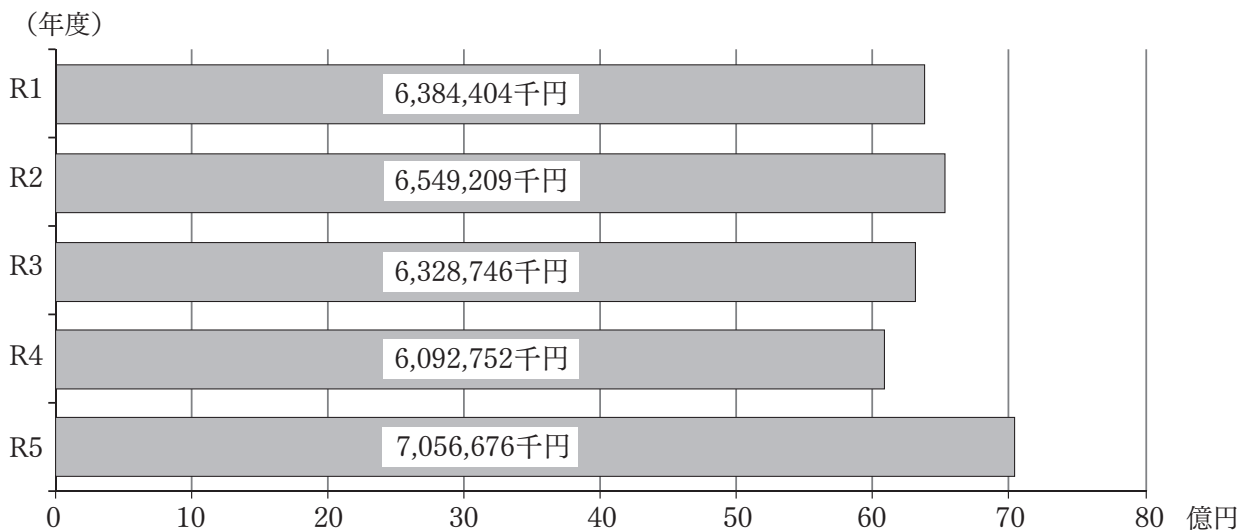
4. 年度別教育費の推移

○決算額の推移

(単位：円)

年度	市一般会計決算額 (A)	教 育 費 (B)	$\frac{(B)}{(A)}\%$	一世帯当たり教育費 (4月1日現在の世帯数による)
R 1	72,521,081,377	6,924,642,733	9.5	75,577
R 2	95,394,558,470	7,480,121,243	7.8	80,895
R 3	82,110,643,832	5,896,524,233	7.2	63,516
R 4	78,180,000,000 (当初予算)	6,092,752,000 (当初予算)	7.8	65,619
R 5	80,090,000,000 (当初予算)	7,056,676,000 (当初予算)	8.8	75,564

○当初予算額の推移



学校教育

1. 沼津市の特色ある教育

(1) 言語教育による表現力・読解力育成事業

沼津市は、平成18年度から市立小中学校（市立高中等部を除く。）で「読解の時間」と「英語の時間」からなる「言語科」を実施している。平成27年度には、10年間の成果と課題をもとに、目標や内容を見直した。既存の知識を習得するだけでは、これからの変化の激しい社会を生き抜くことは難しく、自ら課題を発見し、解決するための道筋を考え、周りの人たちと協働し最善の答えを見付け出していく力が求められている。そのため、子供たちが問いを発見し、自ら見通しを持ち、その解決を図る「学び」を積み重ねていくことが大切である。

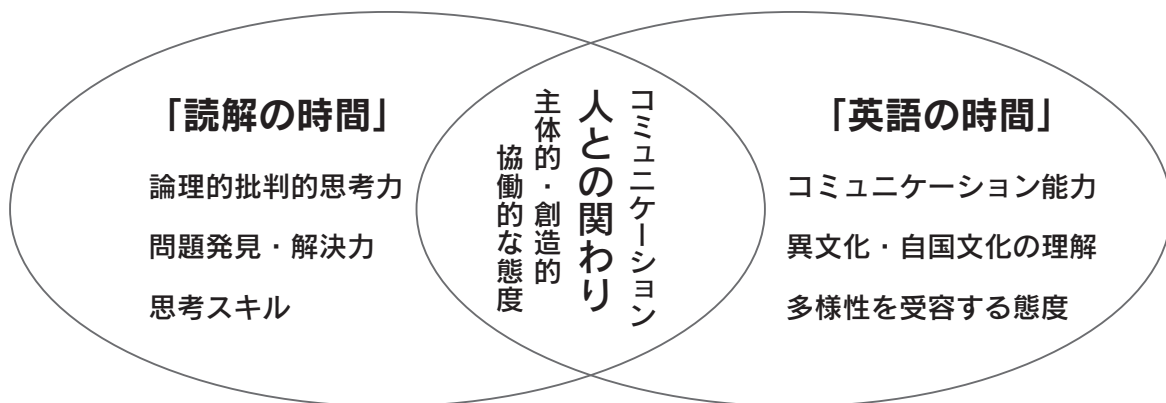
学校の教育活動全体

道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間 **実践力**

言語科 **思考力・発信力**

(教科横断的な資質・能力)

言語を用いて積極的に人と関わり、自分の持ち味、可能性を自覚し、自ら高めていこうとする態度や知識を活用する力を高め、変化の激しい社会やグローバル化された社会に対応することができる資質・能力を育成する。



教科・特別の教科 **道徳** **基礎力**

(言葉を用いて積極的に人と関わっていこうとする態度の育成)

① 「言語科」授業時間数

小学校1・2年生	小学校3・4年生	小学校5・6年生	中学校1年生	中学校2・3年生
年間35時間 (読解15・英語20)	年間50時間 (読解15・英語35)	年間30時間 (読解20・英語10)	年間35時間 (読解15・英語20)	年間55時間 (読解35・英語20)

② 「読解の時間」の取組内容

文章や資料などのテキストから、子供たちが課題を発見し、人と関わり合いながら解決に向かっていくプロセスを大切にし、思考力、判断力、表現力、発信力を高め、実践的な力へとつないでいく。

③ 「英語の時間」の取組内容

英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験し、コミュニケーション能力の素地を養うことや、初歩的な英語運用能力を養うことを目標に行っていく。そして、人との関わり合いを通じて違いに気づき、多様性を受容することを大切にし、グローバルマインドの涵養や実践的なコミュニケーション力など、英語力を養うことを通して高めていく。

④ 市独自の英語パフォーマンステストの実施

令和3年度の学習指導要領の改正により、筆記テストだけでなく、面接・スピーチ・エッセイ等の「パフォーマンス」評価を授業に取り入れ、筆記テストの結果に留まらない、言語を用いて何ができるかという観点からの多面的・多角的な評価を行っていくことが必要となった。

そこで、生徒が「言語科」で学び伸ばしてきた自らの英語力を確認するとともに、実生活に必要な実践的コミュニケーション能力を高めるため、令和4年度から、全市共通内容の下、生徒とALTが1対1で、1人1台端末(Chromebook)を経由したリスニング・スピーキングのテストを実施している。

本テストの結果は生徒自身の振り返りのため生徒にフィードバックするとともに、全中学校・全英語教員で結果を共有し、授業改善につなげていく。

(2) 「チーム学校」実現事業

地域性や学校の独自性を生かした特色ある教育活動を通して、小中学校の中期計画を達成するために、各学校が必要とする支援員の配置、地域交流の推進と外部人材の活用を図る事業を学校の要望に応じて支援する。これにより、「チーム学校」を実現し、児童生徒の教育の充実を図るとともに教員の執務時間を確保する。

① 支援員配置事業

ア 児童生徒支援員

通常学級、特別支援学級、通級指導教室、相談室、校外学習(泊を伴うものを除く。)等において、教員の支援及び校長が認める児童生徒との関わりや触れ合いを前提とした業務、教員の事務処理の補助、教育委員会が必要と認める業務を行う。

イ 図書館支援員(学校司書)

児童生徒に対する本の貸出・返却や、レファレンス、読書相談、ブックトーク等に関する業務をはじめ、蔵書の登録・分類・管理や環境整備に関する業務や、校長が認める読書活動の推進に関わる業務を行う。

ウ 外国人児童生徒支援員

帰国・外国人児童生徒及びその保護者に対して、学校生活や授業内容の習得、日本語学習等の支援を行い、日本での学校生活への適応を支援する。

エ 部活動指導員

中学校の部活動において、校長の監督を受け、部活動の顧問と連携協力して、実技指導や学校外での活動の引率等を行う。

オ 放課後学習支援員

授業だけでは学習内容の習得が十分ではない児童生徒や、より確かな学力を付けたい児童生徒に対して、放課後や長期休業等を活用し、きめ細かな学習支援を行い、学力の定着を図る。

カ 日本語学習支援員

学校の要請に基づき、日本語の理解の低い帰国・外国人児童生徒に対して、分かりやすい日本語を使って、日本語の初期指導や学習の状況に応じた学習支援を行う。

② 地域交流推進・外部人材活用事業

地域交流、体験学習、校外学習を推進する事業と、外部人材を活用する事業を実施して、教育内容の質の向上を図る。

ア 地域人材を活用した事業（イを含まない、資格や特殊技能を持たない人材の活用）

イ 地域人材を活用した体験学習事業（茶道、華道等資格や特殊技能を持つ人材の活用）

ウ 地域人材を活用した講演会事業

エ 地域の高校生を活用した交流事業

オ 校外学習支援事業

③ コミュニティ・スクール

小中一貫教育をベースにした地域総がかりの教育を推進するため、令和2年度から導入を開始した。令和4年度までに8つの中学校区（第五、大岡、片浜、静浦、第三、金岡、浮島、門池）に広がり、それぞれに「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」を設置し、学校と地域が連携・協力する仕組み作りをすすめている。

導入校区では、広報誌やホームページを通じた地域への積極的な情報発信、地域の住民や団体等と連携した清掃活動や花壇の整備、地域ボランティアによる放課後の補習学習の実施や授業支援等の成果がある。

令和5年度は市内の全ての中学校区でコミュニティ・スクールの導入を目指している。

※地域学校協働本部については、P65参照

(3) 沼津大志学習（沼津版キャリア教育）

未来を担う子供たちが、激しい社会の変化に対応していく能力や、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を身に付けるため、明確な目的意識を持って教育活動に取り組み、社会人・職業人として自立していくことを目指すキャリア教育の推進が求められている。そのため、沼津市では平成25年度に「沼津大志学習」の手引きを作成し、キャリア教育を推進してきた。

令和4年度には「沼津大志学習」の理念は変えずに、平成29年の学習指導要領の改訂と沼津市教育基本構想の実現とのつながりを意識して手引きの見直しをした。そして、「沼津大志学習2.0」として、目指す方向性をホームページで公開した。令和5年度は市内の学校の実践例の紹

介や、子供たちへ「沼津大志学習2.0」の周知を行っていく。

(4) 隣接校選択制度

小中学校入学時に、居住地のある通学区域の学校以外に、隣接する学校も選択できる隣接校選択制度を平成17年度から導入した。本制度の導入によって、通学区域の学校より近くに学校があっても、そこに通うことができないという通学距離の矛盾を解消できるなど一定の効果を収めたが、地域活動や災害時の対応に支障があるとの意見もあったことから、平成27年度新入生から距離による条件を加えるなど、運用の見直しを行った。

※ 通学区域については、P37、38参照

(5) 中高一貫教育

平成15年4月に沼津市立沼津高等学校に中等部が併設され、本年度21年目を迎え、令和5年3月には15期生が高校を卒業した。「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」という教育目標のもと、「あすへのゆめをみつけあゆみ続ける」を合い言葉に、中高一貫校として6年間を見通した系統的、継続的な教育を行っている。生徒の学力を向上させ、個性を伸ばす教育を展開し、「文・武・芸」の三道鼎立で人間力を磨き、沼津市及び県東部の様々な分野で活躍する志高いリーダーの育成を目指している。

※ 沼津市立沼津高等学校・中等部については、P53参照

(6) 小中一貫教育

沼津市では、平成15年度から4年間、県教育委員会及び文部科学省の指定を受け、第五地区（第五小・開北小・第五中）において小中連携の研究を行い、平成26年4月には、新築では県内公立校で初となる施設一体型小中一貫学校「静浦小中一貫学校」を開校し、小中一貫教育の研究を推進している。

これらの取組の成果を踏まえ、平成30年度からの2年間、全ての市立小中学校（市立高中等部を除く。）を研究指定校として、小中合同の会議・研修、中学校区単位での地域連携、小中乗り入れ授業等を各中学校区で行い、令和元年度からは全中学校区で併設型小・中学校として小中一貫教育を実施している。

また、令和3年4月には、「長井崎小中一貫学校」「戸田小中一貫学校」を新たに施設一体型小中一貫学校として開校している。

「義務教育9年間で子供を育てる」ことに重点を置き、沼津市教育基本構想に掲げる「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」の実現のために、義務教育9年間のゴールの姿を市立小中学校の全教職員で共有して教育活動に取り組むことを目指しており、令和4年11月には、静浦小中一貫学校において、9年間にわたる指定研究の本発表を行った。

(7) ICT活用教育

ICTの活用により、全ての児童生徒の可能性を引き出し、Society5.0時代において様々な社会の変化にも前向きに対応できる人づくりのための「個別最適な学び」「協働的な学び」「学びの継続」の実現に向けた取組を推進している。

① GIGAスクール構想の推進

- ア 沼津市学校教育におけるICT活用方針（N-GIGA）に基づく取組の推進
- イ 教職員のICT活用指導力向上に向けた研修の実施
- ウ 学校と家庭の学びをつなぐための端末持ち帰り
- エ 非常時にも学びを止めないための環境整備や体制構築
- オ 全市立小中学校におけるデジタル教科書の使用（文部科学省の実証事業による）
- カ ICT活用による児童生徒のスキル・リテラシー向上の評価
- キ 教員のICT活用指導力向上の評価

② 情報教育推進室の取組

- ア 教員のICT活用指導力向上に向けた取組の充実（ICT活用研修の開催、ネットワーク協議会の開催、校内研修のサポート、学校支援訪問の実施、ICT活用指導力調査等）
- イ 校務の効率化の推進（校務支援ソフトの活用等）
- ウ 授業等で活用できるサイトや資料の紹介、好事例や教材等の共有等
- エ ICT環境の整備・充実
- オ セキュリティ・ポリシー（ICT活用ガイドラインを含む）の周知
- カ 広報活動
- キ 教職員研修センターとの連携ほか

2. 市立小・中学校一覧表

[小 学 校]

令和5年5月1日現在

学 校 名	創 立 年 月	所 在 地	児 童 数	学 級 数	教 職 員 数	電 話 / FAX
第一小学校	明治元年9月	沼津市八幡町65番地の1	235	12	26	962-0351 962-0321
第二小学校	明治6年9月	沼津市常盤町2丁目32番地	109	6	25	962-0352 962-9533
第三小学校	明治19年10月	沼津市下香貫下障子3157番地の2	267	12	21	931-0353 931-0352
第四小学校	昭和2年11月	沼津市御幸町4番1号	429	18	43	931-0354 931-0367
第五小学校	昭和13年4月	沼津市米山町9番1号	367	14	36	921-0355 921-0356
開北小学校	昭和32年4月	沼津市高沢町17番1号	338	13	35	921-4041 921-4042
千本小学校	昭和19年4月	沼津市本字千本1910番地の19	56	6	20	962-0356 962-5408
片浜小学校	明治6年7月	沼津市大諏訪41番地	313	14	30	962-0357 951-1483
金岡小学校	明治19年4月	沼津市江原町3番1号	655	26	40	921-1371 921-1370
大岡小学校	明治7年11月	沼津市大岡2358番地	404	16	33	921-1885 921-1991
静浦小中一貫学校 (静浦小学校)	平成26年4月 (明治19年4月)	沼津市獅子浜17番地	125	8	28	931-3017 931-3672
愛鷹小学校	明治8年9月	沼津市西椎路673番地の1	575	19	47	966-4244 966-4257
大平小学校	明治23年4月	沼津市大平2200番地	147	7	19	931-5020 931-5454
長井崎小中一貫学校 (長井崎小学校)	令和3年4月	沼津市内浦重須453番地	62	6	23	941-3111 941-3112
原小学校	明治6年3月	沼津市原1200番地	496	21	40	966-0034 966-0040
浮島小学校	明治18年8月	沼津市平沼811番地	196	7	19	966-2004 966-2549
香貫小学校	昭和45年4月	沼津市下香貫猪沼986番地	430	16	33	931-1234 931-1233
門池小学校	昭和47年4月	沼津市岡一色88番地の2	874	31	53	922-1481 922-1482
今沢小学校	昭和48年4月	沼津市東原字榎田通76番地の1	327	18	33	966-5522 966-5523
沢田小学校	昭和54年4月	沼津市中沢田字円丸715番地	302	12	29	924-0161 924-0162
原東小学校	昭和56年4月	沼津市大塚814番地の1	198	7	26	967-1213 967-1214
大岡南小学校	昭和57年4月	沼津市大岡字原田1312番地	435	16	37	962-0355 962-7644
戸田小中一貫学校 (戸田小学校)	令和3年4月 (昭和22年4月)	沼津市戸田883番地の1	32	6	26	0558-94-3028 0558-94-3841
計			7,372	311	722	

(教職員数は、市の事務員・栄養士・用務員ほかを含む。兼務者を含む。)

[中 学 校]

令和5年5月1日現在

学 校 名	創 立 年 月	所 在 地	生徒数	学級数	教職員数	電話/FAX
第一中学校	昭和22年4月	沼津市丸子町692番地の1	141	7	23	962-1551 962-1541
第二中学校	昭和22年4月	沼津市本字千本1910番地の19	96	4	17	962-1552 962-2118
第三中学校	昭和22年4月	沼津市下香貫木ノ宮888番地	432	16	32	931-1553 931-1552
第四中学校	昭和22年4月	沼津市本郷町24番1号	245	10	26	931-1554 931-1586
第五中学校	昭和22年4月	沼津市五月町15番1号	409	13	33	921-1555 921-4099
片浜中学校	昭和22年4月	沼津市小諏訪180番地	180	7	22	962-1556 962-1730
金岡中学校	昭和22年4月	沼津市神田町4番1号	530	20	42	921-1558 921-1990
大岡中学校	昭和22年4月	沼津市大岡2110番地	430	15	37	921-1557 921-2622
静浦小中一貫学校 (静浦中学校)	平成26年4月 (昭和22年4月)	沼津市獅子浜17番地	81	4	32	931-3017 931-3672
愛鷹中学校	昭和22年4月	沼津市西椎路733番地	284	9	29	966-4229 966-4271
大平中学校	昭和22年4月	沼津市大平1144番地	72	3	19	931-5021 931-5029
長井崎小中一貫学校 (長井崎中学校)	令和3年4月 (昭和56年4月)	沼津市内浦重須453番地	54	3	27	941-3111 941-3112
原 中 学 校	昭和22年4月	沼津市原576番地	334	13	30	966-0138 966-1612
浮島中学校	昭和22年4月	沼津市平沼849番地	96	3	18	966-2040 967-1404
今沢中学校	昭和50年4月	沼津市東原字下方通289番地の1	237	13	36	966-9981 966-9982
門池中学校	昭和50年4月	沼津市岡一色657番地の1	387	14	30	923-3900 923-3963
市立高等部	平成15年4月	沼津市三枚橋字鐘突免673番地	240	6	34	924-8000 921-7313
戸田小中一貫学校 (戸田中学校)	令和3年4月 (昭和22年4月)	沼津市戸田883番地の1	28	4	27	0558-94-3028 0558-94-3841
計			4,276	164	514	

(教職員数は、市の事務員・栄養士・用務員ほかを含む。兼務者を含む。)

小・中学校児童生徒数及び学級数

令和5年5月1日現在

校 種	学校数	児 童 生 徒 数			学級数
		男	女	計	
小学校	23校	3,741	3,631	7,372	311
中学校	18校	2,183	2,093	4,276	164
計	41校	5,924	5,724	11,648	475

(学級数は特別支援学級を含む。)

3. 通学区域一覽表

中学校校区	小学校校区	通 学 区 域
第 一 中	第 一 小	幸町（一部）、浅間町（一部）、本白銀町、白銀町、末広町、添地町、西条町、上土町、本錦町、本丸子町、錦町、丸子町、八幡町、市道町（一部）、真砂町、町方町、本字下中溝、大手町一丁目（一部）、大手町二丁目、大手町三丁目、大手町四丁目、大手町五丁目、東間門（一部）
第 二 中	第 二 小	仲町、浅間町（一部）、魚町、通横町、鵬町、新町、本町、下本町、大門町、東宮後町、旭町、下小路町、宮町、春日町、蓼原町、蛇松町、本蛇松町、下河原町一丁目、下河原町二丁目、下河原町三丁目、下河原町、本字下一丁田、本字千本郷林、本字千本（一部）、本字郷林添、千本常盤町、本字松下七反田、千本港町、本字千本港口、千本東町、千本西町、千本中町、本字前田、常盤町一丁目、常盤町二丁目、常盤町三丁目、千本緑町一丁目、千本緑町二丁目、千本緑町三丁目、幸町（一部）
	千 本 小	本字千本（一部）、本松下、本西松下、松下町、西間門三丁目、西間門（一部）、東間門一丁目、東間門二丁目、東間門三丁目、東間門（一部）、市道町（一部）、真砂町（一部）
第 三 中	第 三 小	我入道秋葉町、我入道外新田、我入道稻荷町、下香貫牛臥、下香貫山宮前、我入道江川、我入道南条寺、下香貫塩場、下香貫前原（一部）、下香貫浜田、下香貫善太夫、下香貫上障子（一部）、下香貫下障子（一部）、善太夫西原、我入道津島町、下香貫島郷、下香貫塚田（一部）、下香貫大久保（一部）、下香貫柿原、我入道浜町、我入道八間割、我入道蔓陀ケ原、我入道浜方、我入道林町、我入道東町、我入道一本松町、下香貫汐入（一部）、下香貫樋ノ口（一部）、上香貫蔓陀ケ原、西島町（一部）、上香貫三貫地、上香貫槇島町（一部）
	香 貫 小	下香貫石原、下香貫藤井原、下香貫矢丸、下香貫木ノ宮、下香貫前角、下香貫猪沼、下香貫前原（一部）、下香貫上障子（一部）、下香貫下障子（一部）、下香貫塚田（一部）、下香貫大久保（一部）、下香貫清水、下香貫馬場、下香貫西村、下香貫上ノ原、下香貫給田、下香貫塩満、下香貫七面、下香貫林ノ下、下香貫汐入（一部）、下香貫樋ノ口（一部）、下香貫宮脇（一部）、下香貫宮原（一部）、下香貫山ノ根、下香貫八重、下香貫八重原、下香貫楊原、下香貫六反、下香貫外原、上香貫二瀬川町（一部）、上香貫九十九洞、上香貫八重、上香貫坂口、上香貫鉛山、上香貫長洞（一部）、上香貫東坂、上香貫仰天峰、上香貫三ノ洞、上香貫手城山、香貫が丘
第 四 中	第 四 小	市場町、上香貫長洞（一部）、上香貫切通、住吉町、三園町、玉江町、上香貫東本郷町、上香貫槇島町（一部）、上香貫宮原町、上香貫獅子路、上香貫一ノ洞、上香貫二ノ洞、山ヶ下町、本郷町、上香貫三園町、南本郷町、中原町、上香貫南本郷町、御幸町、吉田町、中瀬町、黒瀬町、上香貫二瀬川町（一部）、下香貫宮脇（一部）、下香貫宮原（一部）、西島町（一部）
第 五 中	第 五 小	泉町、庄栄町、山王台（一部）、三枚橋町、杉崎町、新宿町、三枚橋杉崎町、平町、三枚橋荒田、三枚橋竹ノ岬（一部）、三枚橋日ノ出町、日の出町、富士見町、三芳町、米山町、五月町、北高島町（一部）、大岡〔自由ヶ丘（一部）、高田（一部）、竹ノ岬（一部）、大岡団地（一部）、日吉（一部）、泉町（一部）、富士町（一部）〕、大手町一丁目5番
	開 北 小	高島町、高沢町、高島本町、双葉町、本田町、寿町（一部）、北高島町（一部）、沼北町一丁目、沼北町二丁目、西沢田（一部）

中学校校区	小学校校区	通 学 区 域
片 浜 中	片 浜 小	大諏訪、小諏訪、西間門（一部）、西間門一丁目、西間門二丁目、松長
金 岡 中	金 岡 小	神田町、寿町（一部）、沢田（一部）、高尾台、筒井町、中沢田（一部）、西熊堂（一部）、東熊堂（一部）、松沢町、岡宮（一部）、柳町、豊町、足高、江原町、沢田町、若葉町、花園町（一部）
	沢 田 小	沢田（一部）、新沢田町、駿河台、高砂町、中沢田（一部）、西熊堂（一部）、西沢田（一部）、東沢田、東熊堂（一部）
大 岡 中	大 岡 小	三枚橋竹ノ岬（一部）、大岡〔石田ヶ丘（一部）、駅前町、自由ヶ丘（一部）、上石田（一部）、木瀬川（一部）、平和郷（一部）、下石田（一部）、仙岳町、太田町、高田（一部）、竹ノ岬（一部）、富士通、中石田、富岳町、富士町（一部）、沼平町、日吉（一部）、大岡団地（一部）〕、泉町（一部）、岡一色（一部）
	大 岡 南 小	大岡〔石田ヶ丘（一部）、木瀬川（一部）、平和郷（一部）、下石田（一部）、日吉（一部）、大岡団地（一部）〕、山王台（一部）
静 浦 中	静 浦 小	江浦、獅子浜、多比、口野、志下、馬込
愛 鷹 中	愛 鷹 小	青野（一部）、鳥谷、西椎路、東原、東椎路、宮本、柳沢（一部）
大 平 中	大 平 小	大平
長 井 崎 中	長 井 崎 小	内浦〔小海、重須、重寺、長浜、三津〕、西浦〔足保、江梨、木負、久連、久料、古宇、河内、立保、平沢〕
原 中	原 小	原〔新田、西町、東町（一部）、一本松、六軒町〕、植田、西添町、桃里、一本松、根古屋（ニュータウン原）、原町中一丁目、原町中二丁目、原町中三丁目
	原 東 小	大塚（一部）、原〔東町（一部）〕、青野（一部）、柳沢（一部）
浮 島 中	浮 島 小	根古屋（ニュータウン原を除く。）、井出、平沼、石川
門 池 中	門 池 小	共栄町、北園町、岡一色（一部）、花園町（一部）、宮前町、緑ヶ丘、岡宮（一部）、大岡〔上石田（一部）、北小林、南小林、柏葉尾〕、小林台
今 沢 中	今 沢 小	今沢、北今沢、大塚（一部）
戸 田 中	戸 田 小	戸田、井田

※（一部）については、多校区に属するため、住所により異なる。

※なお、翌年度の小・中学校入学該当者（幼稚園、保育園の年長児等・小学校6年生）及び市外からの転入者並びに通学区域を異にする転居をした者等のうち、条件を満たす者については、隣接する通学区域の学校を選択することができる。

4. 学校施設

[小 学 校]

令和5年5月1日現在 (単位：㎡)

校舎等の現況						学校名	校地の現況			
屋内運動場			校舎				運動場	校舎敷地その他	合計	プール 形個数
木造	非木造	合計	木造	非木造	合計					
	1,109	1,109		5,859	5,859	第一小学校	11,815	9,324	21,139	25m 小 1
	1,382	1,382		6,084	6,084	第二小学校	12,251	6,665	18,916	25m 小 1
	981	981		7,728	7,728	第三小学校	8,748	10,174	18,922	25m 小 1
	1,062	1,062		6,772	6,772	第四小学校	6,960	10,606	17,566	25m 小 1
	938	938		7,596	7,596	第五小学校	8,639	10,264	18,903	25m 1
	875	875		6,211	6,211	開北小学校	9,092	6,064	15,156	25m 1
	823	823		4,362	4,362	千本小学校	4,628	5,587	10,215	25m 1
	1,472	1,472		6,597	6,597	片浜小学校	10,146	13,131	23,277	25m 小 1
	1,241	1,241		8,076	8,076	金岡小学校	10,220	12,512	22,732	25m 小 1
	1,043	1,043	16	6,175	6,191	大岡小学校	10,220	11,484	21,704	25m 小 1
	1,100	1,100		7,983	7,983	愛鷹小学校	11,436	14,733	26,169	25m 1
	720	720	23	4,248	4,271	大平小学校	13,250	6,655	19,905	25m 小 1
	1,097	1,097		7,353	7,353	原小学校	10,500	16,444	26,944	25m 1
	1,156	1,156		3,861	3,861	浮島小学校	11,383	4,366	15,749	25m 1
	924	924		6,500	6,500	香貫小学校	15,700	12,820	28,520	25m 小 1
	913	913		8,224	8,224	門池小学校	10,900	7,956	18,856	25m 小 1
	932	932		6,584	6,584	今沢小学校	21,039	9,885	30,924	25m 1
	1,146	1,146		6,147	6,147	沢田小学校	9,157	8,806	17,963	25m 小 1
	1,242	1,242		6,245	6,245	原東小学校	10,272	12,804	23,076	25m 1
	1,112	1,112		6,603	6,603	大岡南小学校	12,586	11,387	23,973	25m 小 1
	21,268	21,268	39	129,208	129,247	合計	218,942	201,667	420,609	25m20 小 12
	100.00	100.00	0.03	99.97	100.00	率 (%)	52.05	47.95	100.00	

[中 学 校]

令和5年5月1日現在 (単位：㎡)

校 舎 等 の 現 況						学 校 名	校 地 の 現 況			
屋 内 運 動 場			校 舎 (部室含む)				運 動 場	校 舎 敷 地 其 他	合 計	プ ー ル 形 個 数
木 造	非木造	合 計	木 造	非木造	合 計					
	1,420	1,420		4,073	4,073	第 一 中 学 校	10,439	7,046	17,485	25m 1
	1,519	1,519		4,528	4,528	第 二 中 学 校	9,622	5,749	15,371	
	1,769	1,769		8,526	8,526	第 三 中 学 校	18,739	13,309	32,048	25m 1
	1,555	1,555		6,358	6,358	第 四 中 学 校	7,660	11,652	19,312	25m 1
	1,658	1,658		8,894	8,894	第 五 中 学 校	14,265	15,755	30,020	25m 1
	1,001	1,001	40	3,804	3,844	片 浜 中 学 校	10,831	4,799	15,630	25m 1 ※
	1,768	1,768		7,130	7,130	金 岡 中 学 校	18,190	7,863	26,053	25m 1
	1,767	1,767		6,886	6,886	大 岡 中 学 校	13,951	7,816	21,767	25m 1
	908	908	9	6,042	6,051	愛 鷹 中 学 校	14,974	10,845	25,819	25m 1
	1,210	1,210		4,793	4,793	大 平 中 学 校	16,380	9,800	26,180	25m 1
	1,851	1,851		7,355	7,355	原 中 学 校	24,832	7,203	32,035	25m 1
	779	779	11	3,964	3,975	浮 島 中 学 校	12,658	4,470	17,128	25m 1
	1,359	1,359		6,340	6,340	今 沢 中 学 校	18,308	12,960	31,268	25m 1
	1,190	1,190		7,601	7,601	門 池 中 学 校	10,810	15,274	26,084	25m 1
	19,754	19,754	60	86,294	86,354	合 計	201,659	134,541	336,200	25m13
	100.00	100.00	0.07	99.93	100.00	率 (%)	59.98	40.02	100.00	

※ 防衛庁補助による地区体育施設 (ウィズスポーツ課所管)

[小 中 一 貫 学 校]

令和5年5月1日現在 (単位：㎡)

校 舎 等 の 現 況						学 校 名	校 地 の 現 況			
屋 内 運 動 場			校 舎 (部室含む)				運 動 場	校 舎 敷 地 其 他	合 計	プ ー ル 形 個 数
木 造	非木造	合 計	木 造	非木造	合 計					
	1,294	1,294		9,052	9,052	静 浦 小 中 一 貫 学 校	13,885	16,245	30,130	25m 1 小 1
	1,157	1,157		3,291	3,291	長 井 崎 小 中 一 貫 学 校	12,095	7,390	19,485	25m 1
	986	986		3,685	3,685	戸 田 小 中 一 貫 学 校	8,388	7,343 ※	15,731	
	3,437	3,437		16,028	16,028	合 計	34,368	30,978	65,346	25m 2 小 1
	100.00	100.00		100.00	100.00	率 (%)	52.59	47.41	100.00	

※ 戸田教職員住宅敷地を含む

5. 校區別就学前児童数

令和5年5月1日現在

学 校 \ 年 齡	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	1 歳	0 歳
第 一 小	26	16	15	20	21	17
第 二 小	17	16	17	15	11	15
第 三 小	39	43	40	46	29	30
第 四 小	51	64	60	62	51	49
第 五 小	50	53	53	34	40	31
開 北 小	56	59	64	37	42	54
千 本 小	10	9	10	8	8	9
片 浜 小	47	62	42	61	49	61
金 岡 小	88	88	64	77	75	69
大 岡 小	57	50	65	48	44	61
静 浦 小 中 (小)	17	15	18	20	16	6
愛 鷹 小	91	96	94	93	80	97
大 平 小	21	18	14	10	16	14
長 井 崎 小 中 (小)	8	3	6	4	8	4
原 小	69	68	62	74	57	63
浮 島 小	28	24	25	21	26	18
香 貫 小	89	70	56	60	68	36
門 池 小	162	144	144	163	129	140
今 沢 小	35	31	28	32	25	15
沢 田 小	36	57	55	45	57	47
原 東 小	17	30	25	28	22	14
大 岡 南 小	105	86	79	77	89	77
戸 田 小 中 (小)	5	4	3	3	2	5
計	1,124	1,106	1,039	1,038	965	932

6. 就学援助

教育の機会均等を確保するため、就学援助については各種の施策を講じているが、要保護及び準要保護者に対しては就学援助関係法令に基づいて、教育委員会が援助費を支給している。また、特別支援学級に通学する児童生徒に対しても奨励費を支給している。

令和4年度 就学援助費決算額

(単位：人・円)

学 校	学用品購入費等		新入学学用品費等		修学旅行費		学校給食費		医 療 費		合 計	
	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額
小学校	917	12,033,192	181	6,252,950	159	3,610,678	826	19,163,609	0	0	2,083	41,060,429
中学校	799	15,539,516	164	9,840,000	186	10,045,183	568	15,273,549	0	0	1,717	50,698,248
計	1,716	27,572,708	345	16,092,950	345	13,655,861	1,394	34,437,158	0	0	3,800	91,758,677

※新入学学用品費等は令和5年度入学者分を含む。

令和4年度 特別支援教育就学奨励費決算額

(単位：人・円)

学 校	学用品購入費等		新入学学用品費等		修学旅行費		学校給食費		通 学 費		合 計	
	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額	人数	金 額
小学校	82	380,594	8	195,420	9	90,684	75	857,352	24	592,310	198	2,116,360
中学校	66	356,592	21	527,422	12	329,931	48	639,858	7	113,968	154	1,967,771
計	148	737,186	29	722,842	21	420,615	123	1,497,210	31	706,278	352	4,084,131

7. 進学と就職

中学校（令和4年度卒業生）

(単位：人)

学校名	区分	卒業生総数			進 学 者			就 職・その他		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
第 一 中		29	25	54	29	24	53	0	1	1
第 二 中		21	15	36	21	13	34	0	2	2
第 三 中		67	71	138	66	69	135	1	2	3
第 四 中		36	50	86	36	49	85	0	1	1
第 五 中		68	67	135	68	67	135	0	0	0
片 浜 中		33	32	65	32	31	63	1	1	2
金 岡 中		84	93	177	83	93	176	1	0	1
大 岡 中		73	67	140	73	66	139	0	1	1
静浦小中(中)		14	11	25	14	11	25	0	0	0
愛 鷹 中		47	52	99	47	52	99	0	0	0
大 平 中		16	25	41	16	25	41	0	0	0
長井崎小中(中)		7	5	12	7	5	12	0	0	0
原 中		66	60	126	65	59	124	1	1	2
浮 島 中		25	23	48	25	22	47	0	1	1
今 沢 中		49	41	90	49	41	90	0	0	0
門 池 中		59	44	103	59	44	103	0	0	0
市立高中等部		20	60	80	20	60	80	0	0	0
戸田小中(中)		11	5	16	11	5	16	0	0	0
計		725	746	1,471	721	736	1,457	4	10	14

P35～P42の数値は学校基本調査等をもとにしています。

8. 教育研修

教職員研修センター（かいこう舎）

「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」の実現に向けて、沼津市の子供に質の高い教育を提供していく必要がある。教職員の専門職としての研修を充実させ、資質向上を図ることを目的として平成23年4月1日に設置した。

1 概要

(1) 施設

- ・所在地：〒410-0881 沼津市八幡町97 青少年教育センター3階
- ・電話：951-3425 FAX：951-7355

(2) 人員

所長1人、指導主事2人
研修アドバイザー4人、研修専門アドバイザー2人

2 業務内容

(1) 「沼津市教育基本構想」に基づいた研修・研修会の運営、プログラムの作成

教職員自らが課題解決のために主体的に研修できるよう、学校や教職員のニーズにきめ細かく対応するプログラムを作成し支援する。

① 集合研修（センター主催）

教職員の経験、年齢に応じて資質向上を目指した育成研修。

採用5年目までの教職員としての基礎的素養を育むための若手教員研修は、校長会と連携している。

- ・新任管理職 ・沼津中堅教員 ・新規採用教員 ・若手教員 ・事務職員
- ・任期付教員等 ・拠点校及び特例校指導教員 ・児童生徒支援員

② 個別訪問研修（個別支援）

教職員個々の実態に応じて、話を深めながら必要な支援を行う研修。

研修アドバイザーの各学校訪問支援に加え、平成25年度から特別支援教育担当者による助言を行っている。

- ・新規採用教員 ・若手教員 ・任期付教員等 ・育休等からの復帰者
- ・第Ⅶ期沼津中堅教員 ・新任校長及び教頭 ・拠点校及び特例校指導教員
- ・特別支援教育に関わる新規担当者への訪問及び要請訪問

③ 自主参加型研修

教職員のニーズに応じて参加できる研修で、自主参加を原則とする。

- 〈かいこう舎講座Ⅰ〉 ・学校経営及び学校運営講座 ・法令講座 ・教育課程講座
- ・論文作成講座 ・ICT授業づくり講座 ・道徳授業づくり講座
- 〈かいこう舎講座Ⅱ〉 ・学級経営講座 ・授業づくり講座 ・特別支援教育講座
- 〈前、後期選択講座〉

④ 研修支援

沼津教育振興会等が進めている研修や校内研修のサポート、研修センター職員の派遣、要望に応じた講師紹介、教科等の自主研修会のサポート等を行う。

(2) 調査研究

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析（検証改善委員会の運営）
- ・教科書採択に関する調査研究
- ・研修センターが所蔵している資料等の提供

(3) 沼津市教育研究奨励賞の選考

沼津市教育委員会は、奨励制度により教職員の研究意欲を高めるとともに、その研究実践の質的向上を図り、本市の学校教育の健全な発展を目指している。

〈研究奨励制度の要領〉

- ① 研究は個人を対象とし、単独の自主的研究を主体とする。研究は実践に基づいたものを重視する。
- ② 対象は、沼津市立の小・中学校及び幼稚園等に勤務する中堅教諭等資質向上研修を受講していない、又は、本年度受講している教職員とする。
- ③ 受賞者を発表するとともに、表彰状と記念品を授与する。
令和4年度は12人の応募があり、優良賞4人、奨励賞8人とした。

9. 特別支援教育について

特別支援教育とは、平成18年度までの特殊教育の対象ではなかったLD、ADHD、高機能自閉症等で通常学級に在籍する場合も含め、障がいのある児童生徒に対し、その一人一人の教育的なニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な指導及び支援を行うものであり、全ての学校で実施されるものである。さらに、特別支援教育は、障がいのある児童生徒への教育にとどまらず、全ての児童生徒が個々の違いを認め合いながら、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っている。

現在、沼津市では、通常学級に在籍する特別な教育的支援が必要な児童生徒が年々増加している中、各学校では特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援校内委員会を設置し、該当児童生徒の支援計画を作成して、継続的支援を行っていく体制を整備している。また、臨床心理士等を含む専門家チームが巡回相談を通じて、より専門的な立場からそれぞれの学校に助言を行っている。さらに、児童生徒支援員を配置し個に応じた支援の充実を図っている。

10. 育成学級・通級指導教室

昭和31年、第四小学校に初めて特殊学級（現在の特別支援学級）を設置以来、本市では育成学級の整備充実に努めてきた。令和5年度に原小学校に情緒学級が新設され、令和5年5月1日現在では、小学校16校、中学校12校で267人の児童生徒が在籍し、着々とその成果を上げている。

また、昭和45年4月には第二小学校に言語障害通級指導教室を設置、その後第三小学校に難聴通級指導教室（児童数減少により、現在は一時閉鎖中）、平成20年4月に原東小学校に発達障がいに係る通級指導教室を設置するなど、通常学級に在籍する障がいのある児童のための特別な指導体制を整えてきた。

平成31年4月には、第四中学校に市内初となる中学校発達障害通級指導教室を設置し、さらに令和2年度に原中学校にサテライト教室を開設した。原中学校のサテライト教室は、地域のニーズに合わせ、令和5年度に本設置とした。

なお、「育成教育・育成学級」という名称は、国の「特別支援教育・特別支援学級」のことで、この名称は平成9年度から用いている沼津市独自の名称である。

このほか、本市においては育成教育の研究会があり、講演会や事例研究を通して障がいのある子供を正しく理解し、実践発表の場としての研修会を開くなど、教職員の資質向上を図っている。さらに、子育て支援課をはじめとして、沼津教育振興会、沼津市手をつなぐ育成会、静岡県ことばと心を育む会等の協力団体とも連絡をとりあって、活発な活動を進めている。

令和5年度 沼津市育成学級等設置校一覧表

【小 学 校】 児童数 157人

令和5年5月1日現在

学 校 名	種別	学級数	設立年月日	備 考
第 一 小 学 校	弱視	0	S 46. 4	H17～閉級
	知的	1	S 37. 4	H10～閉級 H13～再設
第 三 小 学 校	知的	1	S 47. 4	
	情緒	0	H14. 4	H30～閉級
第 四 小 学 校	知的	2	S 31. 6	H 5 ～閉級 H11～再設
	情緒	1	S 50. 4	
第 五 小 学 校	情緒	1	H15. 4	
開 北 小 学 校	知的	1	H22. 4	
千 本 小 学 校	弱視	0	H18. 4	H24～閉級
片 浜 小 学 校	知的	1	S 49. 4	H14閉級 H15～再設 H26～閉級 H30～再設
	情緒	1	H 4. 4	H11～閉級 H18～再設
金 岡 小 学 校	知的	3	S 34. 4	
	情緒	1	H 2. 4	
大 岡 小 学 校	知的	2	S 48. 4	H12閉級 H13～再設
	情緒	1	S 57. 4	H27～閉級 H30～再設
静浦小中一貫学校(静浦小学校)	知的	1	H22. 4	
	情緒	1	R 3. 4	
愛 鷹 小 学 校	知的	1	H16. 4	
大 平 小 学 校	知的	1	R 4. 4	
原 小 学 校	知的	2	S 47. 4	
	情緒	1	R 5. 4	
門 池 小 学 校	知的	1	H28. 4	
	情緒	1	H28. 4	
今 沢 小 学 校	知的	3	H10. 4	
	情緒	3	H10. 4	
	病弱	0	H10. 4	H14～閉級
戸 田 小 学 校	知的	1	H17. 4	H23～閉級 H30～再設 R 4 閉級 R 5 ～再設
	情緒	1	R 4. 4	
大 岡 南 小 学 校	知的	1	H25. 4	

【中 学 校】 生徒数 110人

学 校 名	種別	学級数	設立年月日	備 考
第 一 中 学 校	知的	1	S 41. 4	H13～閉級 H17～再設
	情緒	1	R 3. 4	
第 三 中 学 校	知的	1	S 48. 4	H 9 ～閉級 H14～再設 H19～閉級 R 5 ～再設
	情緒	1	R 4. 4	
第 四 中 学 校	知的	1	S 33. 4	
	情緒	0	S 54. 4	H11～閉級 H22～再設 R 2 ～閉級
第 五 中 学 校	情緒	1	H31. 4	
片 浜 中 学 校	知的	1	R 3. 4	
金 岡 中 学 校	知的	4	S 39. 4	
	情緒	1	S 4. 4	
大 岡 中 学 校	知的	2	H19. 4	
原 中 学 校	知的	2	R 3. 4	
今 沢 中 学 校	知的	4	H11. 4	
	情緒	2	H11. 4	
静浦小中一貫学校(静浦中学校)	知的	1	H23. 4	
	情緒	0	H29. 4	R 4 ～閉級
戸 田 中 学 校	知的	1	H20. 4	H23～閉級 R 4 ～再設
	情緒	0	R 4. 4	R 5 ～閉級
門 池 中 学 校	知的	1	R 2. 4	
	情緒	1	R 3. 4	

【通級による指導校】 児童生徒数 212人

学 校 名	種別	学級数	設立年月日	備 考
第 二 小 学 校	言語	2	S 45. 4	
原 東 小 学 校	発達	1	H20. 4	
第 四 小 学 校	発達	2	H23. 4	
大 岡 小 学 校	発達	2	H29. 4	R 2～大岡南小学校にサテライト教室開設 R 5～門池小学校にサテライト教室開設
原 小 学 校	発達	1	R 5. 4	
第 四 中 学 校	発達	2	H31. 4	R 5～大岡中学校にサテライト教室開設
原 中 学 校	発達	1	R 5. 4	

11. 教科等指導リーダー・研究員制度

教科等の指導力向上を目的として、市立小中学校教職員の中から教科等別に教科等指導リーダー及び教科等研究員を委嘱している。教科等指導リーダー及び教科等研究員は教科等ごとに研究チームを構成し、チーム内で研究授業を行い、その成果を検証している。令和元年度には、本市独自の教科である言語科（言語読解）の研究チームを新たに立ち上げた。各研究チームの研究成果をまとめた報告書を校務支援ネットワークにアップロードし、全教職員が閲覧できるようにしている。

12. 各種事業

児童生徒が日常で習得した成果を発表する場として下記の事業を開催している。

(1) 中学校英語弁論大会

市内各中学校から選出された生徒が、自作の英文で英語の弁論を行うもので、上位入賞者は東部大会へ出場する。

(2) 小・中学校美術展

出品種目は絵画・工作・版画・工芸・彫塑・デザイン・書写など、平常学習時における優秀作品について校内審査のうえ展示する。



小・中学校美術展

(3) 小・中学生科学研究奨励賞

優れた科学研究を賞揚し、さらに、研究心の向上発展を期するため、児童生徒研究作品展に参加した理科学研究と、各種団体の主催する科学研究発表会に参加した研究の中から8点程度を選考し、教育長が表彰する。

13. 学校保健

学校保健会が、学校保健の進展を図り、その施策に寄与する目的をもって各部会を組織し、保健思想の普及啓発、学校における保健施設または経営に対する努力、学校保健に関する調査研究、学校保健関係者の指導及び研修、学校保健資材のあっせん等の活動を展開し実績をあげている。

学校保健会事業（令和4年度）

(1) 学校医部会

- ① 定期健康診断の実施
- ② 各種検診の実施
 - ア 心電図（心臓）検診
 - イ 結核対策委員会
 - ウ 生活習慣病予防検診等検診事業の推進
 - エ 市内小中学生の尿検査・腎臓検診の推進 腎検診判定委員会の開催
 - オ 脊柱側わん症検診の実施
- ③ 就学時健康診断の実施
- ④ 講演会の開催及び参加
- ⑤ 各種検診事業についての研修会

(2) 学校歯科医部会

- ① 定期健康診断の実施
- ② 就学時健康診断の実施
- ③ カラーテスターによる歯みがき指導
学校歯科医、学校長、養護教諭のもとに歯の衛生予防検診を行う。その一環として学校給食後の歯みがき指導を行う。
- ④ 「歯と口の健康週間」関連行事の実施
 - ア 歯科衛生に関する図画・ポスターの募集及び優秀作品の表彰・展示
目的：「むし歯予防」をテーマに、図画・ポスターの制作を通して衛生思想の向上を図る。
対象：市内小・中学校児童生徒
表彰：小学校低学年、同高学年・中学校の各部門に分けて、計4点を選び表彰する。
展示：全作品
 - イ 歯科保健優良校の表彰
日頃の歯の保健衛生活動の成果をまとめて、その中から優良校を選び表彰する。
- ⑤ 各種研修会への参加

(3) 学校薬剤師部会

- ① 市立小中学校のプール水の水質検査
- ② 中学校全学年及び小学校高学年（5・6年生）を対象とした薬学知識の普及及びその研修会（薬物乱用防止講座・薬学講座）
- ③ 学校薬剤師・養護教諭を対象とした研修会
- ④ 学校環境衛生定期検査
- ⑤ 全国一斉環境調査

- ⑥ 学校給食調理場の定期検査
- ⑦ 各種研修会への参加

(4) 校長部会

- ① 定期健康診断についての学校毎の指導
 - ア 学校毎の健康診断の計画・準備と実施、事後指導
 - イ 学校保健安全計画並びに保健室経営、保健だより等の指導
- ② 学校保健委員会の組織と運営
- ③ 就学時健康診断の実施
- ④ 各種研修会への参加

(5) 保健主事部会

- ① 定期健康診断の実施についての連絡調整
- ② 学校保健委員会の企画と運営
- ③ 食物アレルギーについての研修
- ④ 静岡県学校保健研究大会への参加
- ⑤ 性教育の推進
- ⑥ 就学時健康診断の実施についての連絡調整

(6) 学校保健部会

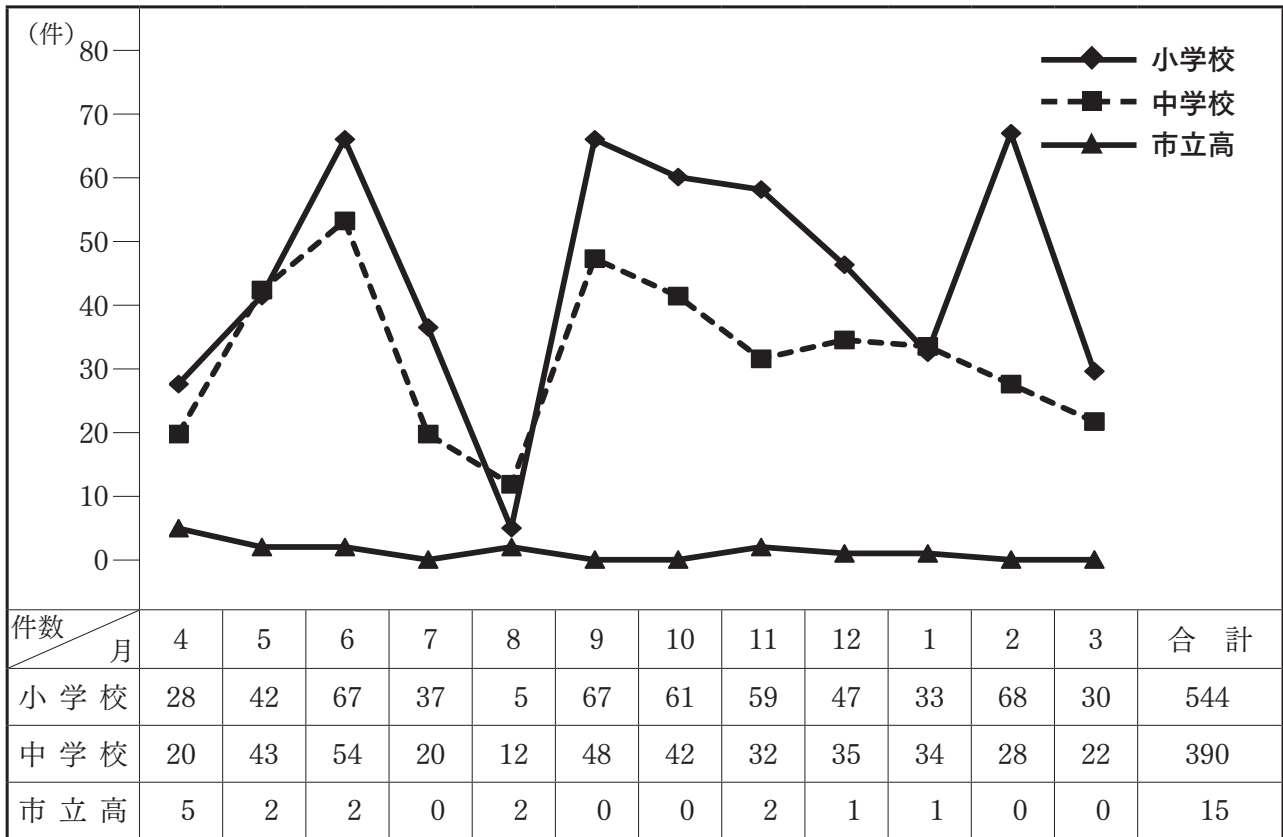
- ① 定期健康診断の実施
- ② 尿検査、心臓検診、生活習慣病検診の実施並びに協力
- ③ 学校保健委員会の企画と運営
- ④ 沼津市学校保健会養護教諭研修会の実施
- ⑤ 給食部会との合同研修会開催
- ⑥ 静岡県学校保健研究大会への参加
- ⑦ 就学時健康診断の実施についての連絡調整
- ⑧ 性教育の推進
- ⑨ 学校保健統計資料「すこやか」の編集

(7) 給食部会

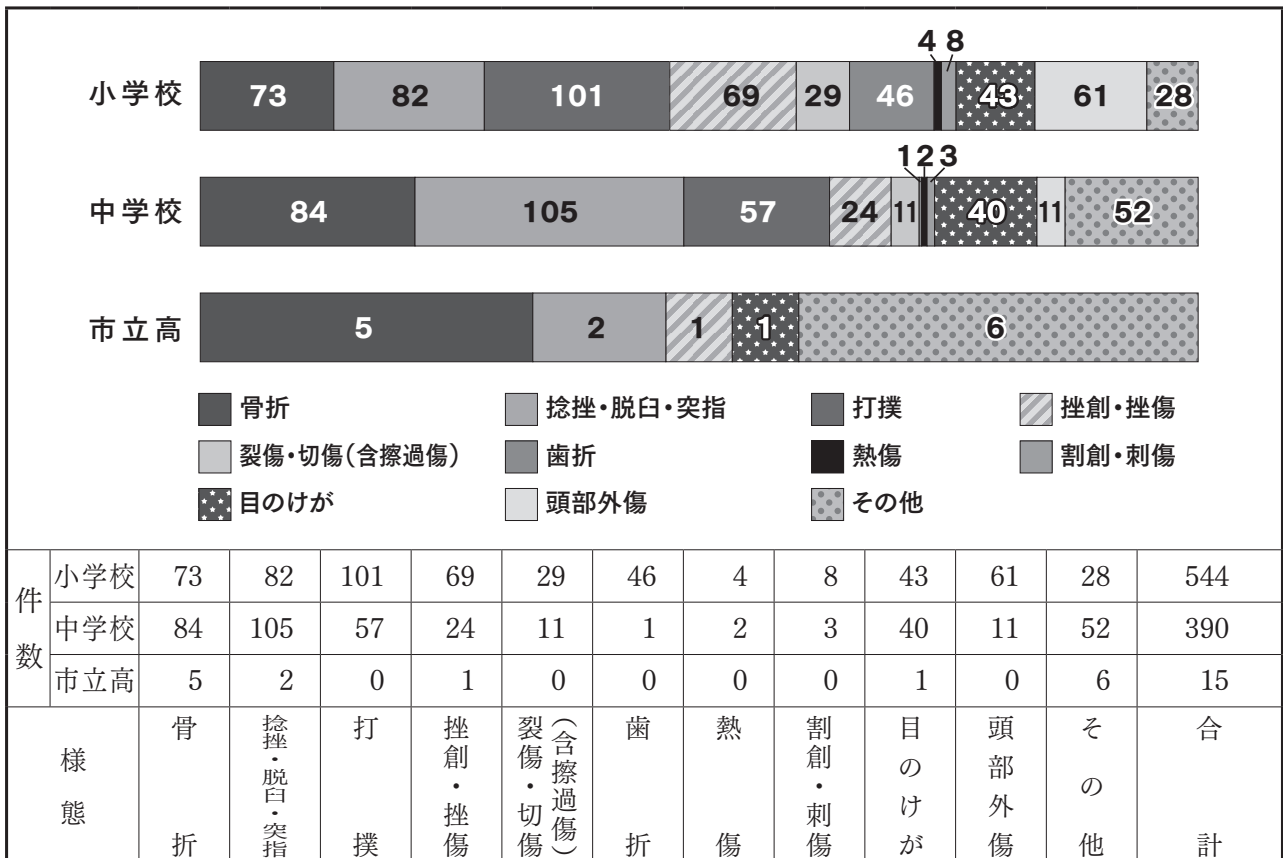
- ① 学校保健部との合同研修会開催
- ② 研修会、研究会への参加及び研修視察
 - ・静岡県学校給食研究大会
 - ・静岡県学校保健研究大会
- ③ 沼津教育振興会給食部との合同事業

14. 学校管理下の災害 (令和4年度)

(1) 月別災害発生状況



(2) 災害発生件数



(3) 管理下別発生件数

項目		小 学 校	中 学 校	市 立 高
学 習 時	体 育	128	126	4
	図 工 ・ 美 術	7	3	0
	理 科	4	4	0
	技 術 ・ 家 庭	4	6	0
	そ の 他	21	5	0
特 別 活 動 (学校行事を除く)	ク ラ ブ	3	0	0
	学 級 活 動	9	5	0
	清 掃	13	1	0
	そ の 他	8	24	0
学 校 行 事	遠 足	3	0	0
	運 動 会	1	6	0
	そ の 他	0	4	0
休 憩 時	休 憩 時 間	131	20	0
	昼 休 み	102	19	0
	始 業 前	12	2	0
	終 業 後	12	7	0
	そ の 他	11	0	0
登 下 校	登 校 時	37	7	1
	下 校 時	38	6	0
そ の 他	部 活 動		145	10

(4) 日本スポーツ振興センター災害共済給付金支給内訳

(単位：円)

	負傷・疾病	障 害	死 亡	計
小 学 校	3,401,628	0	0	3,401,628
中 学 校	3,654,643	0	0	3,654,643
市 立 高	454,073	0	0	454,073
市 立 幼 稚 園	0	0	0	0
合 計	7,510,344	0	0	7,510,344

15. 学校給食

本市学校給食は、昭和22年に開始され、現在、小学校は23校全部と、中学校18校のうち17校が完全給食で、残り1校は牛乳のみ給食している。

調理場は単独調理場（14か所17校）、共同調理場（10か所24校（大平幼稚園含む））で実施している。第五中学校共同調理場（平成12年5月開設）、第三中学校共同調理場（平成17年1月開設）、第四小学校共同調理場（平成19年1月開設）、静浦小中一貫学校単独調理場（平成26年4月開設）及び門池小学校共同調理場（令和2年4月開設）は、ドライシステムにより、衛生管理の充実が図られている。

また、第三中学校共同調理場、第五中学校共同調理場、大平小学校共同調理場、第四小学校共同調理場、原小学校共同調理場、金岡小学校共同調理場、第一小学校共同調理場及び門池小学校共同調理場では調理業務を民間委託し、学校栄養士の指示の下に、日々の作業が行われている。

令和5年度は、栄養教諭14人が市内の13校に配置されている。

(1) 実施状況

令和5年5月1日現在

小 学 校 (23校)				中 学 校 (18校)			
学 校 名	対象人数	専 従 者		学 校 名	対象人数	専 従 者	
		栄養士	調理師・調理員			栄養士	調理師・調理員
第 一 小	235	1	民間委託	第 一 中	141	第一小で調理	
第 二 小	109	1	3	第 二 中	96	第三中で調理	
第 三 小	267	第四小で調理		第 三 中	432	1	民間委託
第 四 小	429	1	民間委託	第 四 中	245	第三中で調理	
第 五 小	367	1	5	第 五 中	409	1	民間委託
開 北 小	338	1	4	片 浜 中	180	第一小で調理	
千 本 小	56	1	2	金 岡 中	530	金岡小で調理	
片 浜 小	313	1	4	大 岡 中	430	第五中で調理	
金 岡 小	655	1	民間委託	静浦小中一貫(中)	81	1	4
大 岡 小	404	1	4	愛 鷹 中	284	1	4
静浦小中一貫(小)	125	小中一校で共同		大 平 中	72	大平小で調理	
愛 鷹 小	575	1	9	長井崎小中一貫(中)	54	1	3
大 平 小	147	1	民間委託	原 中	334	原小で調理	
長井崎小中一貫(小)	62	小中一校で共同		浮 島 中	96	愛鷹小で調理	
原 小	496	2	民間委託	門 池 中	387	門池小で調理	
浮 島 小	196	愛鷹小で調理		今 沢 中	237	1	6
香 貫 小	430	1	5	中 等 部	240	牛乳給食	
門 池 小	874	1	民間委託	戸田小中一貫(中)	28	1	3
今 沢 小	327	今沢中で調理					
沢 田 小	302	1	4				
原 東 小	198	1	4				
大 岡 南 小	435	1	5				
戸田小中一貫(小)	32	小中一校で共同					
合 計	7,372	18	49	合 計	4,276	7	20

※対象人数は5月1日調べの児童生徒数
 ※専従者は産休・育休・病休中の者を除く

(2) 学校給食費

学校給食は、学校給食法に基づき、施設整備や人件費は市が負担し、その他の食材の調達経費等は保護者からいただく学校給食費を財源としている。燃料費と洗剤については昭和51年度から市費で負担し、保護者の負担軽減を図っている。

学校給食の栄養価等は学校給食実施基準に定められ、給食単価は基準を満たす給食を提供するための金額としている。また、平成28年度に学校給食委員会を設置し、学校給食費に関する意見を徴し給食費の適正化に努めている。

令和3年度には、これまで教職員が行ってきた学校給食費の徴収や滞納整理を市が担うことで、教職員の負担を軽減し、授業内容の充実や児童生徒に向き合う時間を確保することでよりよい教育環境を構築するため、学校給食室を設置し、学校給食会計を公会計化した。

令和4年度は食材費などが高騰する中で、10月以降の給食費を約10%増額したが、地方創生臨時交付金を活用し、無償化を実現した。

令和5年度も引き続き食材費が高騰する状況にあることから、10%相当の増額分については市が負担し、保護者等に請求する金額は前年同額に据え置くことで、子育て世帯の負担軽減を図る。

1食にかかる学校給食費		(うち保護者負担額)
小学校	304円	(276円81銭)
中学校(中等部を除く)	363円	(330円60銭)
中等部(牛乳給食)	60円	(54円89銭)

(3) 研究状況

栄養士部会では、次年度献立を年間分作成し、献立に基づいた指導資料・年間給食指導計画等を提供している。

また、「食に関する指導」について、給食主任・栄養教諭・学校栄養職員を中心に計画的に研修を進めたり、給食だよりや献立予定表の配布等を通して家庭との連携を図ったりしながら食育の推進に努めている。

沼津市立沼津高等学校・中等部

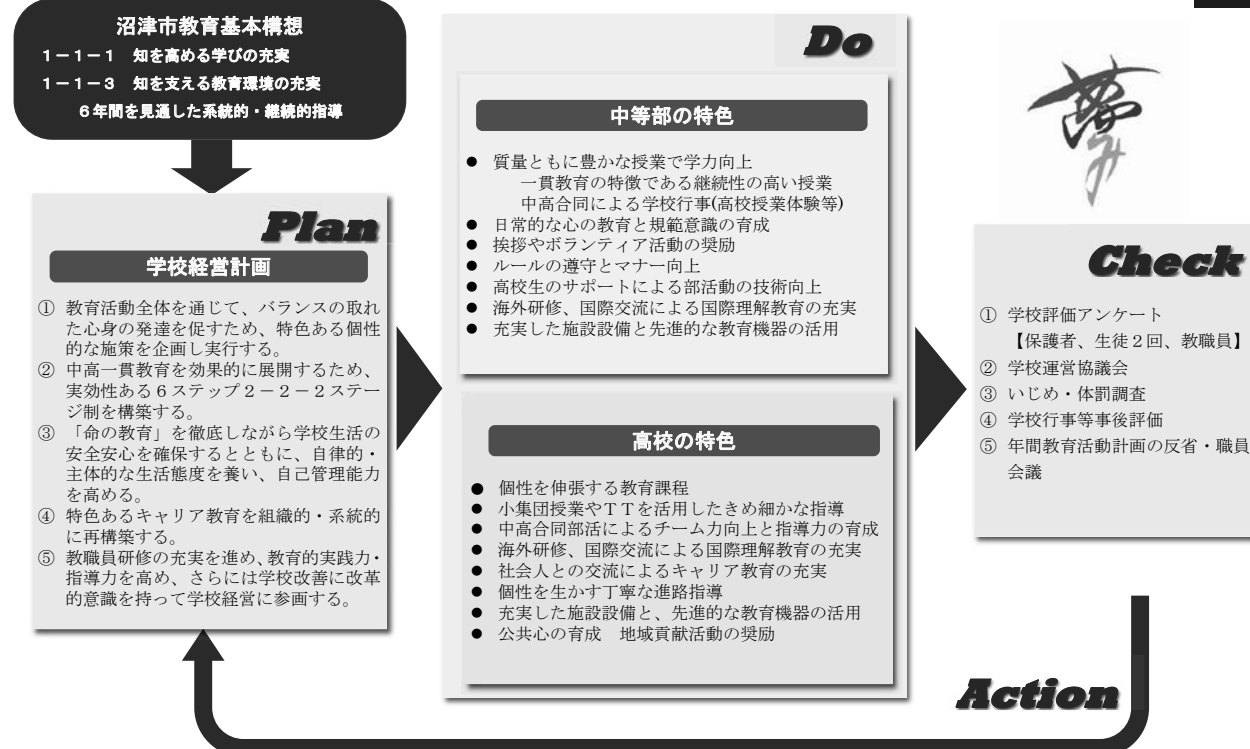
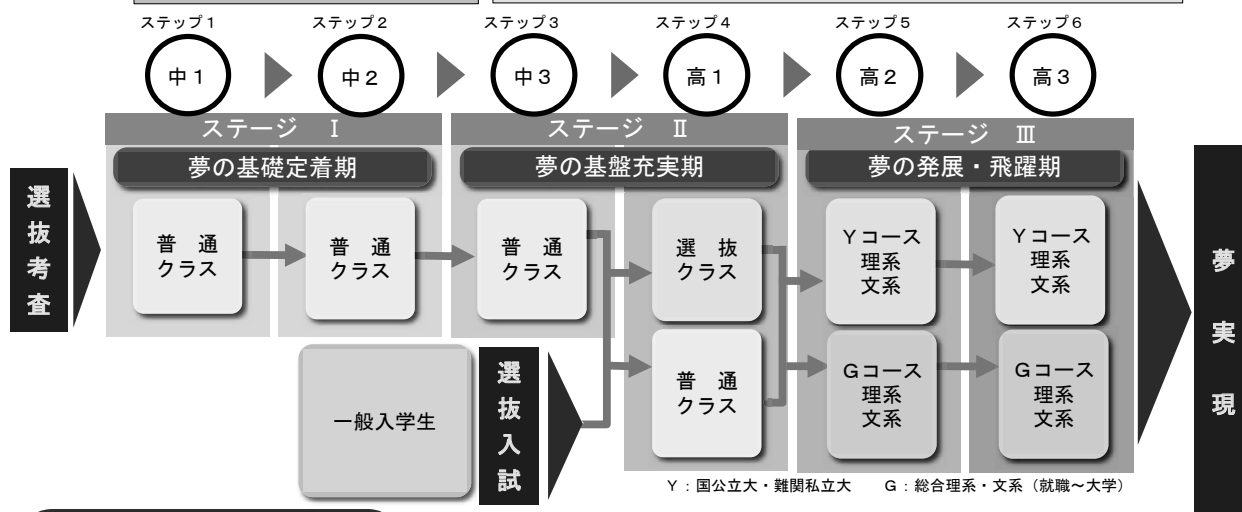
1. グランドデザイン

校訓	求道
使命	「文・武・芸」の三道鼎立で人間力を磨く中高一貫校
教育目標	誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり

生徒育成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・困難に打ち克つ逞しさをもち、自己の能力を向上できる生徒 ・多様な個性を認め、協働して課題解決できる生徒 ・沼津市を愛し、グローバルな視点を持って、主体的に地域社会の創造に貢献できる生徒
--------	---

教育課程編成・実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を立て、情報を集め、分析して表現できる能力を育む ・多様化する社会においてグループで協働する能力を育む ・郷土を愛し誇りを持ち、まちづくりに、主体的に行動できる能力を育む
-------------	---

生徒募集方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動に関心を持ち、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒 ・学習、部活動、行事等に積極的に取り組み向上心がある生徒 ・グローバルな視点を持ち、地域の発展に貢献しようとする意欲に満ちた生徒
--------	--



2. 施設の概要

- (1) 所在地
沼津市三枚橋字鐘突免673番地
電話 921-0805 (高等学校)
924-8000 (中等部)

- (2) 校地
総面積 40,205㎡
運動場面積 23,362㎡

- (3) 校長
田中 剛 (高等学校)
(※中等部校長兼務)



- (4) 校舎および建物

内 訳	構 造	面 積 (延)
普通教室棟	鉄筋コンクリート造	5,997㎡
特別教室棟	鉄筋コンクリート造	6,366㎡
体育館(武道場)、弓道場	鉄骨鉄筋コンクリート造他	5,178㎡
求道館	鉄筋コンクリート造	1,018㎡
進路指導棟(旧)、部室	鉄筋コンクリート造他	914㎡

3. 教職員数

- (1) 高等学校

令和5年5月1日現在

	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	臨 時 教 諭	臨 時 養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	A L T	事 務 長	事 務 長 補 佐	主 任	副 主 任 学 校 事 務 員	事 務 補 助 員	カ ウン セ ラ ー	用 務 員	労 務 補 助 員	合 計
男	1	1	1	21		2		7	1	1		1		1		3	1	41
女				20	1		1	5			1		1	4	2			36
計	1	1	1	41	1	2	1	12	1	1	1	1	1	5	2	3	1	76

- (2) 中等部

令和5年5月1日現在

	校 長(兼)	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	非 常 勤 講 師 (A L T)	事 務 主 査	計
男	1		8		3			12
女		1	5	1	2	1	1	11
計	1	1	13	1	5	1	1	23

4. 生徒数

- (1) 高等学校

令和5年5月1日現在

課程	学年	1 年			2 年			3 年			合 計						
		学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計				
普通科		5	76	129	205	5	82	115	197	5	75	123	198	15	233	367	600

- (2) 中等部

令和5年5月1日現在

生徒数	学年	1 年			2 年			3 年			合 計						
		学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計				
		2	21	59	80	2	25	55	80	2	17	63	80	6	63	177	240

5. 学校の沿革

(1) 沿革概要

昭和21. 3. 10	沼津市立沼津第一中学校認可（校長事務取扱・沼津市長 勝亦干城）	昭和57. 12. 17	進路指導棟竣工
21. 4. 20	開校式（沼津市東熊堂字横道496-3）校長 石内直太郎	61. 11. 14	創立40周年記念式典
23. 4. 1	沼津市立沼津高等学校となる	63. 3. 31	専攻科新校舎竣工
23. 6. 1	沼津市東熊堂869へ校舎移転	63. 9. 1	専攻科新校舎開校式
24. 3. 20	第1回併設中学校卒業式	平成元. 4. 1	専攻科1学年定員30名
25. 4. 1	学校法人沼津高等学校設立	2. 4. 1	1学年普通科6学級（1学級増）
26. 3. 15	第1回卒業式 卒業記念「求道」の碑建立	3. 4. 1	商業科募集停止（2学級分） 1学年普通科7学級（1学級増）
27. 4. 1	学校法人を廃し、再び沼津市立沼津高等学校となる 商業科設置	4. 4. 1	商業科募集停止（2学級分）
29. 7. 3	体育館竣工	5. 3. 31	商業科閉科
32. 8. 8	石内直太郎校長逝去	5. 7. 1	霧ヶ峰高原学園にキャンプ場開設
37. 4. 2	新校舎定礎式 （沼津市三枚橋字鐘突免673）	8. 10. 15	創立50周年記念式典
37. 12. 3	新築移転式	9. 4. 1	1学年普通科6学級（1学級減）
39. 5. 25	新体育館竣工	13. 4. 1	衛生看護科募集停止（1学級分）
39. 9. 10	普通校舎増築竣工	14. 4. 1	衛生看護科募集停止（2学級分）
39. 9. 21	弓道場竣工	14. 12. 14	新校舎（普通教室棟、特別教室棟）竣工
40. 4. 1	衛生看護科設置	15. 3. 31	衛生看護科閉科 霧ヶ峰高原学園廃止
40. 10. 23	武道場竣工	15. 4. 1	1学年普通科5学級（1学級減） 中等部開校（2学級） 校長 廣瀬裕人
41. 6. 8	特別校舎増築竣工	16. 2. 29	初動負荷トレーニングマシン導入
41. 11. 21	霧ヶ峰高原学園竣工	16. 4. 1	専攻科募集停止
42. 4. 1	社団法人 沼津市立沼津高等学校 後援会設立	17. 3. 31	専攻科閉科
42. 8. 13	プール竣工	18. 3. 18	中等部第1回卒業式挙行
43. 4. 1	専攻科（衛生看護科）設置	18. 4. 20	創立60周年記念植樹 （ニュートンのリンゴの木）
43. 12. 15	女子更衣室竣工、特別教室（4階部分）増築竣工	18. 11. 19	創立60周年記念講演会
44. 11. 15	特別教室（書道教室、その他）増築竣工	20. 8. 15	新体育館竣工
45. 8. 1	別館（第二体育館、同窓会館）竣工	21. 3. 17	新部室竣工
49. 3. 1	プール観覧席竣工	22. 3. 31	新駐車場・駐輪場竣工
49. 8. 8	故石内直太郎校長胸像建立	24. 3. 30	求道館竣工
50. 6. 30	グラウンド防球ネット竣工	27. 3. 30	弓道場防矢ネット竣工
51. 5. 29	創立30周年記念式典	28. 4. 20	創立70周年記念講演会 記念植樹（しだれ桜）
52. 3. 10	グラウンド整備竣工	28. 5. 20	プール附属棟竣工

(2) 歴代校長

沼津市立沼津高等学校 (平成26年度より中等部校長兼務)					
代	氏名	就任	代	氏名	就任
初	石内直太郎	昭和21. 4. 9	12	清水洋二	7. 4. 1
2	渡辺竹雄	32. 9. 25	13	梶節夫	11. 4. 1
3	大木謙	39. 4. 1	14	渡邊稔	13. 4. 1
4	芳賀隆三	42. 4. 1	15	田中保幸	15. 4. 1
5	土居良太郎	48. 4. 1	16	加地宗雄	21. 4. 1
6	渡辺浅夫	53. 4. 1	17	川口孝博	25. 4. 1
7	戸谷要一	56. 4. 1	18	樋口和男	29. 4. 1
8	山本信一郎	58. 4. 1	19	清水正信	31. 4. 1
9	笠原健次郎	60. 4. 1	20	小林浩明	令和3. 4. 1
10	杉原濱男	62. 4. 1	21	田中剛	5. 4. 1
11	栗栖良紀	平成2. 4. 1			

沼津市立沼津高等学校中等部					
代	氏名	就任	代	氏名	就任
初	廣瀬裕人	平成15. 4. 1	6	樋口和男(兼)	29. 4. 1
2	渡邊勉	17. 4. 1	7	清水正信(兼)	31. 4. 1
3	竹内重延	20. 4. 1	8	小林浩明(兼)	令和3. 4. 1
4	石井昌實	23. 4. 1	9	田中剛(兼)	5. 4. 1
5	川口孝博(兼)	26. 4. 1			

6. 部活動名と所属生徒数

令和5年5月1日現在

部活動名	高等学校		中等部		部活動名	高等学校		中等部			
	男	女	男	女		男	女	男	女		
体 育 部	弓道	10	22	6	24	文 化 部	英語	5	15	8	18
	剣道	4	1	/			演劇	2	13	/	
	サッカー	28	4	/			茶華道	1	12	/	
	柔道	2	6	6	1		家庭	0	39	/	
	水泳	8	12	/			吹奏楽	14	51	10	26
	体操	0	8	/			書道	2	16	/	
	山岳	8	2	/			バトン	0	19	0	22
	卓球	9	4	/			美術	1	9	1	15
	テニス	22	12	8	14		パソコン	33	15	/	
	バスケット	26	28	/							
	バレーボール	/		/							
	野球	42	6	/							
	陸上	11	16	6	6						
	女子サッカー同好会	/		/			計	58	189	19	81
計	170	158	26	77	合計	228	347	45	158		

市立幼稚園

市立大平幼稚園（所在地：沼津市大平2205-1 電話：932-2080 FAX：932-2780）

(1) 経営方針

沼津市教育基本構想をふまえて、「心豊かな子供を育む、明るく温かな大平幼稚園」づくりに向け、園児の生活の場となる地域の人との関わりを大切にし、次のような経営方針のもと願う園児像を描きながら教育目標の具現化を図る。

－（ ）内の番号は、沼津市教育基本構想の関連箇所－

- ① 園児の実態と地域の環境をふまえて教育課題を設定し、望ましい園児像を常に描きながら日々の指導を積み上げていく。
- ② 教師としての使命感のもと、「心豊かな子供を育む、明るく温かな大平幼稚園」づくりの担い手である自覚を持ち、互いに支え合い磨き合う教職員集団として、意欲的・創造的な実践に努める。 (①-1-3-(1))
- ③ 読書に親しむ機会、教師や小中学生等による絵本や紙芝居の読み聞かせ等の充実を図ると共に、“美しく話そう”を意識した指導により、美しい言葉で表現する力を育む。 (①-1-1-(2), ①-2-4-(2))
- ④ 5つの心を育むために、園児の心を揺り動かすような交流・体験活動の機会を多様に設定し、常に計画・実行・評価・改善を繰り返すことで、活動の充実を図る。 (①-1-1-(1), ①-2-1-(2))
- ⑤ 自然に恵まれた地域の中で、保育所・小学校・中学校・高齢者との交流・ふれあい活動を通して心豊かな子供を育むことができるよう、環境づくりに努める。 (①-2-1-(2), ①-2-3-(2))
- ⑥ 園児降園後及び休園日の園庭開放や未就園児対象の「遊びにおいでよ」を設けるなど、地域の子育てセンター的な役割を担う。 (②-1-2-(1), ②-1-2-(2))
- ⑦ 心身の健康を増進するために、給食指導や食を伴う行事を通して、家庭との連携を図りながら食育を進める。 (①-3-2-(2))
- ⑧ 心身の発達につまづきがある子供の早期発見に努め、保護者や関係機関と連携しながら個のニーズに応じた支援を行う。 (②-2-3-(2), ②-2-3-(3))
- ⑨ 保護者・地域との連携を強化しながら「命を守る」教育を推進し、安心・安全な園づくりに努める。 (①-2-2-(1), ①-2-2-(2), ①-2-2-(3))
- ⑩ 園だより「いちごのみ」、学年だより「りすだより」「ばんだだより」「きりんだより」及び共通だよりを通じて保護者、地域とのコミュニケーションを図り、教育活動への理解と幼稚園教育の啓発に努める。

(2) 教育目標

教育目標 **心豊かで思いやりのある子**

《願い》 5つの心（感じる心：思いやり、素直、感動、感謝、尊敬）を言葉で、表情で、態度で表現できる子（人と関り合おうとする思い）を育てたい。

感じる心を育むことは学びに向かう力の土台となり、表現する姿勢や意欲・能力は人とつながるための重要なツールとなる。自ら考え多くの人々とつながって新たな価値を創造していく人、自分らしさを発揮し豊かな人生を築いていく人へと成長することを願い、幼児期の育ちを支援していく。

《具体的な目標》 ① 健康で明るい子 ② 元気に仲良く遊べる子

- ③ 自分の気持ちを素直に表現できる子
- ④ 自然を大切にする子

(3) 職員・学級編制

令和5年5月1日現在

園長	女	1	学年	年少	年中	年長	計
教諭	男	0	学級名	りす	ばんだ	きりん	
	女	4	男	1	2	4	7
事務	男	1	女	3	5	1	9
	計	6	計	4	7	5	16



市立認定こども園

戸田こども園（所在地：沼津市戸田1031-1 電話：0558-94-2303 FAX：0558-94-3099）

(1) 経営方針

本園は、0歳から小学校就学前までの連続性のある教育及び保育を一体的に行い、生きる力の基礎を育成する。また、恵まれた環境下、園・家庭・地域の三者連携により、地域ならではの多様な体験をする中で、認められる安心感のもと自己肯定感を高め、互いに一人一人の個性を認め合える園づくりを目指す。 - () 内の番号は、沼津市教育基本構想の関連箇所 -

- ① 園児の実態と地域の環境を踏まえて計画的に構成された教育・保育環境の下で、自発的な遊びや体験を重視した活動を積み重ねるようにする。 (①-1-1-(1))
- ② 保育教諭等は人的環境の最たる存在として教育・保育をより豊かにするための主体的な研修に取り組む体制の充実を図る。 (①-1-3-(1))
- ③ 自ら健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣の形成を図る。 (①-2-1-(1))
- ④ 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 (①-2-1-(2))
- ⑤ 遊びにじっくりと取り組むことで、充実感や満足感を味わい、他者から認められる経験を積むことで自己肯定感を高められる環境を築く。 (①-2-3-(1))
- ⑥ 地域の教育力や自然環境を活かし、実体験を通して豊かな感性を育む。また、異年齢児保育や小中学校との連携を密にするなど、人とのつながりの場を設け情意的な力を育てていく (①-2-4-(1))
- ⑦ 読み聞かせや図書ルームの活用、さらには、市立図書館との連携により絵本に親しむ環境や家庭に向けて読書の大切さを啓発する。 (①-2-4-(2))
- ⑧ 自ら体験することで感じる力、気づく力を育て、できるようになるなど知識及び技能の基礎を培う場の充実を図る。 (①-2-4-(3))
- ⑨ 自ら進んで運動に親しめるよう、自発的な遊びの確保に努める。 (①-3-1-(1))
- ⑩ 意欲をもって食に係る体験を積み重ね、食べることを楽しみ、体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう環境を工夫する。 (①-3-2-(2))
- ⑪ 地域にある自然・人・施設との関りを深め、郷土に対する愛着や誇りを育む。 (②-1-1-(1))
- ⑫ 発達や学びの連続性を小学校教育に無理なく接続できるよう、交流会や情報交換会などの機会を計画的に実施する。 (②-2-2-(2))

(2) 教育目標 《ひとりひとりが輝く へだっこ》

- 重点目標 ① たくさんの体験をして自ら気づく子 ② あそびを工夫して楽しむ子
③ 自信をもって挑戦する子

(3) 職員・学級編制

令和5年5月1日現在

園長	女	1
副園長	女	1
保育教諭等	男	2
	女	5
主任栄養士	女	1
調理員	女	2
運転手	男	1
		13

学年	クラス名	男	女	合計
0歳児	ぼっち	0	1	1
1歳児		0	1	1
2歳児		0	2	2
年少	らぶか	2	0	2
年中	ゆめかさご	1	4	5
年長	たかあしがに	3	2	5
合計		6	10	16

私立幼稚園・認定こども園

令和5年度の私立幼稚園・認定こども園の全園児数は2,106人（満3歳児～年長児）で、昨年度より220人と大きく減り、少子化の影響は如実に現れています。その中で入園児の低年齢化は着実に進み、0歳～2歳児の130名弱が認定こども園に入園しています。

子どもたちの成長発達の視点から見ると、コロナ禍で「新しい生活習慣」が推奨され、感染予防が最優先とされてきたため、もちろん必要なことでしたが、その歪みが現在少しずつ見えてきています。たとえば、乳幼児期に罹る多種多様のウイルス感染もコロナと同時に予防され、病気に罹らず免疫を持てなかった小さい子どもたちの間で感染症が流行ってきています。マスク生活で大人の表情を読み取れなかった子どもたちの言語や感情の発達、人間関係への影響が出てくるのもこれからではないかと考えます。

感染予防の陰で子どもたちの発達機会が十分に保障されなかったことについては、私たち保育者が念頭に置いて配慮しながら保育を進めていかななくてはなりません。

沼津市内の私立幼稚園・認定こども園は、それぞれ建学の精神に基づき様々な教育を行ってきました。それゆえ、各園で多様な幼児教育が展開されていますが、子どもたちの将来を見据えると“多様化”というキーワードはとても重要で、いろいろな考えを持った人々が話し合い、違った意見がぶつかることから新しい発想を生み出し、新しい社会、新しい世界を創っていくことができると信じています。沼津の子育て支援と連携しながらも、私どもは「子どもファースト」で一人一人の人格の土台づくりと健やかな発達に注力して参ります。

沼津市私立幼稚園協会 会長 鶴谷 主一

(令和5年5月1日現在)

● 幼稚園（3～6歳）



ルンビニ幼稚園

〒410-0855
沼津市千本緑町2-7
☎962-1710 FAX962-0501
学級数 3
園児数 16人
教員数 8人



四恩幼稚園

〒410-0038
沼津市三芳町3-14
☎963-7538 FAX963-7545
学級数 3
園児数 40人
教員数 10人



愛鷹幼稚園

〒410-0303
沼津市西椎路610-2
☎966-2500 FAX966-9565
学級数 7
園児数 146人
教員数 19人



沼津学園第二幼稚園

〒410-0022
沼津市大岡3227-1
☎923-8850 FAX921-9854
学級数 6
園児数 166人
教員数 14人



加藤学園幼稚園

〒410-0022
沼津市大岡自由ヶ丘1979
☎921-4805 FAX926-0044
学級数 11
園児数 241人
教員数 43人



沼津あすなろ幼稚園

〒410-0007
沼津市西沢田244-2
☎922-8507 FAX924-0310
学級数 6
園児数 87人
教員数 10人



双葉幼稚園

〒410-0822
 沼津市下香貫字柿原2843-1
 ☎933-1835 FAX933-1836
 学級数 4
 園児数 38人
 教員数 9人



光長寺幼稚園

〒410-0011
 沼津市岡宮字寺内1052-5
 ☎921-4213 FAX921-4236
 学級数 7
 園児数 147人
 教員数 18人



沼津梅花幼稚園

〒410-0817
 沼津市本郷町23-9
 ☎931-6146 FAX933-3168
 学級数 6
 園児数 115人
 教員数 12人

● 幼稚園型認定こども園（3～6歳）



認定こども園 原町幼稚園

〒410-0312
 沼津市原199-1
 ☎966-7338 FAX966-7370
 学級数 6
 園児数 78人
 教員数 21人



認定こども園 沼津聖マリア幼稚園

〒410-0817
 沼津市本郷町18-31
 ☎932-9911 FAX932-9917
 学級数 4
 園児数 82人
 教員数 18人



認定こども園 象山幼稚園

〒410-0106
 沼津市志下北通72-1
 ☎931-3426 FAX931-8962
 学級数 8
 園児数 151人
 教員数 20人



認定こども園 耕雲寺幼稚園

〒410-0022
 沼津市大岡1092
 ☎951-3075 FAX951-3086
 学級数 7
 園児数 113人
 教員数 20人



認定こども園 第二耕雲寺幼稚園

〒410-0022
 沼津市大岡2242-14
 ☎923-3911 FAX923-3913
 学級数 4
 園児数 85人
 教員数 16人

● 幼保連携型認定こども園（0～6歳）



認定こども園 春の木幼稚園

〒410-0302
 沼津市東椎路1547-1
 ☎923-5445 FAX924-7730
 学級数 7
 園児数 86人
 教員数 23人



認定こども園 しょうえい幼稚園

〒410-0306
 沼津市大塚812-2
 ☎967-4521 FAX967-4572
 学級数 7
 園児数 119人
 教員数 33人



認定こども園 片浜桜

〒410-0875
 沼津市今沢65
 ☎966-6349 FAX967-9966
 学級数 8
 園児数 131人
 教員数 27人



**認定こども園
中央幼稚園**

〒410-0862
沼津市幸町23-3
☎951-6694 FAX952-0868
学級数 8
園児数 109人
教員数 15人



**認定こども園
かきつばたこども園**

〒410-0308
沼津市柳沢222
☎967-4188 FAX967-4189
学級数 8
園児数 114人
教員数 30人



**認定こども園
こずわ幼稚園**

〒410-0872
沼津市小諏訪242-4
☎963-0721 FAX963-4096
学級数 6
園児数 98人
教員数 27人



**認定こども園
沼津学園第一幼稚園**

〒410-0053
沼津市寿町16-40
☎921-8140 FAX921-9863
学級数 10
園児数 210人
教員数 26人

※ここでの「教員数」には、保育士・教育補助員等を含めており、末巻資料P.145の教員数と異なっている園があります。また、幼保連携型認定こども園の「学級数」には保育分も含めております。

社会教育

社会教育委員

社会教育委員は「社会教育法」第15条に基づき、教育委員会が委嘱している。

委員は、社会教育に関する諸計画の立案、教育委員会から諮問された事項に対しての調査・研究及び意見具申・答申を行う。

委員の数 10人以内

任期 2年

委員の構成 学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び公募による者

根拠 沼津市社会教育委員条例

生涯学習

科学技術の進歩や情報化、国際化、高齢化など、社会の急激な変化を背景に、一人一人が知識や技術を伸ばし、趣味、レクリエーションなどを楽しみ、生きがいのある充実した人生を送るため、自発的意志に基づく生涯にわたっての学習が重視されている。

このため、市民の学習に対する支援を進めるとともに、生涯学習の観点から社会教育の推進を図っている。

1. 生涯学習推進事業

生涯学習活動への積極的参加を奨励するとともに、社会のあらゆる分野における市民の自主的な学習活動を推進するため、生涯学習についての相談などの市民の学習活動への支援や啓発事業を展開している。

(1) 生涯学習情報コーナー

市立図書館に、様々な生涯学習情報を閲覧できるよう設置している。

(2) 「生涯学習情報誌」の発行

生涯学習情報誌として、「沼津まなぶくん」を年1回、1,200部、「さんさんだより」を偶数月1回、500部を編集・発行している。

(3) 「さんさん学習フェスティバル」の開催

平成3年度から、生涯学習の啓発と普及を図るために、学習活動の成果を発表する場として開催している。

(令和4年度実績)

〈会場〉 沼津市民文化センター

部 門 名	開 催 日	参 加 状 況	来 場 者 数
展示	11月26日(土)～27日(日)	12団体・4個人	879人
手作り遊び	11月26日(土)～27日(日)	4団体	203人
舞台演技	11月27日(日)	19団体・5個人	356人
プレゼンテーション	11月26日(土)～27日(日)	2個人	42人

(令和5年度予定)

〈開催日〉 11月25日(土)～11月26日(日)

〈会場〉 沼津市民文化センター

(4) 「生涯学習地域推進員」の活動

市全体で生涯学習を推進するためには、地域と連携し、地域の特色に応じたきめの細かい生涯学習活動を展開していく必要がある。このため、地域からの推薦をもとに「生涯学習地域推進員」を委嘱し、様々な学習の企画、実施、啓発、情報の提供や市が行う生涯学習関係事業の周知及び参加の呼びかけなどに取り組むとともに、生涯学習地域講座を開催している。

生涯学習地域推進員

人	数	地区コミュニティ単位に原則1人を配置する。(令和5年度19人)	
任	期	2年(令和4年4月1日～令和6年3月31日)	
研	修	会	全体研修での学習会や地域での講座の企画・運営を実施している。 (令和4年度は4回実施)
生涯学習地域講座		5グループに分かれ、5地区(第三、第五、片浜、大岡、西浦)で開催した。	

(5) 地域学習講師派遣

地域における自主的な学習会や講演会に講師を選定し、派遣している。

(令和4年度実績)

〈派遣件数〉 12件

(6) 「まちの識者(地域学習指導者)」の登録と紹介

地域における多様な生涯学習活動を支援するため、特技や知識を持っている方々を「まちの識者(地域学習指導者)」として人材登録し、市民からの学習指導者紹介の要請に応じている。

(令和4年度実績)

〈登録者数〉 延べ98人

〈紹介件数〉 28件

〈利用者数〉 763人

(7) 学校教室開放

生涯学習の地域拠点として、市立小中学校の一部で教室等の施設を開放している。

(8) 「出前講座」の開設

市民の学習機会の拡大と市政への理解増進を目的に、市職員を講師として派遣する出前講座を平成7年5月から実施している。令和5年度は、市の事務事業に関する74の講座メニュー(令和4年度74講座)の中からリクエストを受けるものであるが、それ以外の希望にも対応できるよう特別講座を用意するなど、利用の促進に努めている。

(令和4年度実績)

〈利用回数〉 100回(うち特別メニュー講座11回)

〈受講者延べ人数〉 5,365人

〈講座内容〉	みんなで考える“ごみと私たち”	8回
	消費生活講座～若者編～	7回
	バスに乗ろう!	6回 ほか79回

(9) イングリッシュデビュー事業

英語の習得には乳幼児期から英語に慣れ親しむことが重要であることから、英語に触れるきっかけづくりとして、0～3歳の子とその保護者を対象とした「ENGLISH DEBUT（イングリッシュデビュー）」、4歳～小学4年生を対象とした「イングリッシュコミュニケーション」を実施している。

(令和4年度実績)

ENGLISH DEBUT（イングリッシュデビュー）

〈受講者数〉 延べ490人（延べ214組）

〈学習回数〉 17回

イングリッシュコミュニケーション

〈開催日〉 令和5年1月28日(土)～1月29日(日)、2月5日(日)

〈会場〉 ららぽーと沼津（1月28日～1月29日）、
戸田地区センター（2月5日）

〈受講者数〉 延べ107人

(令和5年度予定)

ENGLISH DEBUT（イングリッシュデビュー）

〈対象〉 0～3歳の子とその保護者（定員25組／各教室）

〈時期〉 5月～12月

〈会場〉 サンウェルぬまづ

〈内容〉 音楽や体操を取り入れ、楽しみながら英語に触れる

イングリッシュコミュニケーション

〈対象〉 4歳～小学4年生

〈時期〉 未定

〈会場〉 未定

〈内容〉 英語を使った音楽や工作等のプログラムを体験する

(10) 地域学校協働本部

幅広い地域住民の参画を得て、地域総がかりで子供たちの学びや成長を支える協働活動を推進するために、地域学校協働本部を設置し、家庭や地域の教育力の向上を目指しながら、地域を支える人材の発掘育成を進め、地域における生涯学習の振興を図る。令和2年度は第五・大岡中学校区に、令和3年度は片浜・静浦中学校区に、令和4年度は第三・金岡・浮島・門池中学校区にその中心的組織となる地域学校協働本部を設置した。令和5年度は、残る9中学校区に設置する。

なお、地域学校協働本部はコミュニティ・スクールを導入した中学校区に設置しており、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働できる体制としている。

※コミュニティ・スクールについては、P32参照

2. 成人教育

(1) 市民大学

「豊かな未来をひらく」をメインテーマとし、様々な分野から一流の講師を招き学習会を開催することにより、広い視野と新たな視点を提供し、市民の生涯学習活動を支援する。

(令和4年度実績)

〈受講者数〉 延べ2,036人

〈学習回数〉 9回

(令和5年度予定)

〈対 象〉 中学生以上

〈開催期間〉 7月～10月 全9回

〈会 場〉 沼津市民文化センター 大ホール

No.	開催日	テ ー マ	講 師 (敬称略)
1	7月7日(金)	人と野球の未来づくり	株式会社斎藤佑樹 代表取締役 斎藤 佑 樹
			【対談相手】 アナウンサー 小川 綾 乃
2	7月23日(日)	戦国と現代をつなぐ～徳川と静岡～	静岡大学名誉教授 小和田 哲 男
3	8月4日(金)	現代日本語の言語変化 ～やさしい日本語をめざして～	日本大学文理学部 准教授 金 愛 蘭
4	9月2日(土)	顔の魅力とは？ ～認知心理学の視点から～	静岡英和学院大学 学長・教授 永 山 ルツ子
5	9月9日(土)	清水の舞台から	清水寺 貫主 森 清 範
6	9月17日(日)	五百年の伝統話芸・講談 ～沼津を歩いて講談作り!?	講談師 田 辺 鶴 遊
7	10月8日(日)	読むこと、生きること ～わたしの本棚をめぐる～	女優・作家・歌手 中 江 有 里
8	10月18日(水)	性の多様性とは ～性別に違和感を持つ子ども達～	浜松TG (トランスジェンダー) 研究会 代表 鈴木 げ ん
9	10月28日(土)	宇宙医学最前線： 「そうだ。宇宙へ行こう！」	元NASA上級研究員・東邦大学医学部 客員教授 三井 石 根

(2) 家庭教育

① 家庭教育講座

親や保護者の望ましいあり方、自身の視野を広げる、人間関係づくり、自らの生き方などを考える機会の提供を目的に、自信がもてる子育て講座を開講している。

(令和4年度実績)

〈受講者数〉 延べ221人

〈学習回数〉 11回

(令和5年度予定)

自信がもてる子育て講座

〈対 象〉 未就学児から中学生の親（保護者）、子育てに関心のある方

〈開講時期〉 春期：6月

夏期：9月

秋期：11月

	No.	開催日	テ ー マ	講 師（敬称略）
春 期	1	6月2日(金)	子どもを勉強好きにして 学力を上げる方法	教育評論家 親 野 智可等
	2	6月8日(木)	いつから何を読むの？ 「読み聞かせ」	元 静浦小中一貫学校教諭・ 現 安曇野市 絵本の小部屋 「こごみ」店主 小谷田 照 代
	3	6月13日(火)	子どもと保護者の幸福度を高める 「自信」の育み方	鳴門教育大学大学院教授 久 我 直 人
夏 期	1	9月3日(日)	親子でできる防災教育のスタートに 防災お菓子リュックづくり講座 【親子参加型講座】	一般社団法人いちご 代表 藤 井 さやか
	2	9月12日(火)	親子でできる家庭での備えかたを学ぶ コヅレダカラジタクヒナンノススメ講座	ママ防災塾 マモルママズ 代表 高 木 有 加
	3	9月22日(金)	普段でも重宝！一石二鳥の かんたん防災クッキング講座	ママ防災アドバイザー 高 良 綾 乃
秋 期	1	11月2日(木)	親の言葉を変えれば子どもは伸びる！ ～子どものやる気が上がり親子関係もよくなる言葉とは？～	教育評論家 親 野 智可等
	2	11月9日(木)	「幼児期から思春期の子どもの 発達と関わり方」 ～今、大切にしたい心の成長～	公認心理師 羽 畑 あい子
	3	11月13日(月)	子どもが生きるネット社会の現状 ～大人として知っておきたいこと～	NPO法人 イーランチ理事 桑 原 光 子

② 家庭教育講座支援事業

すべての教育の原点である家庭教育力の向上を目的として開催される、家庭教育に関する学習会へ講師を派遣している。

(令和4年度実績)

〈派遣件数〉 6件

③ 家庭教育支援チーム出前講座

県が養成している家庭教育支援員と連携し、市内各園・各校の保護者団体等からの要請に応じて家庭教育に関する出前講座を行っている。また、自由に保護者が話し合う場での進行役を家庭教育支援員が務め、保護者の悩みや不安の軽減を図っている。

(令和4年度実績)

〈利用件数〉 4件

(3) 高齢者学習

生涯学習の一環として、昭和48年度から「万年青大学」と「寿大学」を開設したものであり、高齢者が、生きがいのある明るく健康な市民生活を送ると同時に、学んだことや知恵、技術を次世代に伝えていくことをねらいとしている。

万年青大学5学級（月、火星、水星、木星、金星）と寿大学16学級（金岡、今沢、片浜西部、片浜東部、第三中、原、浮島、香南、我入道、日枝、大平、内浦、橘西浦、大岡、愛鷹、門池）の計21学級を開設している。

〈対象〉 65歳以上の市民（寿大学は当該地域の住民）

〈開設期間〉 4月～3月

〈会場〉 万年青大学：市民文化センター
寿大学：各地区センターほか

〈学習時間数〉 開設後は、毎月1回の講義を行う

〈内容〉 歴史・健康・防災・交通安全・文学・音楽等の様々な分野を幅広く学習する。

◎高齢者学級学習計画の例

回	学 習 活 動	回	学 習 活 動	回	学 習 活 動	回	学 習 活 動
1	開講式・オリエンテーション	4	防ごう消費者トラブル	7	高齢者の防災対策	10	新春放談会
2	健康表現体操	5	健康寿命を延ばそう	8	トーンチャイム演奏会	11	大正琴コンサート
3	朗読を楽しむ	6	話し方と人間関係	9	分かりやすい食品表示	12	閉講式・反省会

令和5年度 高齢者学級（万年青大学・寿大学）開設状況一覧表

令和5年4月1日現在

No.	大 学 ・ 学 級 名	人数	会 場	開設年
1	金 岡 寿 大 学	127	金 岡 地 区 セ ン タ ー	昭和57年
2	今 沢 寿 大 学	42	今 沢 地 区 セ ン タ ー	昭和61年

No.	大学・学級名	人数	会場	開設年
3	片浜西部寿大学	24	松長集会所	昭和60年
4	片浜東部寿大学	25	西間門公会堂	昭和60年
5	第三中寿大学	16	島郷自治会館	平成5年
6	原寿大学	63	原地区センター	昭和50年
7	浮島寿大学	16	浮島地区センター	昭和51年
8	香南寿大学	36	第三地区センター	昭和55年
9	我入道寿大学	42	我入道自治会館	昭和55年
10	日枝寿大学	43	日吉自治会館	昭和53年
11	大平寿大学	28	大平地区センター	昭和56年
12	内浦寿大学	23	内浦地区センター	昭和54年
13	橘西浦寿大学	18	西浦地区センター	昭和54年
14	大岡寿大学	67	大岡地区センター	昭和58年
15	愛鷹寿大学	64	愛鷹地区センター	昭和48年
16	門池寿大学	69	門池地区センター	平成27年
寿大学計		703		
17	万年青大学月組	55	市民文化センター	昭和48年
18	万年青大学火星組	43		
19	万年青大学水星組	48		
20	万年青大学木星組	18		
21	万年青大学金星組	40		
万年青大学計		204		
合計		907		

(4) 社会教育指導員

社会教育の一層の推進を図るため、「沼津市社会教育指導員設置規則」に基づき、生涯学習課に6人の指導員が置かれている。指導員は教育に関して豊かな識見と指導技術を有し、家庭教育、高齢者学習に関する指導、助言にあたっている。

担当別内訳は次のとおりである。

家庭教育担当 1人 高齢者学習担当 5人

(5) 社会教育関係団体の活動支援

社会教育活動を行っている団体に対し、活動支援のため補助金を交付している。

① 沼津市PTA連絡協議会

沼津市PTA連絡協議会は、市内37（小学校20、中学校14、小中一貫学校3）の単位PTAの相互連携を図り、児童生徒の健全な育成を図るため、PTA活動を促進するとともに児童生徒の校外生活指導や地域の教育環境の充実に努めている。

② 沼津ユネスコ協会

沼津ユネスコ協会は、ユネスコ憲章に則り、教育・科学・文化を通して国際理解と国際協力を進め、世界の平和に貢献することを目的として昭和45年に設立された民間団体である。平成6年度からワーキンググループとして、4つの運営部会を設け、それぞれが協力し合いながら公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が提唱している世界寺子屋運動・世界遺産に関する運動などに取り組んでいる。

令和4年度に実施した主な事業

○絵で伝えよう！わたしの町のたからもの 小中学生絵画展

小中学生を対象とした地域の文化、自然を描いた絵画展を開催し、4校30点の作品を展示した。(11月16日～11月22日)

令和5年度事業計画

○日本ユネスコ運動全国大会及び県ユネスコ連絡協議会総会に参加し、他のユネスコ協会等との情報交換・交流を図る。

○会員相互の教養を高めるため、文化施設・史跡等を訪ねるユネスコの旅を実施する。

○小中学生を対象とした地域での文化・自然等を描いた「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」小中学生絵画展を開催する。

○沼津ユネスコフェスティバルを開催し、地域で活動する伝統芸能団体の舞台発表やユネスコ活動のPRを実施する。

各 運 営 部 会 の 事 業 計 画			
教 育 ・ 文 化	国 際 交 流	コ ー ア ク シ ョ ン	広 報 ・ 啓 発
○教育・文化事業の推進	○国際支援活動への協力 ○国際関係団体との連携	○フリーマーケット参加 ○書き損じハガキの回収	○ユネスコだよりの発行 ○ユネスコのPR活動

芸 術 文 化

1. 沼津市芸術祭

市民による自主的な芸術・文化の振興を図る場として、昭和49年度から「沼津市芸術祭」を開催している。

令和5年度は沼津市芸術祭開催委員会が組織する20行事が中心となって運営し、10月1日から11月19日までの間に実施する。

令和5年度 第50回沼津市芸術祭日程表

令和5年4月1日現在

A 市民文化センター B 市立図書館 C プラサヴェルデ

行 事 名	開 催 日	会 場	
開 会 式	10月1日(日)	A ロビー	
合 唱 祭	10月1日(日)	A 大ホール	
芸 術 祭 茶 会	10月1日(日)	御用邸記念公園 東附属邸 翠松亭	
書 道 展	10月4日(水)～10月9日(月・祝)	C 市民ギャラリー	
写 真 展	10月6日(金)～10月10日(火)	A 展示室	
秋 の 舞 踏 会	10月8日(日)	A 小ホール	
美 術 展 (洋画・日本画・水彩、版画)	10月13日(金)～10月16日(月)	C 市民ギャラリー	
バレエパフォーマンス	10月15日(日)	A 大ホール	
沼 津 寄 席	10月15日(日)	B 視聴覚ホール	
邦 楽 祭	10月22日(日)	A 小ホール	
現 代 い け ば な 展	10月27日(金)～10月29日(日)	A 展示室	
郷 土 ふ れ あ い 太 鼓	10月29日(日)	A 大ホール	
音 楽 の 広 場	11月3日(金・祝)	A 大ホール	
クライネムジークコンサート	11月4日(土)	A 小ホール	
日 本 舞 踊 祭	11月5日(日)	A 小ホール	
吟 詠 祭	11月5日(日)	A 大会議室	
演 劇 祭	11月11日(土)	A 小ホール	
新 舞 踊 祭	11月12日(日)	A 小ホール	
ぬまづ 文 芸	入 賞 者 発 表	10月10日(火)	郵送
	発 刊	11月19日(日)	
閉 会 式 ・ 表 彰 式	11月19日(日)	C コンベンションホールB	

2. ぬまづ茶会

昭和58年度に市制60周年の記念事業として沼津産やぶきた茶が昭和天皇への献上茶になったことを契機に開催して以来、沼津御用邸記念公園での野点の雰囲気味わっていただき、茶道文化の普及と本市の都市イメージの向上を目指して、毎年5月に開催している。

3. 山口源賞

本市ゆかりの版画家、山口源の業績を顕彰するとともに、版画を通して市民の芸術文化の向上を図るために、昭和58年度に沼津市芸術文化振興基金を活用して山口源賞を制定した。大賞と新人賞があり、令和5年度は10月に新人賞を授与する。版画の普及を図るため、受賞者を講師に迎え、市内の高校2校や、一般公募による版画ワークショップを開催している。また、山口源没後50年に向け、有識者による記念事業検討懇話会において事業構築の検討を進めている。

4. 伝統文化体験事業

伝統文化に気軽に触れる機会を子どもたちに提供し、その普及啓発を促進するとともに、地域の文化資源（人、モノ）の掘り起こしを図るため、親子を対象とした和太鼓演奏、書道、和装、茶道などの教室を開催している。

5. まちなかコンサート

プロの演奏者や地域の演奏家などによる音楽コンサートを開催し、芸術に触れる機会を提供することと、市のにぎわいづくりを目的とした事業を実施した。

○令和4年度実績

内 容	開 催 日	会 場	参加人数
まちなかで楽しむピアノの響き	11月6日(日)	仲見世商店街	350人

文 化 財

1. 文化財の概念及び保護の必要性

「文化財」の指し示す内容は多岐に渡り、広義には人類がその活動の過程において生み出した「文化的所産」のすべてをいう。形として残されたものはもちろん、形では示すことができない技術・芸能・風俗習慣も含まれている。また人が働き掛けた結果、維持されている自然環境も文化財として捉える傾向にあり、ユネスコの「文化遺産（Cultural Heritage）」とほぼ同じ内容をさす。

狭い意味では、日本の文化財保護法第2条及び地方公共団体の制定する文化財保護条例に規定されている「文化財」がその対象となる。文化財保護法で文化財と規定されているものには、①有形文化財・②無形文化財・③民俗文化財・④記念物・⑤文化的景観・⑥伝統的建造物群があり、これらはさらに細分される。また、⑦文化財の保存技術や⑧埋蔵文化財も保護する対象となっている。

文化財はその時代に生きた人々の創造的・文化的活動の象徴であり、そこには我々がこれからの時代を展望する上で学ぶべき情報が凝縮されている。したがって現代に生きる私たちは、これらの文化財を保護し、永く後世に伝えていく義務を負っていると考えなければならない。近年では文化財保護活動の一環として、あるいはこれと切り離すことができない活動として、「普及と活用」が求められている。

2. 沼津市の文化財保護

近年における著しい地域開発の進展は、本市においても例外ではなく、貴重な文化遺産を次々と消滅させてきている。とりわけ遺跡の名で呼ばれる埋蔵文化財の破壊は著しいものがあり、開発と遺跡保護との問題がたびたび論議されている。このため、開発を行おうとする事業者等に対し、破壊防止と保護を目的として必要に応じて埋蔵文化財確認調査の実施を指導している。

その他の文化財についても、文化財の現況を調査し、よりきめの細かな保護策を講じ、また必要に応じて記録保存や整備に努めている。

さらに、文化財の愛護思想の周知啓発を図るため、学校等からの要望による「出前講座」を積極的に受け入れている。

3. 文化財保護審議会

文化財の保存及び活用のため必要な措置を講じ、市民の文化的向上に資するとともに、我が国文化の進歩に貢献するために、沼津市教育委員会の諮問機関として沼津市文化財保護審議会を設置している。これは、教育委員会の諮問に応じ、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議するとともに、これらに関する専門的及び技術的事項に関し、必要と認める事項を教育委員会に建議するという役割をもっている。委員は10人以内で構成され、その任期は2年となっている。

令和4年度活動実績

第1回文化財保護審議会

- 案件……………
1. 現地視察
 - ・松城家住宅
 2. 案件
 - ・沼津沿岸の漁撈に関する奉納絵馬について
 3. 報告事項
 - ・沼津市文化財保存活用地域計画の策定について
 - ・令和4年3月23日実施の光長寺涅槃図調査について
 - ・高尾山古墳について

第2回文化財保護審議会（オンライン）

- 案件……………
1. 報告事項
 - ・海瀬家住宅の調査について
 - ・赤野観音堂の調査について
 2. 検討事項
 - ・今後の指定について
 - ・沼津市文化財保存活用地域計画について
 3. その他
 - ・沼津沿岸の漁撈に関する奉納絵馬について
 - ・松城家住宅のオープンについて
 - ・高尾山古墳について
 - ・史跡興国寺城跡について
 - ・天然記念物大瀬崎のビャクシン樹林について

4. 文化財活用推進事業

平成31年4月施行の文化財保護法の改正により、文化財は、これまでの調査・保存だけでなく、その成果を市民に発信するなど積極的な活用が求められている。本市では、統合により廃校となった旧静浦西小学校を、文化財の管理や調査のための機能のほか、展示室や体験室、講座室を備えた文化財センターに改修して、片浜地区にあった旧施設から機能を拡充し平成31年2月に移転した。この新たな文化財センターを拠点として、埋蔵文化財を含む市内の文化財の活用や情報発信に取り組んでいる。

令和4年度実施実績

- ・川をテーマとした文化財講座の実施
「狩野川・富士川が作りだした古代社会」～沼津・富士の原風景を考える～
- ・まちあるきマップ作成（内浦地区、西浦地区）
- ・個人でまわる文化財めぐりの実施（解説動画にリンクするQRコードを文化財に設置）
- ・文化財センター通信の発行（年3回）
- ・展示室の公開、展示室パンフレットの配布
- ・N-GIGAへのデジタルコンテンツの提供

令和5年度事業計画

- 高尾山古墳国史跡指定記念イベント等開催、子供向け文化財体験イベントの実施
- まちあるきマップ作成（大平地区）
- 文化財保存活用地域計画の策定
- 個人でまわる文化財めぐりの実施（解説動画にリンクするQRコードを文化財に設置）
- 文化財センター通信の発行（年2回）
- 展示室の公開、展示室パンフレットの配布
- N-GIGAへのデジタルコンテンツの提供

5. 埋蔵文化財

(1) 開発行為の調整・指導

埋蔵文化財包蔵地内の開発及び埋蔵文化財分布調査指導依頼のあった開発行為について、遺跡の確認調査を行い、その結果に基づいて指導・調整を行う。

令和4年度実施実績

- 公共事業（文化財保護法第94条）……14件
- 民間事業（文化財保護法第93条）……91件

(2) 遺跡の分布調査・発掘調査

民間開発事業及び公共事業に伴う埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査

令和4年度実施実績

- 岡宮北土地区画整理事業
- 埋蔵文化財発掘調査補助事業

令和5年度事業計画

- 岡宮北土地区画整理事業
- 道路新設改良事業（中原遺跡）
- 静岡東部拠点土地区画整理事業
- 埋蔵文化財発掘調査補助事業

(3) 発掘調査成果の整理・報告書の刊行

令和4年度実施実績

- 中原遺跡埋蔵文化財発掘調査受託事業
- 鉄道施設移転事業（中原遺跡）
- 片浜西沢田線道路改良事業
- 静岡東部拠点土地区画整理事業
- 埋蔵文化財発掘調査補助事業
- 埋蔵文化財発掘調査整理事業

令和5年度事業計画

- 中原遺跡埋蔵文化財発掘調査受託事業
- 鉄道施設移転事業（中原遺跡）
- 片浜西沢田線道路改良事業
- 香陵公園周辺整備事業

- ・静岡東部拠点土地区画整理事業
- ・埋蔵文化財発掘調査補助事業
- ・埋蔵文化財発掘調査整理事業

(4) 普及啓発活動

令和5年度事業計画

- ・文化財調査報告書の頒布
- ・体験学習の受け入れ
- ・資料の貸し出し
- ・出前講座
- ・学芸員による文化財センター展示室の解説動画を配信

6. 文化財管理

文化財の保護・管理

令和4年度実施実績

・史跡等の保全管理

休場遺跡、興国寺城跡、江浦横穴群、長浜城跡、長塚古墳、大瀬崎のビヤクシン樹林、井田松江古墳群、高尾山古墳の雑草木の除去、大瀬崎ビヤクシン樹林の病害虫防除、史跡の環境整備

・史跡等の保存整備

興国寺城跡保存整備事業（整備調査委員会の開催、整備基本計画作成、発掘調査ほか）

長浜城跡保存活用事業（長浜城北条水軍まつり参画※、公開活用、維持管理ほか）

※…新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

戸田松城邸保存修復事業（第Ⅲ期工事（石塀）、指定管理者選定・一般供用開始）

帯笑園保存活用事業（一般公開、維持管理ほか）

高尾山古墳保存整備事業（意見具申書作成委員会の開催、意見具申書作成、遺構保護措置、現地説明会）

大瀬崎のビヤクシン樹林保存活用事業（管理道路実施設計、維持管理ほか）

令和5年度実施計画

・普及啓発活動

まちあるきマップ作成

・史跡等の保全管理

休場遺跡、興国寺城跡、江浦横穴群、長浜城跡、長塚古墳、大瀬崎のビヤクシン樹林、松城家住宅、帯笑園、井田松江古墳群、高尾山古墳の雑草木の除去、大瀬崎のビヤクシン樹林の病害虫防除、史跡の環境整備

・史跡等の保存整備

興国寺城跡保存整備事業（整備調査委員会の開催、発掘調査、整備基本計画作成ほか）

高尾山古墳保存整備事業（整備委員会の設立・開催、保存活用計画策定、国史跡指定記念イベント等開催、遺構保護措置）

大瀬崎ビヤクシン樹林保存活用事業（管理道路工事、維持管理ほか）

7. 重要文化財 松城家住宅

松城家住宅は、江戸時代から廻船業を営み財を成した松城家の居宅として明治6年に棟上げされた。建築様式は擬洋風建築と呼ばれ、幕末から明治初期のわずかな期間にのみ建築された貴重なものであり、日本に現存する擬洋風建築の中でも最初期のものである。また、主屋内部には左官の名工といわれた入江長八やその一派が手掛けたとされる漆喰鏝絵が随所に配されている。



松城家住宅は、平成18年に重要文化財に指定されたのち、平成28年から令和4年まで保存修理工事を行い、明治初期の佇まいに復原され、令和4年11月3日から一般公開を開始した。

(1) 施設の概要

名 称	重要文化財松城家住宅（平成18年7月5日 重要文化財指定）
所 在 地	沼津市戸田72
電 話	0558-94-3115（指定管理者 戸田観光協会）
一 般 公 開	令和4年11月3日
施 設 内 容	主屋・ミセ・文庫蔵・東土蔵・北土蔵・門柱及び外塀・庭門及び塀
開 館 時 間	午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）
観 覧 料	大人（高校生以上）300円 小人（小・中学生）100円 市内の小・中学生は無料 団体（20人以上）大人（高校生以上）200円 小人（小・中学生）50円
休 館 日	水曜日（水曜日が休日の場合は翌日） 年末年始（12月31日・1月1日）
貸 館	全館又は土蔵（展示物の展示のみ）

(2) 運営

指定管理者の指定 令和4年11月1日から戸田観光協会を指定管理者に指定している。

令和4年度事業実績

事業名	期 日	内 容	備 考
イベント等	12月5日～ 12月18日	深海魚まつりスタンプラリー QRコードチェックポイントとして参加	参加者 17人
	11月3日～ 3月31日	「ふじのくに地域クーポン（QRコード）」 利用店登録	
	2月23日	富士山の日イベント企画展 紙芝居 戸田読み聞かせ倶楽部たちばな 高足ガニ魔除けのお面展示会 ぼんこつポン子イラスト展	入館者 166人

令和5年度事業計画

事業名	期 日	内 容	備 考
イベント等	4月～	館内案内ガイド（個人/団体）予約フォームの新設	
	4月～5月	「昭和の松城家」パネル展示会	

事業名	期日	内容	備考
イベント等	11月3日	開館1周年記念イベント	
	2月23日	富士山の日イベント	

令和4年度入館者数（令和4年11月3日～令和5年3月31日まで）

総入館者数	有料者	無料者	開館日	一日平均入館者数
2,015人	1,693人	322人	125日	16.2人

8. 帯笑園（登録記念物）

帯笑園は、原の素封家植松家が江戸時代後期から昭和初期まで代々伝えてきた東海道随一とうたわれた名園である。一般的な庭園とは異なり、珍しい植物のコレクションを陳列し、当時には珍しい温室を備えるなど、植物園のような性格をもつものであった。

帯笑園は、平成24年に登録記念物（名勝地関係）として国登録され、その後園地整備等を進め、平成31年4月29日から一般公開を開始した。



(1) 施設の概要

名称	帯笑園（平成24年9月19日 登録記念物登録）
所在地	沼津市原字御殿場194番1 外2筆
電話	935-5010（沼津市文化財センター）
一般公開	平成31年4月29日
面積	2,211.70㎡（登録面積 1,584.38㎡）
施設内容	庭園・臨春亭・西藏・居間蔵等
開園時間	午前9時～午後4時（土曜日・日曜日・祝日のみ）
観覧料	無料
休園日	平日 年末年始（12月29日～1月3日）

(2) 運営

来園者に対する案内及び庭園等の日常的な管理について、令和元年度から毎年度、帯笑園保存会への業務委託により実施している。なお帯笑園保存会の自主事業として、令和4年度は桜草鑑賞会・琴の演奏会、ウチョウラン展・陶芸展、秋の七草・山野草・キク花展など四季折々のイベントを実施し、令和5年度も同様のイベントを予定している。

令和4年度入園者数

入園者数	開園日	一日平均入園者数
2,814人	85日	33.1人

沼津市の文化財

○国 指 定

種 別	名 称	指定年月日	所 在
工 芸 品 (国 宝)	太刀 銘一	昭 27.11.22	佐 野 美 術 館
工 芸 品 (重要文化財)	短刀銘備中國住守次作延文二年八月日	昭 27. 7.19	大 岡
建 造 物 (重要文化財)	松城家住宅 7 棟	平 18. 7. 5	戸 田
絵 画 (重要文化財)	紙本著色山王靈驗記	昭 25. 8.29 (旧指定 昭2.4.15)	東京国立博物館
工 芸 品 (重要文化財)	太刀 銘眞長 附絲卷太刀拵	昭 29. 3.20	佐 野 美 術 館
”	沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵	”	”
”	金銅聖観音像懸仏	昭 39. 5.26	千 本 常 盤 町
典 籍 (重要文化財)	宝物集巻第一 附原表紙	平 6. 6.28	岡 宮
史 跡	休場遺跡	昭 54. 1.24	宮本字元野ほか
”	長浜城跡	昭 63. 5.13 追加 平14.12.19	内 浦 長 浜 ほ か
”	興国寺城跡	平 7. 3.17 追加 平12. 3. 7 追加 平19. 7.26 追加 平24. 9.19	根古屋字古城ほか
天然記念物	大瀬崎のビャクシン樹林	昭 7. 7.25	西 浦 江 梨
重 要 有 形 民 俗 文 化 財	沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具	平 22. 3.11	歴史民俗資料館
名 勝	旧沼津御用邸苑地	平 28.10. 3	下 香 貫

○国 登 録

種 別	名 称	指定年月日	所 在
建 造 物 (有形文化財)	光長寺御宝蔵	平 12. 2.15	岡 宮
”	大中寺恩香殿・通玄橋	平 12. 4.28	中 沢 田
”	安田屋旅館松棟・月棟	”	内 浦 三 津
”	沼津倶楽部北棟・南棟・長屋門	平 27. 3.26	千 本 郷 林
”	松蔭寺開山堂・山門	平 28. 8. 1	原 東 町
”	小栗家住宅主屋	令 2. 4. 3	上香貫字榎島町
名勝地関係 (記念物)	帯笑園	平 24. 9.19	原 西 町

○県 指 定

種 別	名 称	指定年月日	所 在
絵 画	白隠自画像	昭 43. 7. 2	原 東 町
工 芸 品	槍 名物蜻蛉切	昭 30. 2. 25	佐 野 美 術 館
”	太刀 銘景則	昭 30. 4. 19	”
”	太刀 銘備州長船住近景	”	”
”	太刀 銘了戒	”	”
”	刀 銘津田越前守助廣	”	”
”	短刀 銘信國 俱利迦羅透彫	昭 32. 5. 13	”
”	梵 鐘	昭 31. 10. 17	本 郷 町
典 籍	科註妙法蓮華經	昭 30. 4. 19	原 東 町
古 文 書	法門聴聞集 附連々聴聞集 日弁消息 日意筆法門聴聞集表題並びに奥書	平 6. 3. 25	岡 宮
考 古 資 料	玉砥石	昭 31. 5. 24	平 町
”	蔵骨器	昭 31. 10. 17	本 郷 町
”	子持勾玉 附白玉他滑石製模造品	昭 33. 9. 2	歴史民俗資料館
”	植出北Ⅱ遺跡出土ガラス勾玉鎔範 4点	令 2. 12. 8	志 下
歴 史 資 料	繡字法華經 附1幅	平 8. 11. 18	岡 宮
有 形 民 俗	大瀬神社奉納漁船模型	昭 56. 10. 23	西 浦 江 梨
”	浮島沼周辺の農耕生産用具	平 2. 3. 20	歴史民俗資料館
無 形 民 俗	戸田の漁師踊・漁師唄	昭 54. 11. 19	戸 田
”	江浦の水祝儀	平 11. 3. 15	江 浦
史 跡	白隠禅師墓	昭 29. 1. 30	原 東 町
”	江浦横穴群	昭 52. 3. 18	江 浦
”	洋式帆船建造地及びプチャーチン宿所 附関係遺品一括	昭 42. 10. 11 追加・名称変更 昭 56. 10. 23	戸 田
”	井田松江古墳群	平 7. 3. 20	井 田
”	長塚古墳	平 11. 11. 16	東 沢 田
天 然 記 念 物	岡宮浅間神社のクス	昭 44. 5. 30	岡 宮
”	御浜岬のイヌマキ群生地	昭 55. 11. 28	戸 田
”	鮎壺の滝	平 8. 3. 12	大 岡 ほ か
”	河内の大スギ	平 14. 3. 22	西 浦 河 内

○市 指 定

種 別	名 称	指定年月日	所 在
建 造 物	禅長寺頼政堂	平 12. 3. 31	西 浦 河 内
”	赤野観音堂	”	柳 沢
”	大川家長屋門	平 20. 1. 17	内 浦 長 浜
絵 画	涅槃図	平 21. 3. 30	下 河 原 町
彫 刻	木造十一面観世音菩薩立像	昭 47. 12. 14	柳 沢
”	木造阿弥陀如来三尊立像	”	下 小 路 町
”	木造盧舎那仏坐像	”	市 道 町
”	木造地藏菩薩坐像	昭 50. 5. 8	大 岡
”	木造伝月光菩薩立像	”	歴 史 民 俗 資 料 館
”	木造観世音菩薩立像	”	大 平
”	木造阿弥陀如来立像	”	西 浦 河 内
”	木造金剛力士像 阿形・吽形	”	岡 宮
”	木造釈迦如来坐像	”	下 河 原 町
”	木造観世音菩薩立像	昭 55. 5. 15	大 平
”	木造白隠禅師坐像	平 29. 3. 28	原 東 町
工 芸 品	千手観音像懸仏	平 15. 1. 31	西 浦 河 内
”	大日如来像懸仏	”	”
”	諸口神社の鰐口	平 18. 3. 28	戸 田
書 跡	京極為兼卿書状	昭 60. 2. 21	平 町
古 文 書	今川氏親生母伊勢氏寺領寄進状	昭 47. 12. 14	下 小 路 町
”	今川氏親生母伊勢氏寄進寺領書立	”	”
”	今川氏親棟別役免除朱印状	”	”
”	獅子浜植松家戦国文書	平 23. 2. 8	明 治 史 料 館
考 古 資 料	休場遺跡出土細石器	昭 58. 12. 15	志 下
”	軒通遺跡出土壺形土器	”	”
”	三角縁神獸鏡	平 20. 1. 17	中 沢 田
歴 史 資 料	輿地航海図	昭 59. 4. 19	明 治 史 料 館
”	大平村絵図	平 2. 3. 29	大 平
”	三枚橋絵図	”	歴 史 民 俗 資 料 館
”	沼津宿絵図	”	”
”	本町絵図	”	”
”	上香貫絵図	”	”
”	井田の不動明王像	平 18. 3. 28	井 田
”	ディアナ号の錨	”	戸 田
有 形 民 俗 文 化 財	沼津沿岸の漁撈に関する奉納絵馬	令 4. 9. 8	歴 史 民 俗 資 料 館 ほか
史 跡	神明塚古墳	昭 45. 2. 19	松 長
”	子ノ神古墳	”	西 沢 田
”	日吉廃寺塔址及び礎石	”	大 岡
”	霊山寺変形宝篋印塔	”	本 郷 町
”	霊山寺五輪塔	”	”
”	伝阿野全成・時元墓	昭 58. 6. 15	井 出
”	日露交渉地跡大行寺	平 18. 3. 28	戸 田
天 然 記 念 物	久連神社社叢	昭 52. 12. 22	西 浦 久 連
”	赤野観音堂のカヤ	”	柳 沢
”	河内の稲荷スギ	平 15. 1. 31	西 浦 河 内
”	部田神社のコブ付大クス	平 18. 3. 28	戸 田

○沼津市文化財センター頒布図書一覧

集	発行年	頒 布 図 書 名	頒布価格
13	1978	藤井原遺跡発掘調査報告書Ⅰ 遺構編	3,000円
15	1979	大瀬崎ビャクシン樹林環境調査報告書	1,000円
18	1980	長井崎遺跡発掘調査報告書	2,000円
30	1983	尾上イラウネ遺跡発見の線刻磔調査報告書	1,500円
33	1985	寺林南遺跡発掘調査報告書	1,500円
35	1985	埋蔵文化財発掘調査報告書	2,000円
36	1985	平沼吹上遺跡発掘調査報告書	3,000円
37	1986	豆生田遺跡詳細分布調査報告書	1,000円
40	1986	江浦の水祝儀	3,000円
41	1987	広合遺跡発掘調査報告書	5,000円
44	1989	豆生田遺跡発掘調査報告書	3,000円
46	1989	雄鹿塚遺跡発掘調査報告書	2,500円
47・48	1989・1990	清水柳北遺跡発掘調査報告書その1 その2	14,000円
49	1990	広合遺跡（b・c・d区）・広合南遺跡発掘調査報告書	5,000円
50	1990	大谷津遺跡発掘調査報告書	4,000円
51	1990	雌鹿塚遺跡発掘調査報告書	7,000円
52	1991	広合遺跡（e区）・二ツ洞遺跡（a区）発掘調査報告書	6,500円
53	1992	尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ	10,000円
54	1993	二ツ洞遺跡（b・c区）発掘調査報告書	3,000円
55	1994	大谷津遺跡・井出丸山古墳発掘調査報告書	3,000円
56	1995	土手上遺跡（b・c区）発掘調査報告書	4,000円
57	1995	下道遺跡発掘調査報告書	2,000円
58	1995	埋蔵文化財発掘調査報告書	2,500円
59	1996	西洞遺跡（a区）・葛原沢遺跡発掘調査報告書	3,000円
60	1996	三枚橋城址外堀跡発掘調査報告書	2,000円
61	1996	柏葉尾遺跡発掘調査報告書	2,000円
62	1996	下石田原田遺跡発掘調査概報	500円
63	1997	土手上遺跡（d・e区-1）発掘調査報告書	3,500円
64	1998	土手上遺跡（d・e区-2）発掘調査報告書	2,500円
65	1998	拓南東遺跡発掘調査報告書	2,000円
66	1998	鳥沢遺跡発掘調査報告書	1,500円
67	1998	御幸町遺跡発掘調査報告書 一遺物編（土器）一	2,000円
68	1999	長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告書	1,000円
69	1999	西洞遺跡（b区-1）発掘調査報告書	2,600円
70	1999	埋蔵文化財発掘調査報告書	2,600円
71	2000	西洞遺跡（b区-2）発掘調査報告書	1,500円
72	2000	東畑毛遺跡（第4次）発掘調査報告書	1,500円
73	2000	尾崎遺跡発掘調査報告書	1,000円
74	2000	下石田原田遺跡発掘調査報告書	2,800円

集	発行年	頒 布 図 書 名	頒布価格
75	2000	鳥谷アラク遺跡発掘調査報告書	600円
76	2001	北神馬土手遺跡・尾上Ⅱ橋遺跡発掘調査報告書	2,800円
78	2002	西洞遺跡（c・d区）発掘調査報告書	1,000円
79	2002	千本遺跡発掘調査報告書	1,000円
80	2002	稲荷林遺跡発掘調査報告書	500円
81	2002	尾上イラウネ北遺跡（第2次）発掘調査報告書	500円
82	2003	市道0230号線関連遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書	1,500円
83	2004	三芳町遺跡発掘調査報告書	500円
84	2004	八兵衛洞遺跡発掘調査報告書	1,000円
85	2004	上ノ段遺跡発掘調査報告書(1)	1,000円
86	2004	埋蔵文化財発掘調査報告書 4	500円
87	2005	埋蔵文化財発掘調査報告書 5	1,000円
88	2005	史跡長浜城跡発掘調査概報	200円
89	2006	石川古墳群 第二東名No.34地点 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－1 第一分冊・第二分冊	1,800円
90	2007	尾上第1遺跡 第二東名No.3地点 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－2	850円
91	2007	西ノ久保遺跡発掘調査報告書	350円
92	2007	八兵衛屋敷遺跡発掘調査報告書	350円
93	2007	尾上第2遺跡発掘調査報告書	400円
94	2008	尾壺遺跡 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－3	1,300円
95	2009	稲荷林遺跡（第2次）発掘調査報告書	900円
96	2009	清水柳北遺跡（第3次）発掘調査報告書	350円
97	2009	中見代第Ⅰ遺跡発掘調査報告書(2) 第二東名No.6地点 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－4	1,500円
98	2010	尾壺遺跡（第2次）・清水柳北遺跡（第2次）発掘調査報告書	1,000円
99	2010	八兵衛洞遺跡（第3次） 第二東名No.9・10・11・12地点 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－5	1,200円
100	2011	井出丸山遺跡発掘調査報告書	600円
101	2011	拓南遺跡発掘調査報告書	300円
102	2011	二ッ洞南遺跡・植出北Ⅱ遺跡 第二東名No.4・5地点 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼津市－6	2,000円
103	2011	鳥沢遺跡第2次発掘調査報告書	400円
104	2011	高尾山古墳発掘調査報告書	(品切れ)
114	2016	国史跡長浜城跡整備事業報告書	(品切れ)
	1982	沼津の文化財	600円
	1994	沼津の文化財 補遺	400円
	2002	沼津の文化財 補遺(Ⅱ)	200円
	1987	興国寺城文献資料集	500円
	2017	スルガ最初の王ここに眠る 高尾山古墳	100円
	2020	もっと知りたいぬまづのこと ぬまづの史跡ガイドブック	160円

※2017年以降はPDFにて無償公開

9. 地域史保存活用事業

沼津市史や戸田村史の編さん事業をとおして収集された沼津の歴史を明らかにする貴重な歴史資料を市民共有の財産として後世に伝え、さらに、市民の郷土に対する理解を深めるとともに、歴史的価値のある文書等の散逸を防ぎ、記録・保存し、資料の活用を推進する。

○刊行物 (有 償)

	発行年	図 書 名	頒布価格
沼津市史	1993	沼津市史 史料編 近世 1	¥6,000
	1996	沼津市史 史料編 古代・中世	¥7,000
	1997	沼津市史 史料編 近代 1	¥7,000
	1999	沼津市史 史料編 漁村	¥6,000
	1999	沼津市史 資料編 自然環境	¥7,000
	2000	沼津市史 史料編 近世 2	¥6,000
	2001	沼津市史 史料編 近代 2	¥5,000
	2002	沼津市史 資料編 民俗	¥5,000
	2002	沼津市史 資料編 考古	¥4,000
	2003	沼津市史 史料編 近世 3	¥5,000
	2004	沼津市史 史料編 現代	¥5,000
	2004	沼津市史 別 編 絵図集	残部なし
	2005	沼津市史 通史編 原始・古代・中世	¥3,000
	2006	沼津市史 通史編 近世	¥3,000
	2007	沼津市史 通史編 近代	¥3,000
	2007	沼津市史 通史別編 漁村	¥2,500
	2009	沼津市史 通史編 現代	¥3,000
	2009	沼津市史 通史別編 民俗	¥2,500
戸田村史	2014	戸田村史 民俗編	残部なし
	2016	戸田村史 通史編	¥3,000
沼津市史研究	1992	沼津市史研究 1	残部なし
	1993	沼津市史研究 2	¥1,000
	1994	沼津市史研究 3	¥1,000
	1995	沼津市史研究 4	¥1,000
	1996	沼津市史研究 5	¥1,000
	1996	沼津市史研究 6	¥1,000
	1998	沼津市史研究 7	¥1,000
	1999	沼津市史研究 8	¥1,000
	2000	沼津市史研究 9	¥1,000
	2001	沼津市史研究10	¥800
	2002	沼津市史研究11	¥800
	2003	沼津市史研究12	¥800
	2004	沼津市史研究13	¥800
	2005	沼津市史研究14	¥800
	2006	沼津市史研究15	¥800
	2007	沼津市史研究16	¥800
	2008	沼津市史研究17	¥800
	2009	沼津市史研究18	¥800
	2011	沼津市史研究19	¥800

	発行年	図 書 名	頒布価格
沼津市史叢書 一	1993	静岡県漁場図解説書	¥1,500
二	1994	戦中絵日記	¥2,000
三	1995	原宿植松家 日記・見聞雑記	¥2,000
四	1996	旧村地誌 金岡村誌・鷹根村誌・鷹根村沿革誌	¥2,000
五	1998	原宿植松家 日記・見聞雑記二	¥2,000
六	1998	破れ扇・伊勢参宮画日記	¥2,000
七	2000	大平村古記録	¥1,500
八	2001	沼津史料 付 沼津宿案内記中巻	¥1,000
九	2003	旧村地誌二 浮島村誌・郷土の研究	¥1,000
十	2004	沼津漁村記録	¥1,000
十一	2009	江藤千萬樹考古学論集	¥1,500
沼津市史編さん 調査報告書 一	1991	江藤・増山家古文書目録	残部なし
二	1992	桃里の民俗（民俗報告書一）	残部なし
三	1993	愛鷹の石仏・石神（石仏・石神報告書一）	残部なし
四	1993	木負・河内の民俗（民俗報告書二）	残部なし
五	1993	大平の石仏・石神（石仏・石神報告書二）	残部なし
六	1994	岡宮の民俗（民俗報告書三）	¥1,500
七	1995	原の石仏・石神（石仏・石神報告書三）	¥1,500
八	1995	柳沢の民俗（民俗報告書四）	¥1,500
九	1996	塩満の民俗（民俗報告書五）	¥1,000
十	1998	木瀬川の民俗（民俗報告書六）	¥1,500
十一	1998	香貫・我入道の石仏・石神（石仏・石神報告書四）	¥1,500
十二	1998	三枚橋の民俗（民俗報告書七）	¥1,500
十三	1999	松長の民俗（民俗報告書八）	¥1,500
十四	2002	上香貫霊山寺の近世墓	¥1,000
十五	2005	神明塚古墳（第二次）発掘調査報告書	¥1,000
十六	2006	統計資料集	¥1,000

（無 償）

「沼津市史だより」第1～25号

歴史民俗資料館

1. 施設の概要

名 称	沼津市歴史民俗資料館
所 在 地	沼津市下香貫島郷2802-1 沼津御用邸記念公園内
電 話	932-6266
F A X	934-2436
建築面積	535.6㎡ (ボイラー室棟 13.9㎡)
延床面積	890.8㎡ 1階 386.4㎡ 2階 504.4㎡



構 造	鉄筋コンクリート造2階建(ボイラー室棟ブロック造)
開 館	昭和49年12月8日
施設内容	1階 展示室(105.2㎡) 荷解作業室(68.4㎡) ホール(62.9㎡) 収蔵庫(44.5㎡) 事務室(31.3㎡) 機械室(38.7㎡) その他(35.4㎡) 2階 展示室(185.0㎡) 収蔵庫(100.0㎡) ホール(67.6㎡) 特別収蔵庫(37.4㎡) 展示ケース(33.5㎡) 会議室(22.9㎡) 機械室(11.2㎡) 暗室(7.8㎡) その他(39.0㎡)
休 館 日	毎週月曜日(祝日は開館)、毎月最終の平日、国民の祝日の翌日(土日は除く)、 年末年始
開館時間	午前9時～午後4時
観 覧 料	無 料

※昭和59年4月1日沼津市博物館条例の制定により、館名を「沼津市歴史民俗資料陳列館」から「沼津市歴史民俗資料館」と改称した。

2. 資料館の目的

資料館は、社会教育施設として資料の展示や保護保存、啓蒙普及活動などを通じて市民の生涯教育を助けること、また、調査研究活動を通じて、その資料を市民に提供し、地域社会のよりよい発展と文化の振興に寄与することを目的としている。

3. 事業活動

(1) 資料館の事業

- ① 失われつつある市内の歴史資料や民俗資料などの保護、収集保管。
(令和5年5月現在 民俗資料19,804点、古文書資料30,623点)
- ② 展示活動、講座、研究会などの啓蒙普及活動。
- ③ 資料に関する専門的な調査研究による情報交換や出版活動、展示活動などの資料公開。
- ④ 沼津市歴史民俗資料館移転整備基本構想策定委員会を令和4年度に3回開催し、移転整備の基本方針となる移転整備基本構想(案)を策定した。

(2) 令和4年度事業実績

事業名	期日	内 容	備 考
企 画 展	4月1日～ 5月5日	「生魚、走ル！ ～沼津の海産物輸送と交易～」	ポスター、チラシ、図録
歴 民 講 座	12月17日	「水軍から見た戦国期の駿河湾と沼津」	市立図書館視聴覚ホール
体 験 教 室	夏休み期間の 土・日・祝日	「昔の道具を使ってみよう」	小学生対象
刊 行 物	年間	資料館だより（年4回発行） 博物館紀要（明治史料館共同発行）	234-237号（無料）各1,800部 47号（有償） 600部

(3) 令和5年度事業計画

事業名	期日	内 容	備 考
企 画 展	7月1日～ 9月24日	「絵葉書で見る100年まえの沼津」	ポスター、チラシ、図録
歴 民 講 座	12月中旬	「仮称 武田氏の河東二郡支配と 興国寺城代曾禰昌世」	市立図書館視聴覚ホール
体 験 教 室	夏休み期間の 土・日・祝日	「昔の道具を使ってみよう」	小学生対象
刊 行 物	年間	資料館だより（年4回発行） 博物館紀要（明治史料館共同発行）	238-241（無料） 各1,800部 48号（有償） 600部

4. 歴史民俗資料館協議会

資料館の円滑な運営を図るため昭和49年に設置。現在は学校教育関係者、社会教育関係者、学識経験者等10人以内で、任期は2年。

5. 利用状況（令和4年度）

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	2,168 人	25 日	10	1,782 人	25 日
5	1,971	24	11	2,378	23
6	2,756	25	12	1,499	23
7	1,906	26	1	1,089	23
8	2,345	24	2	1,141	22
9	2,058	25	3	1,104	25

令和4年度 入館者数 22,197人 開館日数 290日 一日平均入館者数 76.5人

明治史料館

当館は、昭和59年10月1日に開館した博物館である。館名は、常設展示テーマの「江原素六」と「沼津兵学校」が、当市の明治維新や明治時代を象徴するものであるところ由来する。

また、当館敷地が江原素六の邸宅跡であることから、「江原素六記念館」という名も掲げている。



1. 施設の概要

名称	沼津市明治史料館
所在地	沼津市西熊堂372-1 電話 923-3335 FAX 925-3018
竣工	昭和59年3月17日
総事業費	699,000千円
構造	鉄筋コンクリート4階建（一部5階建）
規模	敷地面積 1,793㎡ 建築面積 657㎡ 延床面積 1,946㎡
開館	昭和59年10月1日

施設内容

- 図書室（1階） 郷土資料、県内市町村史、全国博物館刊行物、調べ学習用図書等を配架し、利用者の学習を支援するレファレンスルーム 開架式 87㎡
- 収蔵庫（1階） 資料を保存するスペース 61㎡
- くん蒸室（1階） 資料の殺菌・殺虫を行う 21㎡
- 第2収蔵庫（2階） 資料を保存するスペース 136㎡
- 講座室（2階） 館主催の講演会・講座などに使用するほか、外部の社会教育団体などに対して貸し出している 170㎡
- 展示室（3階） 常設展示室 南側は沼津の通史、北側は江原素六のコーナー 527㎡
- 展示室（4階） 沼津兵学校のコーナー 121㎡
- その他 事務室（1階）43㎡、作業室1（1階）22㎡、作業室2（1階）20㎡、ロビー（1階）109㎡、会議室（2階）24㎡
- 休館日 毎週月曜日（祝日は開館）、毎月最終の平日、国民の祝日の翌日（土・日を除く）、年末年始（12/29～1/3）
- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 観覧料 大人200円 小人（小・中学生）100円 市内の小・中学生は無料 団体（20人以上）は2割引

2. 事業活動

(1) 常設展示

3階展示室南側では、沼津の戦国期から近現代に至る通史の展示を行っている。3階展示室北側では、明治の政治家・教育者・キリスト者として活躍した沼津移住の旧幕臣江原素六（1842～1922）について展示している。主な展示資料は、江原素六の肖像画・写真・日記・辞令・遺品・墨蹟などがある。当館建設時に解体された江原邸の一部も復元・移築されている。

4階展示室では、明治元年（1868）に静岡藩の陸軍士官学校として設立された沼津兵学校と、その教授・生徒の人材について展示している。主な展示資料は、兵学校の規則書・教科書などや、西周・赤松則良・杉亨二・田口卯吉・島田三郎ら関係者の肖像である。

(2) 令和4年度事業実績

事業名	期日	内 容	備 考
企 画 展	(3月1日)～ 5月29日	江原素六学習作品展 ～子どもたちが見た江原素六～	小学校4年生 (金岡・門池・沢田)
	10月1日～ 11月27日	「地域の歴史シリーズ3 うきしま」	ポスター、チラシ
	12月10日～ 1月29日	富士・沼津・三島3市博物館共同企画展 「このへん道中いまむかし ～富士・沼津・三島の観光～」	ポスター、チラシ
館 外 展 示	9月2日～ 9月29日	第19回明治史料館館蔵資料展 「沼津の歴史 虎の巻」	会場 めましんストリートギャラリー
体 験 学 習	8月4日	「高校生のための一日学芸員体験講座」	受講者 10人
	8月9日	「小学生歴史教室～聞いて・みて・考えよう 私たちが住むまちの戦争のこと～」	参加者 12人
	8月10日・ 11日	「平和を考える戦争史跡めぐり」	参加者 延べ18人
刊 行 物	年間	沼津市明治史料館通信（年4回発行） 沼津市博物館紀要（歴史民俗資料館共同発行）	149-152号（無料）各2,000部 47号（有償） 600部
市制100周年 企画展準備事業	年間	市制100周年記念写真集 「写真にみる沼津のあゆみ」作成	1,000部

企画展に関連した歴史講座や古文書解読入門講座等を実施している。

期 日	内 容	備 考
8月23日～9月3日	博物館実習生受入れ 学芸員資格取得に関わる博物館実習生の受入れ	実習生 2人
9月3日・10日・17日・ 10月1日・8日	古文書解読入門講座 古文書に初めて触れる初心者を対象に開催する	受講者 延べ92人
毎月第3土曜日 (4月・9月除く)	古文書等整理実践講座 近世・近現代の館蔵資料を中心に、整理・保存の方法を学ぶ	受講者 延べ69人
毎月第2土曜日	戦争体験を記録する会 戦争の記憶を後世に残すために、市民の戦争体験を記録する	参加者 延べ58人
毎月第2土曜日	明治史料館ギャラリートーク2022 職員が展示資料を参加者と対話しながら解説する	参加者 延べ74人

(3) 史料の収集・保存

展示や教育普及といった事業の基礎となる館の重要な任務として、史料の調査・研究・収集・整理・保存という仕事がある。当館では、その対象範囲を、江原素六・沼津兵学校に限定することなく、広く沼津市の歴史資料一般としている（特に、民俗学分野の資料を主な対象とする歴史民俗資料館に対し、当館は近世・近現代の文書資料や古書籍など歴史学分野の資料を主な対象とする）。収蔵・保管する史料は、分類・整理の上、一般の閲覧に供する（令和5年4月現在、博物館資料約13万点、図書資料約3万冊）。

3. 令和5年度事業活動

(1) 令和5年度事業計画

事業名	期日	内 容	備 考
特 別 展	7月1日～ 9月24日	市制100周年記念企画展 「写真にみる沼津のあゆみ」	ポスター、チラシ、ミュージアムグッズ（絵葉書・クリアファイル）
企 画 展	4月15日～ 5月14日	江原素六学習作品展 ～子どもたちが見た江原素六～	小学校4年生 （金岡・門池・沢田）
	12月9日～ 2月25日	「地域の歴史シリーズ4 おおひら」	ポスター、チラシ
館 外 展 示	9月1日～ 9月28日	第20回明治史料館館蔵資料展 「沼津まちなか古写真展」	会場 ぬましんストリートギャラリー
体 験 学 習	7月22日～ 8月24日	子ども向け歴史学習企画 「謎解き！沼津歴史探偵 ～100年前の沼津へタイムスリップ～」	
	8月3日	「高校生のための一日学芸員体験講座」	市内在住・在学の高校生対象
	8月10日・ 11日	「平和を考える戦争史跡めぐり」	市内在住・在学の小学校4・5・6年生とその保護者対象
刊 行 物	年間	沼津市明治史料館通信（年4回発行） 沼津市博物館紀要（歴史民俗資料館共同発行）	153-156号（無料）各2,000部 48号（有償）600部

企画展に関連した歴史講座や古文書解読入門講座等を予定している。

期 日	内 容	備 考
8月22日～9月2日	博物館実習生受入れ 学芸員資格取得に関わる博物館実習生の受入れ	定員5人
9月	古文書解読入門講座 古文書に初めて触れる初心者を対象に開催する	講師 大庭 晃氏 定員30人
毎月第3土曜日 （4月・9月除く）	古文書等整理実践講座 近世・近現代の館蔵資料を中心に、整理・保存の方法を学ぶ	講師 大庭 晃氏 定員7人
毎月第2土曜日	戦争体験を記録する会 戦争の記憶を後世に残すために、市民の戦争体験を記録する	
毎月第2土曜日	明治史料館ギャラリートーク2023 職員が展示資料を参加者と対話しながら解説する	

(2) 史料の収集・整理

沼津兵学校関係資料及び沼津の歴史資料一般について収集・保存・整理を進める。

4. 明治史料館協議会

館の円滑な運営を図るために設置し、学校教育の関係者、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験のある者、公募による市民から10名をもって組織され、任期は2年となっている。

5. 利用状況 (令和4年度)

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	295 人	25 日	10	1,264 人	25 日
5	541	24	11	526	22
6	262	22	12	202	15
7	336	26	1	529	23
8	674	24	2	333	19
9	427	22	3	394	25

令和4年度 入館者数 5,783人 開館日数 272日 一日平均入館者数 21.3人

戸田造船郷土資料博物館

1. 施設の概要

名 称	沼津市戸田造船郷土資料博物館
所 在 地	沼津市戸田2710-1
電話/FAX	0558-94-2384
建築面積	247.9㎡
延床面積	518㎡
構 造	鉄筋コンクリート造3階建
開 館	昭和44年7月1日
施設内容	1階 機械室 ピロティ 2階 玄関ホール・研修室・事務室・展示室 (駿河湾深海生物館を併設/延べ床面積213.98㎡) 3階 ロビー・展示室
休 館 日	毎週水曜日・国民の祝日の翌日(土日は除く)・年末年始
開館時間	午前9時～午後4時30分
観 覧 料	大人200円 小人(小・中学生)100円 市内の小・中学生は無料 団体(20人以上)は2割引



2. 博物館設立の経緯と目的

1854年、安政の東海大地震による津波で破損したロシア軍艦「ディアナ号」は、修理のため下田から戸田港に向かう途中、嵐に遭い現在の沼津市原付近の沖合で沈没してしまう。帰国する船を失ったプチャーチン提督をはじめとするロシア人乗組員たちは、沼津水野藩・葦山代官などの援助のもとに戸田の船大工と協力して日本初の本格的洋式帆船「ヘダ号」を建造した。

昭和42年にヘダ号の建造地とプチャーチンの遺品が静岡県史跡の指定を受けたことを機に、旧戸田村の各所に残された造船に関わる遺品を収蔵・展示するための施設として建設し、昭和44年7月1日に「戸田村立造船郷土資料博物館」として開館した。昭和62年4月には「駿河湾深海生物館」が併設開館している。

さらに平成17年4月1日、沼津市と旧戸田村の合併に伴い沼津市に移管され、「沼津市戸田造船郷土資料博物館」と改称した。

3. 事業活動

(1) 令和4年度事業実績

- ① ヘダ号の建造資料及びディアナ号・プチャーチン関連の遺品等の常設展示
- ② 企画展
 - ア 大名びな展 4月1日～5月31日
 - イ ボトルシップ展 6月2日～10月10日
 - ウ 重要文化財松城家住宅展 10月21日～令和5年1月31日
 - エ 「富士山いちねんぶん」写真展 令和5年2月2日～2月28日

(2) 令和5年度事業計画

① ヘダ号の建造資料及びディアナ号・プチャーチン関連の遺品等の常設展示

② 企画展

ア 大名びな展	4月1日～5月30日
イ 戸田の学校教育展	6月3日～10月1日
ウ 戸田のまつり展	10月2日～令和6年1月31日
エ 戸田から見た四季の富士山写真展	令和5年2月1日～令和6年2月29日

(3) 展示収蔵品

ヘダ号造船に関する資料（設計図・大工道具・ヘダ号模型ほか）

ディアナ号及びプチャーチン関連の遺品（錨・食器・ディアナ号模型ほか）

ロシア及び旧ソビエト連邦からの寄贈品

井田松江古墳・井田丸塚古墳出土遺物

戸田周辺の漁撈民俗資料（コザラシ網・網針・釣針・蛸壺・櫓・錨ほか）

収蔵品（485点）のうちディアナ号模型、ヘダ号設計図、大工道具、ヘダ号模型の4点は、わが国近代造船の礎となった洋式船建造技術を伝えるものと認められ、平成19年11月に経済産業省から「近代化産業遺産」として認定された。

4. 博物館協議会

学校教育関係者、社会教育関係者、学識経験者等から選任された委員6名で構成されている。館の円滑な運営のため、展示・収集・普及活動などに助言や提言を行う。任期は2年。

5. 利用状況（令和4年度）

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	637 人	26 日	10	488 人	26 日
5	809	28	11	644	25
6	515	25	12	507	24
7	581	26	1	473	25
8	822	27	2	531	24
9	508	25	3	743	26

令和4年度 入館者数 7,258人 開館日数 307日 一日平均入館者数 23.6人

芹沢光治良記念館

1. 施設の概要

名 称	沼津市芹沢光治良記念館
所 在 地	沼津市我入道蔓陀ヶ原517-1
電話/FAX	932-0255
竣 工	昭和45年5月30日
総事業費	20,000千円
構 造	鉄筋コンクリート2階建
規 模	敷地面積 256㎡ 建築面積 146.8㎡ 延床面積 346.9㎡
開 館	平成21年10月1日
施設内容	1階 展示室（主に芹沢光治良関連の企画展示）事務室 2階 展示室（市民ギャラリーとして沼津の文化に関係した展示）収蔵庫
休 館 日	毎週月曜日・国民の祝日の翌日（土日は除く）・年末年始
開館時間	午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）
観 覧 料	大人100円 小人（小・中学生）50円 市内の小・中学生は無料 団体（20人以上）は2割引



2. 記念館設立の経緯と目的

昭和45年5月30日に芹沢光治良の心友、岡野喜一郎氏（当時のスルガ銀行会長）が財団を設立し、「芹沢文学館」として建設され、運営されてきたが、平成21年4月1日に旧財団法人芹沢・井上文学館から沼津市に寄贈され、同年10月1日に「沼津市芹沢光治良記念館」として開館した。

沼津市我入道で生まれ育った文人であり、沼津市名誉市民でもある芹沢光治良の業績と人物を周知することを目的としている。

また、2階展示室を市民公募によるギャラリーとして開放し、沼津市の文化に関する展示を行うことで、広い意味での文化を市民に提供することも目的としている。

3. 令和4年度事業実績

(1) 企画展

① 1階展示室

芹沢光治良に関する展示

ア 企画展 『人間の運命』とその時代 第2回（12月15日～5月31日）

イ 企画展 光治良の欧州体験 第1回（6月15日～11月30日）

ウ 企画展 光治良の欧州体験 第2回（12月15日～5月31日）

② 2階市民ギャラリー

市民等による展示や演奏会、井上靖文学館との共同事業としての特別展を実施した。

ア 第2回沼津の宝100選と趣味（6月18日～7月31日）

イ 「気になるもの。」菊地治彦写真展（8月6日～8月28日）

ウ 特別展「芹沢光治良と井上靖」（9月17日～11月29日）

エ 芹沢光治良作品を聴く会（12月17日）

オ 真野浩丞門の音楽会（12月25日）

カ 井口貴夫展（1月4日～1月31日）

キ 孔版画作品展（2月7日～2月26日）

ク スカンジナビア号の航跡（3月5日～3月24日）

(2) 資料整理・保存

芹沢光治良関連資料のデータベース化と適正保存を進めるために、財団より寄贈された資料目録の点検、補填、資料等の整理及び保存のための準備を行った。（資料総数 3,607点）

(3) 各種広報活動

当館周知のためのポスター及びチラシ等を作成し、市内小中学校等の教育機関、各自治会及び主要文化施設に配布した。また各イベント会場へ出向き、同様に配布した。

(4) 教育普及

事業名	期日	内容	場所	備考
出前講座	4月17日	(特別講座) 企画展『人間の運命』とその時代(第2回)について	市立図書館 第3講座室	沼津芹沢光治良文学愛好会依頼 参加者計10人
出張講座	12月17日	企画展「光治良の欧州体験」について	東京都中野区 サロン・マグノリア	一般社団法人芹沢光治良記念文化財団依頼 参加者計32人
	3月4日	企画展「光治良と中国展」について	東京都中野区 社会福社会館	日中友好協会中野支部依頼 参加者計26人
展示説明会	5月4日	芹沢光治良生誕日記念 企画展『人間の運命』とその時代(第2回) 展示説明会	1階展示室	同日中に全3回実施 参加者計17人
	7月16日	沼津市芹沢光治良記念館企画展見学会	1階展示室	沼津芹沢光治良文学愛好会 参加者計8人
	8月21日	県民の日記念 企画展「光治良の欧州体験」(第1回) 展示説明会	1階展示室	同日中に全3回実施 参加者計20人

事業名	期 日	内 容	場 所	備 考
展示説明会	2月23日	富士山の日記念 企画展「光治良の欧州体験」(第2回) 展示説明会	1階展示室	同日中に全3回実施 参加者計19人
講演会	1月14日	第11回芹沢光治良文学講演会	市立図書館 視聴覚ホール	講師：鈴木吉維氏 参加者計119人

4. 令和5年度事業計画

事業名	期 日	内 容	場 所	備 考
文学散歩	5月20日	「沼津ゆかりの文学散歩」(第1回)	沼津市内	2コースに分け実施 定員合計30名
	10月21日	「沼津ゆかりの文学散歩」(第2回)	沼津市・長泉町 伊豆市	バスツアー 定員30名
企画展示	6月15日～ 11月30日	企画展「沼津ゆかりの文学者たち」 (第1回)	1階展示室	展示説明会7月1日 定員20名
	12月15日～ 5月31日	企画展「沼津ゆかりの文学者たち」 (第2回)	1階展示室	展示説明会2月23日 定員20名
講演会	7月22日	「沼津ゆかりの文学者たち」(第1回)	図書館4階 視聴覚室	定員180名
	11月18日	「沼津ゆかりの文学者たち」(第2回)	図書館4階 視聴覚室	定員180名
出張展示	8月	企画展「沼津ゆかりの文学者たち」	市役所1階	
	9月	企画展「沼津ゆかりの文学者たち」	ららぽーと沼津	
	12月	企画展「沼津ゆかりの文学者たち」	図書館4階	
刊行物	3月	副読本「沼津ゆかりの文学者たち」 (仮称)		

5. 芹沢光治良記念館懇話会

館の円滑な運営を図るため、委員5人による懇話会を2回開催し、運営方法及び事業計画などについて参考意見を聴取した。任期は2年となっている。

6. 利用状況(令和4年度)

月	入館者数	開館日数	月	入館者数	開館日数
4	218 人	26 日	10	255 人	25 日
5	401	26	11	232	24
6	154	14	12	158	12
7	483	27	1	389	24
8	689	25	2	348	23
9	321	26	3	668	25

令和4年度 入館者数 4,316人 開館日数 277日 一日平均入館者数 15.6人

若山牧水記念館

<http://web.thn.jp/bokusui/>

沼津市若山牧水記念館は、歌人若山牧水の顕彰と本市ゆかりの文学者及びその背景となる沼津の文学風土を広く紹介することによって、市民の文化活動を振興し、創造性を育む文化都市づくりを目指すために建設された。

この記念館は、建設費の約半分に、市民はじめ牧水の関係者、そして、全国の牧水ファンからの寄附金が充てられ、昭和62年11月1日に開館した。



1. 施設の概要

名称	沼津市若山牧水記念館
所在地	沼津市千本郷林1907番地の11
電話	962-0424
竣工	昭和62年2月28日
総事業費	122,000千円
構造	鉄筋コンクリート造・一部木造、平屋建
規模	敷地面積 2,378.04㎡ 建設面積 470.86㎡ 延床面積 400.58㎡
開館	昭和62年11月1日
施設内容	展示室 117㎡ ラウンジ 113㎡ 沼津の文学風土を紹介するとともに、ラウンジの一角には喫茶コーナーを設け、来館する人たちの休憩や団らんの場として提供している。
収蔵庫	23㎡ 展示品以外の牧水に関する様々な資料や牧水研究家にとって貴重な資料を所蔵保管する。
会議室	(貸室) 和室2室、20畳 牧水を中心とした研究会や小規模な集会などに使用できる。
開館時間	午前9時～午後4時30分
観覧料	大人 200円 小人(小・中学生) 100円 市内の小・中学生は無料 団体(20人以上)は2割引

2. 運 営

(1) 指定管理者の指定

平成18年4月1日から公益社団法人沼津牧水会を指定管理者に指定している。

(2) 令和4年度事業実績

事業名	期 日	内 容	備 考
講座・講演等	4月～3月	「初心者のための短歌講座」	参加者 延129人 講師 永久保英敏
	4月～3月	「牧水記念館短歌会」	参加者 延70人 講師 成田 真洞
	5月～7月	「中学生短歌コンクール」	応募短歌 19校 1,590首 入選短歌51首
	10月2日	「短歌大会」 応募短歌100首	参加者 66人 講師 黒瀬 珂瀾
	3月4日	第35回「雛の歌会」 応募短歌79首	参加者 57人 講師 大森 静佳
企 画 展	未開催		
刊 行 物	年 間	「若山牧水記念館」館報の発行 第69号9月1日 第70号3月15日	

(3) 令和5年度事業計画

事業名	期 日	内 容	備 考
講座・講演等	4月～3月	「初心者のための短歌講座」	講師 永久保英敏
	4月～3月	「牧水記念館短歌会」	講師 永久保英敏
	4月～3月	「書道講座」	講師 成田 真洞
	5月～7月	「中学生短歌コンクール」	表彰式 10月15日 牧水祭・碑前祭にて
	10月1日	「短歌大会」	講師 奥田 亡羊
	3月3日	「雛の歌会」	講師 阿木津 英
企 画 展	未定	未定	
刊 行 物		「若山牧水記念館」館報（年2回）	

(4) 令和4年度入館者数

総入館者数	有 料 者	無 料 者	開 館 日	一日平均入館者数
2,835人	1,402人	1,433人	302日	9.39人

庄司美術館 (モン ミュゼ沼津)

<http://www.monmusee.jp>

沼津市庄司美術館は、平成12年に元沼津市長・故庄司辰雄氏のご遺族から庄司氏が収集した美術品とともども市に寄贈されたものである。市では、庄司氏の遺志を元に、市民に多くの美術品を鑑賞する機会を持ってもらうため、平成12年11月3日、沼津市庄司美術館（愛称モン ミュゼ沼津）として開館した。



令和4年4月1日から指定管理者不在のため休館としていたが、令和4年12月1日から特定非営利活動法人レザミ・デ・ザールを指定管理者として指定し、令和5年1月に再開館した。

1. 施設の概要

名称	沼津市庄司美術館
愛称	モン ミュゼ沼津
所在地	沼津市本字下一丁田900-1
電話	952-8711
竣工	平成3年2月12日
建築主	庄司辰雄（元沼津市長）
寄附採納日	平成12年6月27日
構造	鉄筋コンクリート造 亜鉛葺 3階建 地下1階付
規模	敷地面積 594.73㎡ 延床面積 546.30㎡
開館日	平成12年11月3日
施設内容	1F 受付、展示室 2F 展示室、書架 3F 館長室、事務室、收藏庫
收藏作品	建物とともに寄附された美術作品 300点余 沼津市が所蔵する美術作品 570点余
開館時間	午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
観覧料	大人 200円 小人（小・中学生）100円 市内の小・中学生は無料 団体（20人以上）は2割引



2. 運 営

(1) 美術館運営委員会

美術館の適正な運営をするために、美術館運営委員会を設置している。

沼津市庄司美術館運営委員会

委員の数 10名以内

任 期 2年

(2) 令和4年度企画展実績

期 日	1 階 展 示 室	2 階 展 示 室
1月6日(金)～2月25日(土)	山口源賞大賞新人賞 受賞作品展	所蔵作品展 (山口源・前田千寸)
3月4日(土)～4月9日(日)	坂部隆芳作品展	所蔵作品展 (山口源・前田千寸)

(3) 令和5年度企画展計画

- ・十時孝好展 (4月15日～5月20日)
- ・田邊和正展 (6月10日～7月9日)
- ・あしざわまさひと展 (7月15日～8月27日)
- ・渡辺美津代展 (9月2日～9月30日)
- ・鈴木紀代子展 (10月7日～11月17日)
- ・地域作家展 (11月25日～12月23日)
- ・寄贈作品展 (1月4日～1月28日)
- ・山口源賞展 (2月3日～3月9日)
- ・地域作家展 (3月16日～4月20日)

(4) 令和4年度入館者数

※令和4年4月から令和5年1月5日までは休館

総入館者数	有 料 者	無 料 者	開 館 日	一日平均入館者数
784人	260人	524人	66日	11.9人

健全育成

次代を担う青少年が、心身ともに健やかにたくましく成長することは、市民すべての願いである。

本市では、この願いをこめて、昭和55年に「青少年健全育成都市宣言」を行い、青少年の健全育成活動はそれまでの行政主導型から市内各地区の青少年を健やかに育てる会を中心とした地域主導型に移行した。そして、

“地域の子どもは地域で育てる”を基本理念に、青少年育成推進員を中心として、団体や機関等が密接に連携し合い、あらゆる機会と場を活用した地域ぐるみの実践活動を展開している。

また、昭和62年には、沼津市青少年問題協議会が、青少年が明るく健全に育つまちづくりを進めるため、「明るい子どもが育つまち」を統一目標に、青少年対策の基本方針を打ち出すなど、官民一体となって青少年の健全育成と非行防止に努めている。



沼津市わたしの主張大会

(1) 青少年問題協議会

市長を会長として、青少年問題にかかわる学識経験者、関係機関・団体の代表者25人以内により本協議会を構成し、青少年非行の防止、健全育成の総合的施策の樹立と実践活動の方策等について研究、協議や助言を得るとともに、関係機関・団体の連携を深めている。

特に、より効果的な青少年健全育成を進めるため、将来を展望した全市民的取組とともに、直接の担い手である行政・学校・地域・家庭・職域において、その取り組むべき基本方向について検討を重ねた結果、昭和62年5月13日に「沼津市青少年対策の基本方針」を策定し、あらゆる機会と場を通してこの方針の浸透を図っている。

沼津市青少年問題協議会委員

任 期 2年

委員の構成 学識経験者、関係行政機関の職員、その他市長が規則で定める者

(2) 青少年を健やかに育てる会

昭和55年12月10日の青少年健全育成都市宣言を契機として、自治会連合会の積極的な姿勢のもとに、市内全域16地区に「青少年を健やかに育てる会」が設置された。この会は全市民的活動を目指すもので、自治会をはじめ青少年育成推進員・少年補導委員・小中学校・PTA等あらゆる関係機関・団体で構成される地域の自主的実践活動の推進母体である。また、現在は18地区の会長により青少年育成市民会議的組織として、青少年を健やかに育てる会連絡協議会が設けられている。

各地区の青少年を健やかに育てる会では、全市統一目標の「地域の子どもは地域で育てる」運動を進める一方、それぞれの会が、地域の特性を活かしながら懇談会・講演会・地域の行事等を

開催して、地域ぐるみで非行防止や健全育成に向けた実践活動を積極的に展開している。

昭和57年度からは、地域連帯感の醸成、住民意識の高揚、社会環境の浄化等、一層の実効性を高めるための活動専門部5部（広報啓蒙部・健全育成部・家庭教育部・環境浄化部・補導相談部）を設けていたが、平成4年度に見直しを行い、現在は育成部・補導部の2部となっている。

令和5年度地域実践活動目標

※統一目標

「地域の子どもは地域で育てる」

※重点実践事項

- 青少年を健やかに育てる会の充実
- 家庭の教育力の回復に努める
- 学校と地域との連携・協働の推進
- 環境浄化活動の推進

令和5年度 沼津市青少年を健やかに育てる会連絡協議会

地区名	
◎ 第一地区	○
第二地区	
第三地区	
第四地区	
第五地区	
門池地区	
金岡地区	
大岡地区	
愛鷹地区	
片浜地区	

地区名	
今沢地区	
大平地区	
静浦地区	
内浦地区	
西浦地区	
原地区	
浮島地区	
戸田地区	

◎会長 ○副会長

中学校区を基本とする市内18の地区で組織する

(3) 青少年育成推進員制度

青少年の健全育成を国民運動として推進するため、昭和41年6月「青少年育成国民会議」が設置され、昭和44年、本市においても市民ぐるみの運動として推進するために「青少年育成推進員制度」を創設した。

各地区の「青少年を健やかに育てる会」からの推薦を受け、教育委員会が委嘱している青少年育成推進員は「青少年を健やかに育てる会」の中核的な推進役としての活動とともに、各地区間の連携強化を図るため、それぞれの地区代表者をもって青少年育成推進員連絡会を組織している。

※主な活動

- 地域での「あいさつ運動」「明るい家庭づくり」「青少年の地域参加」のための親子レクリエーション、スポーツ活動等、青少年健全育成活動を進めるうえで、その中核的役割を担う。
- 少年補導委員をはじめ、地域の保護司、民生委員・児童委員、青少年育成関係者及び子ども会等、青少年育成団体との連携、協調を図る。

(4) 二十歳の集い・二十歳の議会

本市の成人式は、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられた令和4年の民法改正後も式典の対象年齢を20歳としたことから、令和2年の式典より名称を「二十歳の集い」に変更した。中学校区ごとの地域分散方式による地域手づくりの式典を平成元年から続けており、地域連帯感の醸成や地域青少年育成活動の基盤づくりに大きな役割を果たしている。

また、二十歳の集い開催後、責任ある大人としての自覚と市政への関心を喚起することを目的に、20歳になった若者たちの代表による模擬議会を開催している。

令和5年は第25回目の開催であり、18人の若者が出席した。

(5) わたしの主張大会

市内の中学生が家庭・学校・地域活動・友人・将来のこと、あるいは、自分の思い、考えたことや感銘を受けたことなどをまとめ発表する大会であり、発表を通して社会の一員としての自覚を高めるとともに、青少年の健全育成に対して市民が理解や関心を深めることをねらいとしている。

第42回となる令和5年度は、市内各中学校で校内審査を経た代表19人が市民文化センターで発表を行った。

(6) 高校生しゃべり場inぬまづ

高校生が日頃感じていることや意見を自由に発言する場を提供することで、高校生の社会参加のきっかけを作るとともに、生徒自身の社会に対する意識の高揚を図り青少年の健全育成を促すことを目的としている。

令和4年度は、市内の各高校の代表11人が参加し、沼津仲見世商店街で「大人になったら何が変わる？～18歳から成人に～」をテーマにディスカッションした。

(7) 青年育成

近年の社会環境の変化とともに、青年団体活動等は低調であるが、この活性化を促すことに努めている。

① 沼津市青年教養講座

青年が個人の教養や技術を身につけるとともに、地域での社会貢献の意識を高めることを目的として、18～39歳の市民又は通学・通勤者を対象に教養講座や交流活動を実施している。

令和4年度は、全18回（うち交流会2回）の講座を開催し、延べ136名が参加した。

② 二市青年教育交流協議会

昭和54年度に沼津・三島・熱海・伊東の4市で、四市青年教育推進協議会を設置し、青年交流会を通じて、各市の青年リーダーの養成を目指して活動を展開してきた。現在は沼津・三島の2市で、二市青年教育交流協議会として、情報交換を行っている。

(8) 少年育成

現在、少年の生活に占める学校の比重はますます大きくなっているが、健全な少年の育成のためには、家庭・学校・地域社会の連携・協調が何よりも期待される。

今日、地域社会の連帯感が薄れ、地域の教育力は低下の傾向にあるが、一方ではコミュニティ

づくりや祭事・季節行事等による新しい地域社会の醸成が各地に広がってきている。

また、少年は、団体活動に参加することによって、年齢を異にする者との交わりを深め、知己を得ることなどによって人格を形成していくことから、このような少年のための地域づくりと併せて、団体の育成を図っている。

① 子ども会

本市の子ども会は、自治会毎に70子ども会、1,789人の小学生児童が参加し、近隣地域社会を活動の場としてその個性を確立し、社会性を身につけることを目標に子ども会活動を進めている。活動内容は多種多様であるが、地域社会の特性を活かして世話人の指導助言により活動している。昭和34年2月、市内各地域の有識者、PTA補導部の指導者等により、子ども会を育成する目的をもって沼津市子ども会世話人連合会（沼子連）が発足した。

昭和38年8月、各子ども会を指導するため、青少年有志により沼津市子ども会リーダーズクラブ（N・L・C）が結成され、沼子連と表裏一体の形で地域の子供たちの良き指導者として活動を続けてきた。

昭和50年4月、沼子連は、沼津市子ども会育成連絡協議会と名称を変更し、組織の強化、地域活動の活発化、指導者・リーダーの養成などを主目標として活動を展開している。なお、N・L・Cは令和4年度末に団体としての活動を終了し、以後は個別に市の青少年リーダーとして活動している。

主な事業として、6月に砂の造形大会、11月に球技大会、また沼子連を中心に沼津市PTA連絡協議会、沼津市スポーツ少年団など市内の青少年健全育成団体で「沼津市青少年育成団体連絡協議会」を組織し、10月に「子どもの遊び王国in沼津」を開催している。

子ども会リーダー養成事業としては、小学校高学年児童を対象に年4回程度のクラブキッズや研修活動を実施している。

② ボーイスカウト

ボーイスカウト運動は、健全な青少年の育成を目的とした青少年の社会教育運動で、創始以来世界各国で活発な活動が続けられており、本市においては、昭和28年に発足以来、堅実な実践を展開している。

この運動は、少年の育成に最も大切な年代である小学校・中学校・高校等の青少年を一貫して正しく導き、良い品性を身につけさせ、身体を強くし、種々の技能を習得させ、喜んで社会に奉仕できる国際愛をもった立派な社会人に育てることを目的としており、現在、沼津支部では4個団、108人の団員が活動している。

③ ガールスカウト

ガールスカウト運動は、少女たちのもっている豊かな可能性を育み、健全な品性と優れた知性や技能を習得させ、社会に役立つ公民を育てることを目的とした社会教育運動である。

この運動は1909年にイギリスで創始され、本市においては、昭和34年に発足以来、有志女性指導者の奉仕によってすすめられており、現在沼津地区では2個団、49人の団員が活動している。

④ 海洋少年団

少年が海に親しみながら海洋思想・知識と海上生活に必要な技術を習得することを目的としており、本市においては、昭和53年に発足以来、四季を通じて活動を展開している。特に、カッター洋上訓練は心身の育成向上に大きな役割を果たしている。

(9) こいのぼりフェスティバル

こいのぼりフェスティバルは、昭和60年に初めて開催されてから、令和5年で39回目を迎えた。青年及び青少年のボランティア等により構成される「こいのぼりフェスティバル実行委員会」が主体となり、令和5年度は狩野川緑地を会場に4月29日から5月5日までの期間、こいのぼり約120匹を掲揚した。また、5月4日・5日は、ボランティアや社会教育団体等によるクラフトコーナーなどの親子がふれあえる催しや売店などが賑わいをみせ、開催期間には延べ約21,900人が来場した。

(10) 青少年体験学習

幅広い分野での体験の機会を設け、参加者の自ら学び考える力や様々な物、事への興味・関心・意欲の向上を図ることを目的に、学校や家庭では出来ない経験の場を創設する各種体験活動を実施している。

(令和4年度実績)

- | | | | |
|------------------|--------------|----------------------|-----|
| • ゆめとびら体験塾 | 対象：小学校4年～6年生 | 2回 | 50人 |
| • イングリッシュアドベンチャー | 対象：小学校5年～6年生 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 | |

青少年教育センター

時代の推移とともに、青少年を取り巻く環境は複雑化・多様化してきており、青少年の健全な成長を阻害する幾多の要因を生み出してきている。その結果、情緒の安定を欠いたり、対人関係がうまくとれなかったりするなど、変化する環境に適応できない子供たちが増えているのが現状である。

青少年教育センターは、青少年の非行や不登校などの問題に対処し、健全な育成を促すため、家庭をはじめとして地域・学校・警察他関係機関との連携・協力の下に、補導並びに教育相談活動などの事業を行っている。

当センターは、「青少年教育センター」と「保健センター」からなる複合施設として計画され、昭和61年4月1日に開館した。

1. 施設の概要

名称	沼津市青少年教育センター
所在地	沼津市八幡町97番地
電話	951-3440
建設費	957,255千円（うち、青少年教育センター部分607,840千円）
構造	鉄筋コンクリート4階建一部2階
規模	敷地面積 2,748.48㎡ 建築面積 1,257.28㎡ 延床面積 3,601.52㎡（うち青少年教育センター部分2,232.32㎡）
竣工	昭和61年3月31日



2. 活動方針

(1) 補導活動の充実

一般化・広域化する青少年非行に対処するため、中央補導及び地区補導活動の充実を図るとともに、刑法犯少年の大半を占める万引きを防止するため、家庭、地域、学校、商業店舗との連携を深め、青少年自身への意識啓発を強化する。

(2) 環境浄化活動の推進

全市一斉の「青少年を取り巻く社会環境の実態調査」により、有害環境の実態を把握し、地域ぐるみの有害環境浄化活動を推進する。

(3) 非行・被害防止啓発事業の充実

国や県の啓発活動に併せた街頭キャンペーン、各種広報活動を通じて、非行・被害防止並びに薬物乱用防止への意識啓発を図る。

(4) 教育相談事業の充実

面接相談及び電話相談の内容をより充実させ、青少年や保護者などに、より適切な相談を実施して援助を進める。

(5) 不登校児童・生徒に対する集団活動の充実

体験活動「はばたき」や相談指導学級での集団活動を通して心理面の回復を促進し、社会的自立と学校復帰を支援する。

3. 補 導

青少年の非行化を防止するため、市内18地区の「青少年を健やかに育てる会」、小・中・高校及び大型店等から推薦を受けて委嘱した少年補導委員288人と当センター職員により、中央補導及び地区補導を計画的かつ継続的に実施している。また、青少年の健全育成を推進するため、地域と協力しあって有害環境の浄化に努めている。

(1) 少年補導委員の委嘱状況（令和4年度）

少年補導委員の委嘱者数

推 薦 団 体 名		人 数	推 薦 団 体 名		人 数
青 少 年 を 健 や か に 育 て る 会	第 一 地 区	19	青 少 年 を 健 や か に 育 て る 会	門 池 地 区	19
	第 二 地 区	20		静 浦 地 区	6
	第 三 地 区	16		内 浦 地 区	6
	第 四 地 区	20		西 浦 地 区	2
	第 五 地 区	20		原 地 区	17
	片 浜 地 区	11		浮 島 地 区	6
	今 沢 地 区	14		戸 田 地 区	4
	金 岡 地 区	15	小 中 学 校 等	小 学 校 教 諭	20
	大 岡 地 区	17		中 学 校 教 諭	18
	愛 鷹 地 区	10		高 等 学 校 教 諭	24
大 平 地 区	4	計		288人	

(2) 街頭補導

① 中央補導

繁華街を中心に青少年の社会的規範の向上を図り、不良行為を未然に防ぐため、公園、空き地、ゲームセンター、商店を重点的に補導活動を行っている。午後は小・中・高校の教員及び地区の代表者、夜間は地区の代表者によって警察署と緊密な連携を保ちつつ、計画的な街頭補導の実施に努めている。

令和4年度中央補導実施状況

月	回数			補導の重点目標
	午後	夜間	計	
4	0	0	0	怠学青少年の補導、不良交友・交通ルール・マナーの補導
5	4	1	5	怠学青少年の補導、喫煙の補導
6	3	2	5	怠学青少年の補導、不良交友・万引き防止の補導
7	4	2	6	夏休み特別補導、薬物乱用防止
8	4	2	6	夏休み特別補導
9	4	2	6	怠学青少年の補導、不良交友の補導
10	5	2	7	遊技場における金銭乱費防止、不良交友・不健全娯楽の補導
11	6	2	8	怠学青少年の補導、不良交友の補導
12	5	2	7	遊技場における金銭乱費防止、不良交友・万引き防止の補導
1	2	0	2	遊技場における金銭乱費防止、不良交友・喫煙の補導
2	5	0	5	怠学青少年の補導、喫煙の補導
3	5	2	7	怠学青少年の補導、不良交友・不健全娯楽の補導
計	47	17	64	

② 地区補導

市内全域の補導強化を図るため、各地区の「青少年を健やかに育てる会」の少年補導委員が中心となり、きめ細かい補導活動を推進している。

③ 特別補導

「沼津夏まつり」「高尾山祭典」での補導を実施している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「高尾山祭典」での補導は中止した。

(3) 環境浄化活動

有害図書の販売場所、カラオケ店、ゲームセンター、公園、空き地等の青少年のたまり場や遊び場について巡視活動を行い、浄化に努めている。また、12月実施の「青少年を取り巻く社会環境の実態調査」により、青少年に有害となる環境の実態を掌握し、業者へ注意喚起している。

(4) 広報活動

非行・被害防止及び健全育成を図るために、市広報紙等を活用して啓発を行っている。例年7月に「青少年の非行・被害防止強調月間」、11月に「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせて街頭キャンペーンを実施している。また、「青少年教育センターたより」を年4回発行し、市民意識の高揚を図っている。

(5) 他機関との連携

課題をもつ青少年の動向を素早くとらえ、適切な指導と対応を進めるため、東部児童相談所、保護観察所、沼津地区少年サポートセンター、市福祉事務所こども家庭課、市教育委員会学校教育課及び青少年教育センターにより定例会を毎月開催し、情報交換や対応の検討などを行っている。

(6) 令和4年度街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区補導）

（単位：人）

区 分		学 識 別		小 学 生	中 学 生	高 校 生	学 生 其 他	有 職 少 年	無 職 少 年	計
		学 識 別	学 識 別							
行 為 種 別	飲 酒									0
	喫 煙									0
	薬 物 乱 用									0
	夜 間 は い か い			31	28					59
	不 良 交 友									0
	怠 学 ・ 怠 業									0
	ゲームセンター入場			28	62	306				396
	パチンコ店入場									0
	カラオケ店入場					17				17
	自転車の暴走行為					3				3
	自転車の二人乗り					10				10
	自転車の無灯火			1		27	1		1	30
	危 険 な 遊 び			5	1	5		3		14
	そ の 他			2	1	7		1		11
計			36	95	403	1	4	1	540	
事 後 対 応	家庭・学校・職場へ連絡									0
	他 機 関 へ 連 絡									0
計			0	0	0	0	0	0	0	
愛 の 声 か け 運 動			517	373	448	13	18	2	1,371	

※愛の声かけ運動 不良行為に対する注意・助言には相当しない、温かい声かけ
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中央街頭補導及び地区補導の一部を中止

4. 教育相談

社会の仕組みがますます複雑化する今日、家庭や地域社会での教育的機能が薄れ、学校教育の果たすべき役割は重く、一層重要なものになってきている。

このような中で、これまでの学校教育を単に充実するだけでは社会の様々な要請に対応できなくなってきており、学校教育の枠を越えた新しい施策が必要となっている。

教育相談は、こうした新しい時代の要請に応えるため整備拡充されたもので、学校教育と家庭教育、また、地域社会の教育活動との連携を深めながら相談活動の充実を図り、様々な課題を抱えた子供たちの健全な育成に努めている。

(1) 相談業務

青少年の健やかな心身の発達を援助するため、青少年や保護者に対する教育相談を実施している。また、必要に応じて教員からの相談にも対応している。平成30年度から専門家3人（臨床心理士2人、言語聴覚士1人）を配置している。

相談内容は、非行、不登校、発達・子育て、進路・適性及び対人関係などがある。

① 面接相談

カウンセリングや、遊戯療法などの心理療法を通して、相談者自らが進むべき方向を見い出していくことを援助している。

また、必要に応じて家庭・学校・諸関係機関などと連携し、問題の早期解決を図っている。

② 電話相談

「やまびこ電話」の愛称で呼ばれる電話相談は、電話を通して訴えられる青少年に関する様々な問題や悩みについて、電話相談員が共に考えながら解決のための援助を行っている。

(2) 体験活動「はばたき」

不登校傾向を示す小・中学生を対象に、小集団での体験活動を通じて情緒の安定を図り、自立心や社会性を育成している。

(3) 相談指導学級

心理的な要因等により不登校の状態にあり、当センターでの面接相談を受けている小・中学生を対象に、小集団での活動を通して、自己決定力や自己肯定感を高め、人との円滑な関わり方を学ぶ支援をしている。

(4) 面接相談

令和4年度に教育相談でかかわった件数は173件（前年173件）で、このうち新規相談は95件（前年111件）であった。

令和4年度面接相談

相談分類別・対象者別内訳

(単位：件)

対象者	内容	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	新規							0
								0
小学生	新規		40	37		2	3	82
			24	22		2	2	50
中学生	新規		56	13	2	5	4	80
			26	10	1	4	1	42
高校生	新規		6	3	1	1		11
			2	1				3
その他	新規							0
								0
本年	新規	0	102	53	3	8	7	173
		0	52	33	1	6	3	95
前年	新規	0	105	47	3	8	10	173
		0	61	32	3	5	10	111

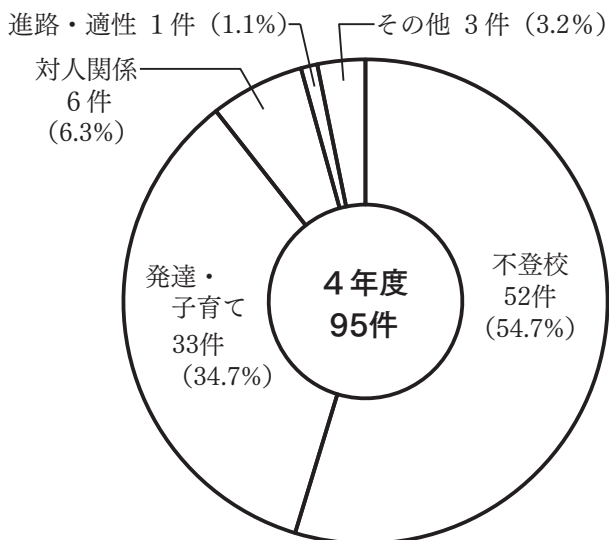
※対象者のその他……大学（短大）・専門学校生・有職少年・無職少年など

※上段は相談件数

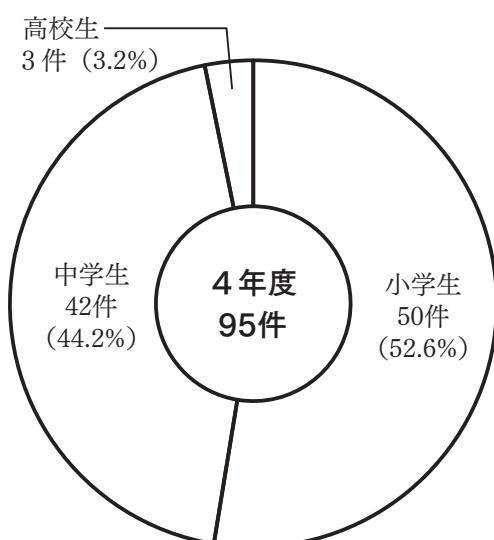
※下段は新規相談で上段の内数

〔新規相談受理状況〕

相談内容別



相談対象者別



(5) 講座「そよかぜ」

令和4年度の『子どもの成長を支える講座「そよかぜ」』において、青少年教育センターに配置された専門家（臨床心理士、言語聴覚士）が講演した。講座では、参加者に対し各専門家の知見から子育てに役立つ情報を提供している。

(6) 電話相談（愛称 やまびこ電話）

令和4年度 相談内容別相談対象者・相談者別内訳

(単位：件)

内容		乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人 (含保護者)	不明 その他	計
非 行	相談対象者別								0
	相談者別								0
不 登 校	相談対象者別		1	8					9
	相談者別						9		9
発 達 子 育 て	相談対象者別		1	1					2
	相談者別						2		2
性の問題	相談対象者別		7	2	3	4	10	8	34
	相談者別		7	2	4	4	9	8	34
進 路 適 性	相談対象者別								0
	相談者別								0
対人関係	相談対象者別		1			1	40		42
	相談者別		1			1	40		42
学校生活	相談対象者別		3	1	1	2			7
	相談者別				1	2	4		7
問 合 せ ほ か	相談対象者別				1		206	17	224
	相談者別				1		206	17	224
無 言	相談対象者別							420	420
	相談者別							420	420
計	相談対象者別	0	13	12	5	7	256	445	738
	相談者別	0	8	2	6	7	270	445	738
〔参考〕 令和3年度 計	相談対象者別	0	20	14	11	2	405	597	1,049
	相談者別	0	1	0	10	2	440	596	1,049

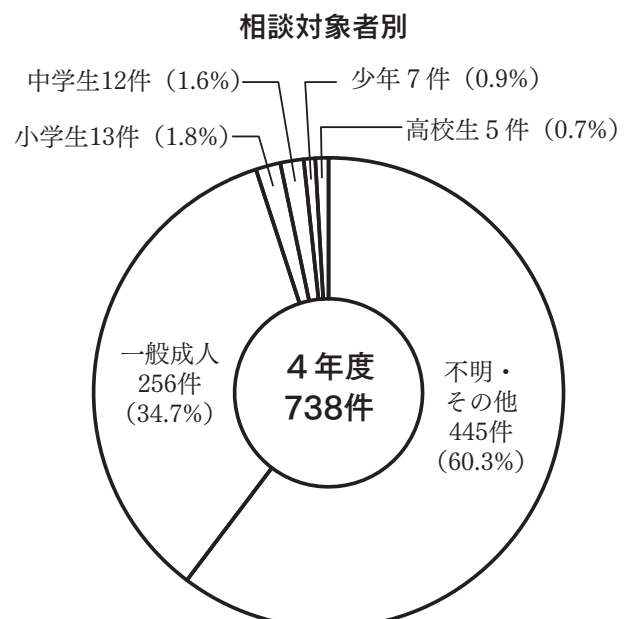
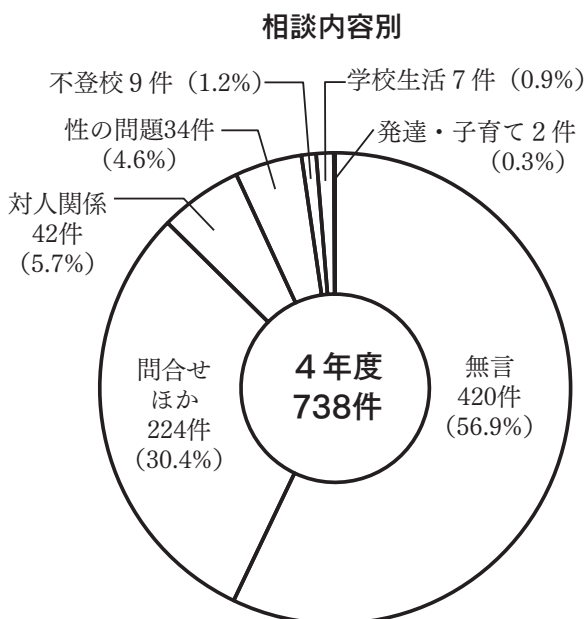
※上段は相談対象者別分類数 [電話内容が誰のことについての分類]

(例：小学生の息子のことで、母親からの相談→小学生にカウント)

※下段は相談者別分類数 [電話を掛けてきた人についての分類]

(例：小学生の息子のことで、母親からの相談→保護者にカウント)

※少年は20歳未満の大学（短大）生・専門学校生・有職少年・無職少年



(7) 教育相談研修

現在の社会環境を反映して、子供たちの問題行動は複雑で多様なものとなっている。そうした子供たちの心を受容しつつ、成長を支援する学校での教育相談的なかわりが重要視されている。このような状況を踏まえ、不登校の小・中学生の実態とその対応について学ぶ、不登校担当教員研修や相談指導学級における教育相談教員研修を行っている。

また、相談担当者の資質の向上を図るために以下の研修を実施している。

① 内部研修

面接相談担当者は、「ケース会議」の中で事例検討を中心とした研修を行っている。

電話相談員は、定例研修会で相談者に対する援助方法について学んでいる。

② スーパーバイザー

相談担当者への専門的な助言及び技術指導のため、専門的な知識をもつ大学教授や医師等をスーパーバイザーとして委嘱している。

(8) 調査・研究事業

「青少年を取り巻く社会環境の実態調査」をはじめとした教育相談及び非行等課題解決のための調査・研究を行っている。

(9) 広報・啓発

教育相談事業のPRに努めるとともに、家庭及び地域社会の教育的機能の育成を図っている。

自然体験施設

沼津市ゆめとびら舟山

昭和54年4月、戸田小学校舟山分校の廃校に伴い、農林漁業体験実習館として利用開始。

その後、昭和55年から旧校舎を宿泊棟等として整備し、集団宿泊生活や塩づくり体験など様々な野外活動を通し規律意識や協同の精神を育み、青少年の健全育成を図っている。



1. 施設の概要

名称	沼津市ゆめとびら舟山			
電話	0558-94-3871			
所在地	沼津市戸田2558-1			
敷地面積	21,805㎡			
延床面積	1,337㎡			
施設内容	宿泊棟	鉄骨2階建	635㎡	和室10帖-12室
	食堂棟	鉄骨2階建	368㎡	
	多目的ホール	鉄骨平屋建	310㎡	研修等
	塩舎	木造平屋建	24㎡	塩づくり体験
	ふれあい広場 (グラウンド)		6,600㎡	(ナイター照明施設完備)



ふれあい広場



塩舎

宿泊定員	100人		
費用	宿泊使用料	中学生以下及び引率者	1,670円 一般2,200円
活動内容	小・中学校の教育活動 学校や少年団体などの指導者の研修活動		

2. 位置と環境

ゆめとびら舟山は、沼津市南部戸田地区に位置し、駿河湾を眼下に臨むのどかな山村の地にある。

施設面ではナイター照明付きのグラウンドや、キャンプファイヤー場、ピアノ完備の多目的ホールを完備しており、市内外の小・中学校、スポーツ少年団など多くの団体に利用されている。

また、塩づくり体験やかに面づくり体験など戸田の特性を生かした体験をすることができる。

3. 沼津市ゆめとびら舟山運営審議会

施設の適正・円滑な運営を図るために設置。

委員数 10人以内

任期 2年

委員構成 教育関係団体の代表、利用団体の代表、地元団体の代表等

4. 沿革

昭和54年3月	戸田小学校舟山分校が戸田小学校への統合に伴い廃校
昭和54年度	辺地総合開発対策の検討の中で、分校跡の再利用策として、青少年屋外研修施設として整備
昭和55年3月	日本テレビ、静岡第一テレビからのスクスクスクール開設の打診を受け、戸田村議会で舟山スクスクスクール設置を決定
昭和55年6月	「舟山みどりの学級設置条例」制定
昭和55年7月	青少年野外研修施設「食堂棟」完成 第1回スクスクスクール開設（以降平成5年まで14年間続く）
昭和57年6月	ふれあい広場施設完成
昭和57年9月	「農村漁業体験実習館」の建設について協議
昭和58年度～	農林水産省新農業改善構造事業（国庫補助事業）の一環として、「農村漁業体験実習館」施設（宿泊棟・作業棟・陶芸舎・自然遊歩道等の整備）の建設
昭和58年10月	「宿泊棟（鉄骨造一部鉄筋コンクリート造2階建635㎡）」建設着手
昭和59年3月	「宿泊棟」「陶芸舎（現塩舎）」「自然遊歩道（現在閉鎖中）」「かやぶき小屋」完成
昭和59年7月	「作業棟（鉄骨造平屋建310㎡）」完成 舟山みどりの学級閉鎖
昭和60年3月	ふれあい広場（グラウンド）夜間照明施設完成
平成元年度	宿泊、施設使用料及び給食負担料金の改正（現行料金）
平成9年度	「舟山ふるさと村 舟山みどりの学級」の新呼称募集
平成9年12月	新呼称、「ゆめとびら舟山」に決定
平成10年度	「ゆめとびら舟山」に名称変更 塩釜を設置、陶芸舎を塩舎として利用開始
平成16年度	沼津市・戸田村合併協議会、幹事会にて「ゆめとびら舟山」の新市への現状引継ぎが決まる
平成17年度	沼津市・戸田村の合併により、「沼津市ゆめとびら舟山」として運営開始
平成20～21年度	「食堂棟」の耐震補強工事を行う

5. 令和4年度利用状況

(1) 月別延べ利用者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	57	116	183	0	0	130	0	134	0	81	0	701

(2) 地区別利用者数

市 内		市 外		県 外		計	
団 体 数	延べ人数	団 体 数	延べ人数	団 体 数	延べ人数	団 体 数	延べ人数
18	436	2	82	1	183	21	701

(3) 利用団体内訳

スポーツ団体	小学校	中学校	行政	その他	計
4	0	0	3	14	21

(4) 利用区分

宿泊	日帰り	利用団体数計
8	13	21

(5) 宿泊数と延べ人数

1泊	延べ人数	2泊	延べ人数	3泊	延べ人数	4泊	延べ人数
189(7)	378	61(1)	183	0(0)	0	0(0)	0

() 内は団体数

(6) 利用目的

	自然体験	スポーツ	塩づくり	その他	計
宿泊団体	0	3	0	5	8
日帰団体	0	1	11	1	13

市民文化センター

[http:// numazu-kousya.jp/culture/index.html](http://numazu-kousya.jp/culture/index.html)

市民文化センターは芸術文化の鑑賞・交流の場として、また、市民の学習活動の場として活用されている。

平成18年4月1日から（公財）沼津市振興公社を指定管理者に指定し、民間的経営ノウハウを活かし、弾力的かつ効率的な運営を図り、利用者の立場に立った利用しやすい施設となるように努めている。



1. 施設の概要

名 称	沼津市民文化センター
所 在 地	沼津市御幸町15番1号
電 話	932-6111
竣 工	昭和57年2月27日
総事業費	4,824,317千円
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、一部4階建
規 模	敷地面積 9,070㎡ 建築面積 7,765㎡ 延床面積 13,600㎡
開 館	昭和57年7月1日

1 階

●大ホール	収容定員	1,516席	装 置	オーケストラピット
	固 定	1,406席		エプロンステージ
	可 動	110席		可動プロセニウム
	車いす用	6席分		音響反射板
	親子室	14人分		花道所作台・ピアノ
				映写装置他

○客席ワンスロープ 舞台プロセニウム型式

○音楽的催しを重点に音響設計したホールで、オペラ・バレエ・演劇・講演・集会・映画など多目的に利用できる。

●小ホール	収容定員	526席	装 置	可動プロセニウム
	固 定	526席		音響反射板
	車いす用	4席分		花道所作台・ピアノ
	親子室	14人分		

○演劇的催しを重点に設計したホールで、音楽・講演・舞踊・集会などに利用できる。

●楽 屋

(大ホール)

(小ホール)

第1楽屋	収容人員	12人 (洋室)	第7楽屋	収容人員	20人 (和室)
第2楽屋	”	12人 (洋室)	第8楽屋	”	4人 (洋室)
第3楽屋	”	12人 (洋室)	第9楽屋	”	4人 (洋室)
第4楽屋	”	20人 (和室)	第10楽屋	”	12人 (洋室)
第5楽屋	”	4人 (和室)			
第6楽屋	”	4人 (洋室)			

●展 示 室 225㎡ パネル配置で最大壁面150㎡

2 階

●大会議室 206㎡ 机・いすセット ピアノ設置 収容人員 102人

○セミ・コンサート、研修会、展示などに利用できる。

●第1会議室 (洋室) 収容人員 30人

●第2会議室 (洋室) ” 20人

●第3会議室 (洋室) ” 30人

●第4会議室 (洋室) ” 30人

●第5会議室 (洋室・工作台があり、実習などに利用できる) ” 42人

●第6会議室 (和室・15畳2間続き) ” 30畳

●第7会議室 (和室・11畳の広間と4畳台目の茶室) ” 20畳

●特別会議室 (洋室) ” 6人

●第1練習室 150㎡ 机・いすセット ” 78人

●第2練習室 156㎡ 机・いすセット ” 81人

●第3練習室 (視聴覚設備付) ” 54人

○オーディオ装置一式

○映写装置 16mm・8mm・スライド+カセットレコーダー

○テレビ、ビデオ装置一式

○OHP (オーバーヘッドプロジェクター) 一式等

○いずれも会議用にも利用できる。

地 階

●第1リハーサル室 音楽関係用 ピアノ設置 92㎡

●第2リハーサル室 演劇・舞踊用 バレエ用横木・鏡設置 97㎡

2. 運 営

(1) 運営審議会委員

文化センターの適正かつ円滑な運営を図るために設置している。

委員の数 7名

任期 2年

(2) 自主文化事業（指定管理者令和4年度実施）

公演日	会 場	催 物 名	演目・公演内容	入場者数 (人)
5月1日(日) 14日(土) 11月6日(日) 19日(土)	大ホール	大ホールでスタインウェイピアノを弾こう！	まるでリサイタルのような環境の中でコンサートピアノ「スタインウェイD-274」を試奏できる企画	春 52 秋 60 延べ112
5月21日(土)	大ホール	上野耕平&山中惇史デュオ・リサイタル	若手クラシック・サクソフォーン奏者の中心的存在の上野耕平とピアニスト、作曲家としても活躍の山中惇史によるコンサート	338
7月1日(金)～ 18日 (月・祝)	展示室	開館40周年記念 沼津市民文化センターの40年のあゆみ展	文化センターの40年の歴史と市民の思い出を振り返る企画	633
7月1日(金)	展示室	開館40周年記念 ロビーコンサート	吹き抜けロビーに響きわたるクラシックの奏でとプロジェクションマッピングで演出するコンサート	177
7月2日(土)	大ホール	開館40周年記念 静岡県警察音楽隊コンサート	開館40周年を祝う、静岡県警察音楽隊による吹奏楽コンサート。	1,276
7月9日(土)	大ホール	小椋佳 ファイナル・コンサート・ツアー 「余生、もういいかい」	1970年代から歌手として、そして曲提供者としても活躍を続けた小椋佳最後のコンサートツアー	1,422
6月13日(日) ①・②・③	大ホール	大ホール 舞台探検隊	普段は目にすることのない舞台機構や音響設備、照明機材の見学体験ツアー	①16 ②15 ③12 延べ43
8月20日(土)	大ホール	工藤静香 35th Anniversary Tour 2022	作詞家・画家としても活躍する多彩なアーティスト工藤静香のパワフルな歌唱力と魅力あふれるコンサート	1,366
9月4日(日)	小ホール	SPAC –静岡県舞台芸術センター「みつばち共和国」	静岡県が世界に誇る芸術団体SPACが、フランス人演出家と創作した「みつばち共和国」。ミツバチの不思議で神秘的な世界を堪能できる舞台	193
10月8日(土)	大ホール	近藤真彦 2022 LIVE TOUR	デビューから40年以上を経て、益々円熟味を増してきた近藤真彦。歌に踊りに演技に、そのほかにもマルチな才能を発揮するスターのコンサート	1,355
10月30日(日)	小ホール	グランプリコンサート2022 代替公演 打楽器集団 男群	日本を代表するパーカッショングループ。繊細なマリimbaから豪快なアフリカンパーカッションまで多彩な音とリズムを刻むコンサート	297
11月12日(土)	大ホール	第13回プラスの祭典in沼津 ～ヤマハ吹奏楽団～	年代を越え幅広い層に親しまれてきた「プラスの祭典」。全日本吹奏楽コンクールで輝かしい成績のあるヤマハ吹奏楽団によるコンサート	707

公演日	会場	催物名	演目・公演内容	入場者数(人)
12月3日(土) ①・②	大ホール	おかあさんといっしょ ファンターネ！がやってきた	NHK「おかあさんといっしょ」の登場キャラクターによる幼児向け公演	①1,403 ②1,436 延べ2,839
12月10日(土)	大ホール	YAMATO String Quartet	日本人ヴァイオリニストで人気No.1の石田泰尚ら、実力派揃いの弦楽四重奏。	322
1月15日(日)	大ホール	第4回ぬまづニューイヤー・ガラコンサート	地元の音楽家たちを中心に名曲を集い奏でる新春コンサート。	290
2月26日(日)	大ホール	第9回沼津ジャズフェスティバル	コンボやビッグバンドなど様々なジャズ仲間によるジャズの祭典	775
3月4日(土)	大ホール	沼津寄席 桂文珍 独演会	上方落語の大看板、桂文珍による古典と新作落語を絶妙に組み合わせた寄席	844
毎月1回 (奇数月)		クラシック・レコードコンサート	毎回 テーマ毎に講師の説明を交えて、大型スピーカーでクラシック音楽を鑑賞	6回 延べ134

3. 利用状況 (令和4年度)

(1) 大・小ホール月別利用状況

区分	大ホール							小ホール						
	可能		使用					可能		使用				
	日数	回数	日数	率(%)	件数	回数	率(%)	日数	回数	日数	率(%)	件数	回数	率(%)
4年4月	29	87	13	44.8	14	30	34.5	29	87	14	48.3	15	29	33.3
5月	30	90	7	23.3	7	19	21.1	28	84	17	60.7	20	43	51.2
6月	26	78	12	46.2	12	28	35.9	27	81	14	51.9	16	31	38.3
7月	26	78	19	73.1	21	42	53.8	26	78	20	76.9	23	45	57.7
8月	29	87	13	44.8	13	31	35.6	29	87	21	72.4	25	50	57.5
9月	25	75	14	56.0	15	33	44.0	25	75	16	64.0	18	36	48.0
10月	29	87	19	65.5	22	48	55.2	27	81	16	59.3	17	37	45.7
11月	25	75	17	68.0	18	46	61.3	25	75	21	84.0	25	48	64.0
12月	23	69	12	52.2	12	34	49.3	23	69	21	91.3	27	55	79.7
5年1月	22	66	16	72.7	19	44	66.7	22	66	17	77.3	24	40	60.6
2月	26	78	7	26.9	7	17	21.8	25	75	12	48.0	13	28	37.3
3月	27	81	13	48.1	15	30	37.0	27	81	22	81.5	25	49	60.5
合計	317	951	162	51.1	175	402	42.3	313	939	211	67.4	248	491	52.3

(2) 大・小ホール、会議室等月別利用状況

(単位：人)

	大ホール	小ホール	会議室 練習室 (12室)	リハーサル室 (2室)	展示室	合計
4年4月	4,738	2,069	1,837	393	0	9,037
5月	2,331	2,662	2,616	378	1,532	9,519
6月	4,180	2,662	2,616	378	1,532	9,519
7月	5,536	3,794	2,198	504	813	12,845
8月	4,062	2,399	1,238	423	253	8,375
9月	5,229	1,830	2,479	496	0	10,034
10月	9,684	2,935	3,068	927	1,565	18,179
11月	7,479	3,975	3,443	918	660	16,475
12月	10,460	4,824	1,492	1,021	70	17,867
5年1月	7,806	2,203	1,870	490	459	12,828
2月	2,093	1,720	1,946	483	348	6,590
3月	6,112	3,242	1,774	740	155	12,023
合計	69,710	33,690	26,215	8,617	5,860	144,092

(3) ホール催物別利用状況

催物区分	大ホール		小ホール		合計			
	件数	人数	件数	人数	件数	率(%)	人数	率(%)
ポピュラーコンサート (歌謡ショー他)	13	14,835	8	1,440	21	5.0	16,294	15.8
クラシックコンサート (オーケストラ・ピアノ)	6	3,710	6	924	12	2.8	4,634	4.5
アマチュアコンサート (ピアノ・ブラバン他)	79	19,566	111	11,693	190	44.9	31,259	30.2
邦楽 (詩吟・民謡他)	2	223	10	1,883	12	2.8	2,106	2.0
舞踊 (日舞・バレエ他)	16	5,652	34	6,453	50	11.8	12,105	11.7
映画	0	0	1	72	1	0.2	72	0.1
演劇 (新劇・児童劇)	9	7,887	4	361	13	3.1	8,248	8.0
芸能 (能・狂言・寄席他)	3	2,456	4	767	7	1.7	3,223	3.1
集会 (式典・講演会他)	47	15,362	70	10,097	117	27.7	25,459	24.6
合計	175	69,710	248	33,690	423	100.0	103,400	100.0

図 書 館

沼津市立図書館は、多様化する市民の新しい知的要求に応え、生涯学習の拠点となりうる施設として、また、建設後30年を経過し、蔵書収容能力も限界となっていた駿河図書館に替わる施設として計画され、市制70周年に当たる平成5年7月1日に開館した。図書部門はもとより、DVDやCD等の視聴覚部門の充実を図るとともに、4階には講座室、視聴覚ホール及び展示ホールを備えている。さらに地域情報の発信のため「名誉市民コーナー」、「生涯学習コーナー」、「国際交流コーナー」のほか平成26年3月からは「ぬまづの文化遺産コーナー」を開設している。



また、地域に密着した身近な図書館活動の充実を図るため、自動車文庫による巡回を行うほか、各地区センター図書室とのネットワークを構築し、図書館サービスの向上に努めている。

平成17年度からは、沼津市と戸田村との合併に伴い、戸田村立図書館を沼津市立戸田図書館と改称し、沼津市立図書館との一体的な運営を図っている。

令和3年1月29日に、子育て世代やビジネスパーソン、高齢者、障害のある方など来館が困難な方に電子書籍サービスを提供する「ぬまづ電子図書館」を開館した。

1. 沼津市立図書館沿革

(1) 沼津文庫時代

明治21年7月 沼津尋常小学校附属「沼津文庫」が設立。沼津兵学校で使用された図書、寄贈図書等を収める。

(2) 沼津市立図書室時代（千本浜入口）

昭和27年5月 沼津市立図書室が沼津文庫の名称で、沼津千本浜入口に設けられる。

(3) 沼津市立駿河図書館時代

昭和37年3月 駿河銀行会長岡野喜太郎氏の寄付により、市内市場町に建設着工

10月 沼津市立駿河図書館の名称で開館

昭和39年6月 「沼津文庫」蔵書が沼津市立第一小学校より移管される。(約1,500冊)

昭和42年11月 県立沼津東高校の移転に伴い、その図書館を児童図書館として転用開館する。

昭和43年7月 巡回文庫1号車を購入、市内各地域への図書貸出しを開始

昭和45年4月 沼津市立図書館協議会を設置

昭和49年12月 巡回文庫2号車を購入、1号車とともに市内を巡回、貸出しを実施

昭和51年5月 地域婦人による家庭文庫が始まる。

昭和53年7月 イシバシプラザ4階に駿河図書館駅北分室が開設される。

- 昭和54年 7月 沼津市民文化センター建設に伴い児童図書館閉鎖
 10月 児童図書館は、駿河図書館児童室として2階へ移設
- 昭和57年 4月 身体に障害のある方で来館が困難な方へ図書資料の郵送貸出しを開始
 (新図書館への移行期)
- 昭和61年 6月 第二次沼津市総合計画第一期基本計画に新図書館建設事業が位置づけられる。
 61～62年度 庁内関係部課長により構成される「図書館問題調査委員会」により調査・研究
- 昭和62年 4月 第13回市民意識調査に「図書館について」の項目をあげ、調査
- 昭和63年10月 市議会の発議により「新図書館建設特別委員会」を設置
- 平成元年 5月 「沼津市新図書館建設基本構想」を策定
 新図書館建設地を旧市立病院跡地（三枚橋町9番地の1）に決定
- 8月 「沼津市新図書館指名設計競技」を実施。11月審査会を実施
- 平成2年 3月 基本設計・実施設計完了
- 3月 新図書館建設事業を3か年継続費として設定・議決
- 5月 「新図書館建設室」設置
- 10月 工事着手
- 平成4年 4月 駅北分室は杉崎町424番地の1へ移転
- 10月 新図書館建築主体工事完成
- 平成5年 3月 新図書館建設工事完成
- 6月 沼津市立駿河図書館閉館

(4) 新図書館時代

- 平成5年 7月 新図書館開館
- 平成5年11月 巡回文庫1号車2回目の更新
- 平成6年 7月 駅北分室閉館
- 平成7年 1月 市立図書館入館者100万人達成
- 平成8年 8月 市立図書館入館者200万人達成
- 平成10年 5月 市立図書館入館者300万人達成
- 平成12年10月 巡回文庫2号車2回目の更新
- 平成13年 8月 市立図書館入館者500万人達成
- 平成15年 4月 小学校9校への自動車文庫巡回開始
 6月 「沼津文庫」を明治史料館へ所蔵移管
- 平成17年 2月 市立図書館入館者700万人達成
 4月 合併により戸田村立図書館が沼津市立戸田図書館となる。
- 平成22年 9月 市立図書館入館者1,000万人達成
- 平成29年 7月 巡回文庫1号車を廃止
- 平成30年 4月 「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける。
- 令和3年 1月 「ぬまづ電子図書館」開館

2. 沼津市立図書館

所在地 沼津市三枚橋町9番1号

電話 952-1234

竣工 平成5年3月

総事業費 5,500,850,015円

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造：地下1階、地上4階建（一部5階建）

規模 敷地面積 3,700.01㎡

建築面積 2,599.18㎡

延床面積 11,440.35㎡

開館 平成5年7月1日

施設概要

地下1階 2,705.24㎡

駐車場 収容台数62台（身障者用スペース2台を含む）

その他 電気室、設備機械室他

1階 2,371.32㎡

エントランスホール、一般図書室、児童図書室、おはなしのへや、国際交流コーナー、生涯学習コーナー、ラウンジコーナー、対面朗読室、事務作業室、守衛室、倉庫

2階 2,430.03㎡

参考調査図書室、郷土資料室、名誉市民・郷土ゆかりの人物著作コーナー、ラウンジコーナー、研究室（3室）、インターネット閲覧コーナー

3階 2,320.14㎡

音と映像（AV）ホール、オープンスペース（12か所）、ボックスブース（4室）、グループ室（3室）、ラウンジコーナー、ぬまづの文化遺産コーナー、学習室、アイボランティアルーム、資料作業室、事務室、電算室

4階 1,491.41㎡

視聴覚ホール（200席）、展示ホール（展示ケース3か所）、講座室（4室計240席）、ランチルーム他

5階 122.21㎡

（塔屋） 設備機械室他

開館時間 火曜日～金曜日 午前9時30分～午後7時

土・日・祝日 午前9時30分～午後5時

※4階については、講座室・展示ホール等の使用がある場合午後9時まで

休館日 (1) 毎週月曜日（祝日、振替休日の場合は開館）

(2) 年末年始（12月29日から1月3日まで）

(3) 館内整理日（4・8・1・3月を除く毎月第1水曜日、ただし祝日に当たる場合は翌週の水曜日、1月については4日、4月については第2水曜日とする）

(4) 特別整理期間（毎年2回、1回につき10日以内で教育委員会が定める期間）

貸出	図書資料	10冊まで	14日以内
	視聴覚資料	CD、DVD、ビデオ等	
		3点まで	14日以内
	電子出版物	CD-ROM等	
		3点まで	14日以内
	電子書籍	「ぬまづ電子図書館」 令和3年1月29日開館	
		5点まで	14日以内

3. 沼津市立戸田図書館

所在地 沼津市戸田845番地の2

電話 0558-94-4420

竣工 平成3年3月

構造 鉄筋コンクリート造：地上2階建

規模 延床面積 614.47㎡

開館 平成3年4月6日

施設概要 1階 一般・児童図書室、書庫、事務室

2階 視聴覚室、書庫

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 (1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日

(3) 年末年始（12月29日から1月3日まで）

(4) 館内整理日（4・8・1・3月を除く毎月第1水曜日、ただし1月については4日、4月については第2水曜日とする）

(5) 特別整理期間（毎年2回、1回につき10日以内で教育委員会が定める期間）

4. 沼津市立図書館協議会

図書館の円滑な運営を図るため昭和45年に設置。現在は学校教育の関係者、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験のある者、公募による市民10名以内で構成され、任期は2年。

5. 蔵書数

(1) 図書資料

令和5年3月末現在（単位：冊）

区分	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	洋書	点字	絵本	紙芝居	計	
市立図書館	一般書	22,450	16,416	50,006	69,669	24,429	27,243	14,698	37,115	6,834	113,244	3,483	1,168		386,755	
	電子出版物	142	9	38	408	84	115	89	40	13	11				949	
	児童書	953	646	3,476	4,404	6,875	2,732	1,872	3,403	885	20,035			25,570	2,062	72,913
	小計	23,545	17,071	53,520	74,481	31,388	30,090	16,659	40,558	7,732	133,290	3,483	1,168	25,570	2,062	460,617
戸田図書館	一般書	966	727	3,502	3,271	1,677	2,435	602	1,737	319	9,689				24,925	
	電子出版物						2	2							4	
	児童書	130	54	360	432	978	467	302	402	115	3,057			4,915	638	11,850
	小計	1,096	781	3,862	3,703	2,655	2,904	906	2,139	434	12,746	0	0	4,915	638	36,779
自動車文庫	一般書	29	84	167	182	242	407	70	262	17	2,674				4,134	
	児童書	23	9	10	28	56	18	9	47	11	806			1,052	33	2,102
	小計	52	93	177	210	298	425	79	309	28	3,480	0	0	1,052	33	6,236
地区センター図書室	一般書	486	946	2,879	2,404	2,355	5,622	1,116	2,117	449	12,946				31,320	
	児童書	186	108	1,192	1,248	3,036	916	533	978	252	9,194			21,391	250	39,284
	小計	672	1,054	4,071	3,652	5,391	6,538	1,649	3,095	701	22,140	0	0	21,391	250	70,604
全体	一般書	23,931	18,173	56,554	75,526	28,703	35,707	16,486	41,231	7,619	138,553	3,483	1,168	0	0	447,134
	電子出版物	142	9	38	408	84	117	91	40	13	11	0	0	0	0	953
	児童書	1,292	817	5,038	6,112	10,945	4,133	2,716	4,830	1,263	33,092	0	0	52,928	2,983	126,149
	合計	25,365	18,999	61,630	82,046	39,732	39,957	19,293	46,101	8,895	171,656	3,483	1,168	52,928	2,983	574,236

※電子出版物とは、CD-ROM及びDVD-ROM

(2) 電子書籍資料

令和5年3月末現在（単位：点）

区分	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	洋書	点字	絵本	紙芝居	計
一般書	234	316	474	1,116	416	557	233	934	226	7,157					11,663
児童書	9	19	47	17	81	10	6	41	10	270			443		953
小計	243	335	521	1,133	497	567	239	975	236	7,427	0	0	443	0	12,616

(3) 視聴覚資料

令和5年3月末現在（単位：点）

	ビデオ	DVD	LD	CD	カセット	16ミリフィルム	計
市立図書館	10,960	6,002	1,063	22,170	1,778	20	41,993
戸田図書館	361	389	0	469	1	0	1,220
合計	11,321	6,391	1,063	22,639	1,779	20	43,213

(4) 新聞・雑誌

令和5年3月末現在（単位：点）

	市立図書館				戸田図書館		
	購入	寄贈	計	うち外国語	購入	寄贈	計
新聞	14	7	21	1	4	3	7
雑誌	164	161	325	2	10	19	29

6. 利用状況

(1) 図書館入館者数

(令和4年度) () は戸田図書館

月	入館者数 (月間)	開館 日数	1日平均 入館者数	月	入館者数 (月間)	開館 日数	1日平均 入館者数	月	入館者数 (月間)	開館 日数	1日平均 入館者数
4	21,799 (440)	25 (24)	872 (18)	8	23,021 (569)	26 (23)	885 (25)	12	17,766 (477)	23 (23)	772 (21)
5	23,114 (392)	25 (22)	925 (18)	9	16,425 (476)	21 (24)	782 (20)	1	19,650 (442)	24 (23)	819 (19)
6	19,939 (465)	25 (25)	798 (19)	10	21,078 (644)	26 (25)	811 (26)	2	19,681 (369)	23 (21)	856 (18)
7	23,111 (651)	27 (26)	856 (25)	11	19,907 (437)	25 (23)	796 (19)	3	19,046 (523)	24 (25)	794 (21)
計									244,537 (5,885)	294 (284)	832 (21)

(2) 利用者カード登録者数

登録者数 (人)
185,305

(令和5年3月末現在)

(3) 貸出者数

(令和4年度) (単位:人)

	一般	児童	計
市立図書館	191,326	31,196	222,522
戸田図書館	2,356	318	2,674
自動車文庫	3,359	347	3,706
地区センター図書室	12,958	2,071	15,029
計	209,999	33,932	243,931

(4) 部門別貸出図書数

(令和4年度) (単位:冊)

区分	0 総記	1 哲学	2 歴史・地理	3 社会科学	4 自然科学	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	雑誌・ 洋書・ 絵本等	計	
市立図書館	一般書	5,794	15,986	28,013	28,705	23,305	41,268	9,233	27,032	3,222	158,600	31,057	372,215
	児童書	1,493	1,829	10,115	4,527	14,621	6,656	3,010	8,210	1,533	64,406	123,837	240,237
	小計	7,287	17,815	38,128	33,232	37,926	47,924	12,243	35,242	4,755	223,006	154,894	612,452
戸田図書館	一般書	69	46	149	99	107	259	59	160	19	3,766	328	5,061
	児童書	14	36	36	33	82	36	20	34	20	356	676	1,343
	小計	83	82	185	132	189	295	79	194	39	4,122	1,004	6,404
自動車文庫	一般書	66	330	409	324	483	788	185	516	59	9,050	95	12,305
	児童書	8	20	38	35	45	17	11	96	32	667	1,188	2,157
	小計	74	350	447	359	528	805	196	612	91	9,717	1,283	14,462
捜センタ 図書室	一般書	404	1,000	1,152	1,559	1,362	2,725	489	1,121	198	12,116	335	22,461
	児童書	60	56	784	200	831	345	143	558	64	3,539	16,595	23,175
	小計	464	1,056	1,936	1,759	2,193	3,070	632	1,679	262	15,655	16,930	45,636
全体	一般書	6,333	17,362	29,723	30,687	25,257	45,040	9,966	28,829	3,498	183,532	31,815	412,042
	児童書	1,575	1,941	10,973	4,795	15,579	7,054	3,184	8,898	1,649	68,968	142,296	266,912
	合計	7,908	19,303	40,696	35,482	40,836	52,094	13,150	37,727	5,147	252,500	174,111	678,954

(5) 部門別貸出電子書籍数

(令和4年度) (単位:点)

区分	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工学	産業	芸術	語学	文学	絵本等	計
一般書	392	477	806	630	931	1,853	354	984	264	3,549		10,240
児童書	129	175	1,852	346	1,754	170	44	1,599	134	4,570	4,149	14,922
小計	521	652	2,658	976	2,685	2,023	398	2,583	398	8,119	4,149	25,162

(6) 視聴覚資料貸出点数 (館内ブース利用も含む)

(令和4年度)(単位:点)

	ビデオ	DVD	LD	CD	カセット	16ミリフィルム	計
市立図書館	1,412	33,689	42	32,961	54	0	68,158
戸田図書館	3	319	0	162	0	0	484
合計	1,415	34,008	42	33,123	54	0	68,642

(7) レファレンスサービス

レファレンスサービス(資料案内・相談)は、貸出業務とならんで最も大切な図書館業務の一つである。

市民からの相談は多様化しており、電話による相談にも応ずるなど、市民が気軽にレファレンスサービスを活用出来るよう努めている。

(令和4年度)(単位:件)

また、当館の資料で不十分な場合は、県立中央図書館及び国立国会図書館等に照会して利用者へのサービスを図っている。

区分	窓口	電話	文書	Eメール	計
市立図書館	8,470	110	0	7	8,587
戸田図書館	280	16	0	0	296
合計	8,750	126	0	7	8,883

(8) 相互貸借

各図書館の間で相互に図書館資料の貸借を行い、利用者の要求に応じている。

資料の貸借は、県立中央図書館の協力車に依頼、郵便、宅配便の方法から選択して行っている。

(令和4年度)

		貸 出			借 受				
		県内図書館	県外図書館	計	県立中央図書館	県内図書館	国会図書館	県外図書館	計
市立図書館	件数	671	12	683	39	846	0	42	927
	冊数	1,002	14	1,016	143	1,371	0	74	1,588
戸田図書館	件数	0	0	0	1	53	1	0	55
	冊数	0	0	0	1	53	1	0	55
合計	件数	671	12	683	40	899	1	42	982
	冊数	1,002	14	1,016	144	1,424	1	74	1,643

(9) 相互利用 (平成8年8月から実施)

沼津市立図書館が県東部地域の各図書館へ呼びかけ、図書館間の相互利用協定を締結したもので、各市町の利用者が直接協定先の図書館から貸出しを受けられる制度である。

令和5年3月31日現在、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、南伊豆町、松崎町、函南町、清水町、長泉町、小山町の10市6町と協定を結び、沼津市立図書館の相互利用者カード登録者数は20,926人である。

(10) 自動車文庫

自動車文庫は、昭和43年7月に活動を始め、45か所のステーション及び小学校2校を巡回して、地域に密着した身近な図書館活動を行うとともに、図書館利用層の拡大に努めている。

ア 自動車文庫地区別利用者数 (令和4年度)(単位:人)

旧市内	大岡	門池	金岡	片浜	大平	愛鷹	静浦	内浦	西浦	原	浮島	小学校	計
714	458	216	663	51	151	556	32	75	108	398	28	256	3,706

イ 自動車文庫地区別貸出冊数 (令和4年度)(単位:冊)

旧市内	大岡	門池	金岡	片浜	大平	愛鷹	静浦	内浦	西浦	原	浮島	小学校	計
2,352	2,162	874	2,789	162	625	2,443	191	188	457	1,641	65	513	14,462

(11) おはなしの会

- ① 小学校低学年までの幼児・児童を対象に、毎週土曜日及び毎月第3日曜日にボランティアの協力を得て、紙芝居や絵本の読み聞かせ等の会を開催している。
- ② 0～3歳児を対象に、毎週木曜日に図書館職員による「ちいさなおはなし会」を開催している。
- ③ 毎月第2日曜日に男性による読み聞かせ「読みメンのおはなし会」を開催している。

(12) 障がい者に対するサービス

市内に住んでいる身体障害者手帳または療育手帳を持っている方で、来館が困難な方を対象に、郵送または宅配による図書等の貸出しを行っている。

① 郵送貸出

昭和57年度から行っているが、平成8年7月から貸出資料に録音図書を加え、一層の充実を図っている。 郵送件数 16件 貸出冊数 42タイトル (令和4年度)

② 宅配サービス

障がい者の自宅へ直接貸出資料を届けるサービスを平成8年7月より実施し、障がい者に対するサービス拡充を図っている。 宅配件数 111件 貸出冊数 588タイトル (令和4年度)

(13) 団体貸出

地域への図書活動の一つとして団体貸出しを推進している。

令和4年度貸出冊数 16,407冊 (市立図書館 16,319冊 戸田図書館 88冊)

令和4年度利用団体

西浦保育所、大岡保育所、愛鷹保育園、すぎのこCクラブ、おひさまクラブ、にじいろクラブ、くれよんクラブ、こすもすクラブ、どんぐりAクラブ、どんぐりBクラブ、たんぼぼAクラブ、たんぼぼCクラブ、おれんじAクラブ、おれんじBクラブ、つくしんぼクラブ、さくらんぼクラブ、みつばちクラブ、かえるっこクラブ、あみ〜ごクラブ、つばめクラブ、まつぼっくりクラブ、こじかクラブ、きらり沼津校、きらり金岡校、ちょうどえ〜、ミルキーウェイ、沼津聴覚特別支援学校、ブロッサムジュニア沼津教室、戸田森林組合、めんだこクラブ、読み聞かせくらぶ「たちばな」

7. 自主事業

(1) 令和4年度講座・講演開催実績

図書館活動の一環として、図書館資料の提供と関連をもたせ、資料の活用を促進し、市民の読書活動推進の一助となるよう講座等を開催した。

新型コロナウイルス感染拡大防止をしつつ、参加人数は制限を緩和して実施した。

① 文芸講座 「万葉集」を読む

回	月 日	内 容	講師（敬称略）
1	6月3日(金)	柿本人麻呂の歌「東の野にかぎろひの立つ見えて」を読む	常葉大学短期大学部名誉教授 尾崎 富義
2	6月10日(金)	山部赤人の歌「田子の浦ゆうち出て見れば」を読む	
3	6月17日(金)	疫病で死んだ遣新羅使人 雪宅満の追悼挽歌を読む	

参加者数 延べ199人 会場 視聴覚ホール 開催時間 18:00～19:30

② 子どもの本を知る講座

月 日	内 容	講師（敬称略）
7月10日(日)	「大人になってから絵本に出会うとき ～ 誰かといっしょに読む楽しみ～」	静岡県子ども読書アドバイザー 望月 恵美

参加者数 26人 会場 第3講座室 開催時間 13:30～15:00

③ 夏休み子ども講座

月 日	内 容	講師（敬称略）
8月17日(水)	「海のいきものを調べるしごと — DNAと進化のはなし—」	国立遺伝学研究所教授 工樂 樹洋

参加者数 54人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30～15:00

YouTube動画配信 11月25日(金)～3月31日(金) 視聴回数 前編 102回、後編 80回

④ 読書週間講演会

月 日	内 容	講師（敬称略）
11月6日(日)	「歴史の中の人間を描く ～ 頼朝執筆秘話、時々ぬまづ～」	歴史時代小説家 秋山 香乃

参加者数 100人 会場 視聴覚ホール 開催時間 13:30～15:00

⑤ 読みメン講座

月 日	内 容	講師（敬称略）
12月4日(日)	「俳優と読む『人形の家』 ～ SPACリーディング・カフェ～」	SPAC—静岡県舞台芸術センター 俳優 武石 守正

参加者数 15人 会場 第1・2講座室 開催時間 13:30～15:30

(2) 令和4年度展示事業実績

4階の展示ホールを会場として実施した。

① 夏の企画展

期 間 7月7日(木)～8月3日(水)

テ ー マ 「えほんのせかい こどものせかい」

～松岡享子さんありがとう～、～絵本も読み物も冒険がいっぱい～

内 容 幼稚園・学校・地域で読み聞かせを行っているボランティアの協力により、テーマに沿った本や絵本などを展示した。ぬまづ子どもの本を学ぶ会との共催。

(関連行事)

おはなし会 (読み聞かせ)

日 時 8月3日(水) 午前の部 11:00～12:00 午後の部 13:30～14:30

会 場 第1・2講座室

参加人数 延べ26人

② 読書週間企画展

期 間 10月6日(木)～11月13日(日)

テ ー マ 「歴史小説の中のぬまづ」

内 容 沼津を舞台とした歴史小説に関する展示のほか、講演会講師である秋山香乃氏や氏に関連する作家の作品・愛用品等を展示した。

③ 富士山の日企画展

期 間 2月10日(金)～3月22日(水)

テ ー マ 「日本の心 富士山」

内 容 令和5年6月に10周年を迎える富士山の世界文化遺産登録までの道のりや、構成資産の地図、富士山をテーマとした絵画等芸術作品を展示した。富士山の基礎知識が学べるクイズの展示も行った。

④ その他企画展

期 間 4月2日(土)～7月5日(火)

テ ー マ 「図書館に眠るお宝資料展」

内 容 通常書庫に保管している「東海道五十三次のごろく」や現代版画、日本で最初の月刊保育絵本であるキンダーブックの初版本などの貴重資料を展示した。

期 間 9月13日(火)～10月4日(火)

テ ー マ 「わが家のペット写真展」

内 容 動物愛護週間にあわせ、ペットの飼い方や動物との共生に関する啓発展示と公募したペットの写真の展示を行った。環境政策課との共催。

(3) 令和4年度その他事業実績

① 子ども読書活動推進関連事業

講 座

日 時 5月8日(日) 13:30～15:30

テ ー マ 「しかけ絵本講座」

講 師 しかけ絵本専門店メッゲンドルファー代表 嵐田 康平
 会 場 第1・2講座室
 参加者数 42人

② おはなしフェスティバル

日 時 12月3日(土) 13:00~15:00
 内 容 小さな子どもでも楽しめるエコ工作や、読み聞かせボランティアによるパネルシアター、大型絵本を使ったおはなし・手遊びを行った。
 会 場 展示ホール・視聴覚ホール・第3講座室
 参加人数 60人

(関連行事)

企画展

期 間 12月1日(木)~12月28日(水)

テ ー マ 「昔話の紙芝居」「みんなのぬりえ展覧会」

「いっすんぼうし」や「かちかちやま」などの昔話の紙芝居と人形を展示するとともに来館者から募集した図書館マスコットキャラクターのぬり絵を展示した。

③ 上映会

視聴覚資料の有効利用を図る観点から、夏休みの毎週木曜日の午前・午後及び春休みに上映会を実施した。

「夏の上映会」

月 日	タ イ ト ル
7月28日(木)	「モンスター・ホテル」 「岩合光昭の世界ネコ歩き ～スペシャル 津軽の四季～」
8月4日(木)	「長ぐつをはいたネコ」 「幸せのちから」
8月11日 (木・祝)	「恐竜超世界 第2集 ～史上最強! 海のモンスター～」 「僕のワンダフル・ライフ」
8月18日(木)	「トムとジェリー ～花火はすごいで～」 「富士ファミリー」
8月25日(木)	「伊豆の踊子」 「An aquarium — 水族館 — 沖縄美ら海水族館」

参加者数 延べ182人 会場 視聴覚ホール 開催時間 10:30~、14:30~

「春の上映会」

月 日	タ イ ト ル
3月22日(水)	「森のリトル・ギャング」
3月23日(木)	「ざんねんないきもの辞典2」
3月24日(金)	「映画すみっコぐらし ～とびだす絵本のひみつのコ～」

参加者数 延べ249人 会場 視聴覚ホール 開催時間 10:00~

戸田図書館「夏の上映会」

月 日	タ イ ト ル
8月16日(火)	「おじゃる丸スペシャル わすれた森のヒナタ」

参加者数 5人 会場 視聴覚室 開催時間 10:00~

④ 夏休み図書館子ども探検隊

図書館の仕組みや本の調べ方等を学び、図書館についての知識を深め、より身近に感じてもらうことを目的として、小学校4年生から6年生を対象に図書館の仕事を体験する「子ども探検隊」を実施した。「子ども探検隊」に参加したことのある現6年生には、本の選書や接客などより深く図書館の業務を体験することができる「プレミアム探検隊」を実施した。

○市立図書館

実施日 7月26・27・28日、8月2・3・4・5・9・10日（9日間）

時間 9：00～12：30

参加者数 延べ36人（うちプレミアム探検隊10人）

○戸田図書館

実施日 7月28・29日（2日間）

時間 9：00～12：00（7月29日）、13：00～16：00（7月28・29日）

参加者数 延べ5人

⑤ ビブリオバトル

・ビブリオバトル小中学生大会in沼津2022

学校と連携を図り子どもの読書活動を推進するとともに、「話す」「聞く」「対話」といった要素を通じて国語力やコミュニケーション力を高めることを目的に、小学校5・6年生及び中学生を対象に書評合戦を実施した。一次審査を動画で行い、決勝大会を開催した。発表の様子を後日YouTubeで動画配信した。

日時 12月11日(日) 10：00～12：00（小学生の部）

13：30～15：30（中学生の部）

場所 視聴覚ホール

参加者数 一次審査 〈小学生の部〉19人 〈中学生の部〉38人

発表者 〈小学生の部〉8人 〈中学生の部〉6人

観戦者 〈小学生の部〉66人 〈中学生の部〉38人

YouTube動画配信 1月13日(金)～ 視聴回数 小学生の部1,421回、中学生の部422回

・大人のビブリオバトル

本をツールとした読書活動の推進とコミュニケーションの場の提供、地域の活性化などを目的として高校生以上を対象に開催した。

日時 3月3日(金) 18：30～20：00

場所 視聴覚ホール

参加者数 発表者 5人

観戦者 40人

8. 図書館情報ネットワーク事業

- 平成8年度：県立中央図書館とのパソコン通信によるネットワーク化により相互の蔵書検索が可能となる。
- 平成9年度：沼津市立図書館ホームページを開設
家庭から蔵書検索、利用案内、行事案内、新着図書案内が閲覧可能となる。
- 平成10年度：地区センター等への図書館業務端末の設置開始
原地区センター、静浦東小学校に設置
- 平成11年度：西浦地区センター、浮島小学校に業務端末設置
- 平成12年度：浮島地区センターに業務端末設置
- 平成13年度：学校図書室電算化にともない業務端末を静浦東小から大平地区センターへ、浮島小から愛鷹公民館（現愛鷹地区センター）へ移設
- 平成15年度：沼津市立図書館ホームページ上から貸出予約受付開始
大岡地区センターに業務端末設置
- 平成16年度：金岡地区センターに業務端末設置
県立中央図書館の横断検索システムに加入することにより県内加入館の蔵書検索が可能となる。
- 平成17年度：第四地区センターに業務端末設置
図書館ホームページ上にキッズページ（子供用ホームページ）を追加
- 平成18年度：静浦地区センターに業務端末設置
図書館ホームページを刷新
- 平成20年度：携帯電話向けモバイル版ホームページを開設
第五地区センターに業務端末設置
- 平成22年度：片浜地区センターに業務端末設置
- 平成23年度：第三地区センターに業務端末設置
地区センター等図書室に巡回指導員を配置
- 平成25年度：門池地区センターに業務端末設置
- 平成26年度：今沢地区センター、内浦地区センターに業務端末設置
- 平成30年度：第二地区センターに業務端末設置
- 令和元年度：TSUNAGARU Project 運用開始
- 令和2年度：ぬまづ電子図書館ホームページを開設

社会体育

スポーツを活用としたまちづくりを推進するため、令和3年4月より、スポーツに関する事務の管理及び執行が教育委員会から市長部局（産業振興部ウィズスポーツ課）へ事務移管された。



1. 沼津市スポーツ推進審議会

スポーツ基本法に基づき、本市のスポーツ振興に関する重要事項について調査・審議する機関として昭和48年3月に設置された。

平成14年5月 「沼津市スポーツ振興基本計画のあり方」について、次の事項について諮問を受ける。

1. 生涯スポーツの振興方策について
2. スポーツ施設の整備充実方策について
3. 総合型スポーツクラブの育成方策について
4. 学校、地域社会、スポーツ団体の連携方策について

平成15年9月 「沼津市スポーツ振興基本計画のあり方」について答申する。

平成16年9月 「沼津市スポーツ振興基本計画」を策定

平成22年2月 「沼津市スポーツ施設整備計画」を策定

平成23年10月 「沼津市スポーツ推進審議会」に名称変更

平成24年11月 「沼津市新市民体育館整備基本構想の策定について」諮問を受ける。

平成25年5月 「沼津市新市民体育館整備基本構想の策定について」答申する。

5月 「沼津市スポーツ推進基本計画の策定について」諮問を受ける。

9月 「沼津市新市民体育館整備基本構想」を策定

平成26年1月 「沼津市スポーツ推進基本計画の策定について」答申する。

3月 「沼津市スポーツ推進基本計画」を策定

平成29年8月 「沼津市新市民体育館整備基本計画」を策定

沼津市スポーツ推進審議会委員

委員の数 15人以内

任期 2年

委員の構成 学識経験者、公募による市民、各種団体を代表する者及び関係行政機関の職員

2. 事業計画

(1) 令和5年度スポーツ大会等開催事業

令和5年4月1日現在

事業の名称	実施期間	概要	要
第64回沼津市町別 ソフトボール大会	令和5年4月 9・16・23日	30歳以上の男性及び高校生以下を除く女性がソフトボールを楽しむ中で体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深める。(第63回 48チーム)	
第57回沼津市町別 バレーボール大会	令和5年 6月11・18日	18歳以上の女性がバレーボールを楽しむ中で体力づくりと健康の増進を図り、試合を通して相互の親睦を深める。(第56回 7チーム)	
第68回千本浜 ファミリーマラソン大会	令和5年 11月12日	市民の健康増進と体力づくりを目的に、千本浜防潮堤を利用して、誰でも気軽に参加できるマラソン大会を実施する。(第67回 331人)	
第70回沼津市駅伝競走大会	令和6年 1月21日	職場スポーツの普及と青少年の体力増強を図ることを目的に、愛鷹広域公園周回コースで実施する。(第69回 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	
第77回沼津市スポーツ祭	通年	各種スポーツの普及と底辺拡大を図るため、スポーツ協会の協力のもと、本市最大のスポーツ大会を実施する。(第76回 陸上競技ほか全32種目実施)	

(2) スポーツ指導者バンク事業

市民のスポーツの振興と健康増進を図るため、自主的にスポーツを通じた健康づくり活動に取り組む団体等に対し、スポーツ指導者を派遣するほか、指導者の資質向上に取り組む。

○スポーツ指導者バンク

- ・登録指導者数 60人（令和5年4月1日現在）

(3) 学校体育施設利用推進事業

地域スポーツの振興を図るため、小中学校他32か所に屋外運動場夜間照明施設を設置するとともに、小中学校の体育施設を地域住民のスポーツの場として開放している。

◎令和5年度夜間照明施設設置状況 ※市立高中等部は除く

	小学校	中学校	小中一貫校	その他	計
計	14	13	1	4	32

◎学校体育施設利用状況（令和4年度）

	運 動 場（夜間）		運 動 場（昼間）		体 育 館（夜間）		体 育 館（昼間）	
	利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	利用日数	利用者数
小学校	1,526	37,910	1,350	46,683	4,280	80,934	1,390	32,016
中学校	747	8,860	89	2,508	3,382	58,375	7	255
小中一貫学校	—	—	—	—	378	5,063	9	297
合計	2,273	46,770	1,439	49,191	8,040	144,372	1,406	32,568

※ 旧静浦東小学校の運動場、旧静浦西小学校の体育館と運動場は社会体育施設としても供用している。

(4) スポーツ広場整備事業

地域住民の健康・体力づくりのため、自治会が借り上げた遊休地等をスポーツ広場として承認し、グラウンド砂の補充や整備に対する補助を行う。

(5) トップアスリート教室開催事業

本市のスポーツ振興の基本理念の一つである「みるスポーツ」を推進するため、本市にゆかりのあるトップアスリートによる教室を開催し、子供達にトップレベルのプレーを間近に見せることで、スポーツをする楽しみにつなげ、競技力の向上や新たな才能の発掘、スポーツ人口の拡大を図る。

(6) 沼津市民屋内温水プール利用料金助成事業

屋内温水プールの廃止に伴い、プールを活用した市民のスポーツをする意識及び機会の維持を目的として、市が指定した屋内温水プールを利用する市民に対し、利用料金の一部を助成する。

(6) 地域体力づくり教室運営事業

身近な施設でたくさんの仲間とふれあいながら健康・体力づくりができるよう、各種教室を地区センター等で開催している。

令和5年度地域体力づくり教室

令和5年4月1日現在

教室名		会場	実施期	曜日・時間	定員	対象・運動レベル	内容	
女性 体操教室	Aコース	原地区 センター	第1期 4月～8月	毎週火曜日 9：20～10：35	45人	18歳以上の女性 体力維持・向上(中級)	エアロビクス ストレッチなど	
	Bコース			毎週火曜日 10：45～12：00	45人	18歳以上の女性 初心者にも手軽にできる(初級)		
アップ・UP 体操教室	水曜日 コース	大平地区 センター		毎週水曜日 13：30～14：45	80人	健康増進 (初級～中級)	ストレッチ	
	木曜日 コース			毎週木曜日 13：30～14：45	80人	運動不足解消 (初級)	リズム運動	
アップ・UP体操教室		静浦地区 センター		第2期 9月～12月	毎週水曜日 13：30～14：45	30人	運動不足解消 (初級)	ロコモ予防運動など
男性健康づくり教室					毎週金曜日 10：00～11：15	30人	18歳以上の男性 運動不足解消(初級)	筋力トレーニング ストレッチなど
アップ・UP体操教室		浮島地区 センター		第3期 1月～3月	毎週金曜日 13：30～14：45	40人	運動不足解消 (初級)	ストレッチ
アップ・UP体操教室		戸田B&G 海洋センター			毎週火曜日 13：30～14：45	40人	運動不足解消 (初級)	リズム運動
アップ・UP体操教室				愛鷹地区 センター	毎週金曜日 13：30～14：45	50人	運動不足解消 (初級)	ロコモ予防運動など
アクアウォーキング教室		第三地区 センター			毎週火曜日 10：00～11：00	30人	18歳以上の人	ウォーキングを中心 とした水中活動
土曜水泳教室			毎週土曜日 9：00～10：00	30人	年長～小学生	水慣れから各種泳法 の習得		
夏休み 短期水泳 教室	前期	A	第1期 4月～8月	月	9：00～ 10：00	30人	年長～小学生	短期間での各種泳法 の習得
		B		金	10：30～ 11：30	30人		
	中期	A		月	9：00～ 10：00	30人		
		B		金	10：30～ 11：30	30人		
	後期	A		月	9：00～ 10：00	30人		
		B		金	10：30～ 11：30	30人		
アップ・UP体操教室		片浜地区 センター	第1期 4月～8月	毎週木曜日 13：30～14：45	40人	運動不足解消 (初級)	ストレッチ	
アップ・UP 体操教室	水曜日 コース	第五地区 センター		毎週水曜日 13：30～14：45	45人	運動不足解消 (初級)	リズム運動	
	木曜日 コース		毎週木曜日 13：30～14：45	45人	健康増進 (初級～中級)	ロコモ予防運動など		
柔・酸・筋教室		サンウェル ぬまづ	第2期 9月～12月	毎週水曜日 10：00～11：15	30人	体力維持・向上 (中級)	3人の指導者がヨガ・エアロビ・筋トレを交代で指導	
男性健康づくり教室				毎週木曜日 10：00～11：15	40人	18歳以上の男性 運動不足解消(初級)	筋力トレーニング ストレッチなど	
柔・酸・筋教室		第五地区 センター	第3期 1月～3月	毎週水曜日 10：00～11：15	30人	体力維持・向上 (中級)	3人の指導者がヨガ・エアロビ・筋トレを交代で指導	
脚力改善教室				毎週水曜日 13：00～14：15	30人	健康増進 (初級～中級)	歩行運動やバランス トレーニングなど	
からだとのえ 運動教室		第五地区 センター	毎週水曜日 14：30～15：45	30人	運動不足解消 (初級)	ロコモ予防トレー ニングなど		
からだづくり教室			毎週水曜日 19：15～20：30	30人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど		
からだづくり教室		第五地区 センター	毎週木曜日 10：00～11：15	40人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど		
アップ・UP体操教室			毎週木曜日 13：30～14：45	40人	運動不足解消(初級)	ストレッチ、リズム運動、 ロコモ予防運動など		
たのしいヨガ教室		第五地区 センター	毎週金曜日 19：15～20：30	35人	初心者にも手軽にで きる(初級)	ヨガの基本動作など		

教室名	会場	実施期	曜日・時間	定員	対象・運動レベル	内 容	
からだづくり教室	門池地区 センター		毎週水曜日 10:00~11:15	40人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど	
アップ・UP 体操教室			Aコース	毎週金曜日 13:00~14:15	40人	運動不足解消(初級)	ストレッチ リズム運動
			Bコース	毎週金曜日 14:30~15:45	40人	健康増進 (初級~中級)	ロコモ予防運動など
からだづくり教室	今沢地区 センター		毎週火曜日 10:00~11:15	30人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど	
アップ・UP 体操教室			水曜日 コース	毎週水曜日 13:30~14:45	30人	運動不足解消(初級)	ストレッチ
			木曜日 コース	毎週木曜日 13:30~14:45	30人	健康増進 (初級~中級)	リズム運動
アップ・UP体操教室	大岡地区 センター		毎週木曜日 13:30~14:45	40人	運動不足解消(初級)	ロコモ予防運動など	
からだづくり教室			毎週木曜日 19:15~20:30	30人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど	
からだどとのえ 運動教室	内浦地区 センター		毎週金曜日 10:00~11:15	40人	運動不足解消(初級)	ロコモ予防トレー ニングなど	
たのしいヨガ教室	第二地区 センター		毎週水曜日 19:15~20:30	30人	初心者にも手軽にで きる(初級)	ヨガの基本動作など	
柔・酸・筋教室			毎週金曜日 19:15~20:30	20人	体力維持・向上 (中級)	3人の指導者がスト レッチ・リズム運動・ 筋トレを交代で指導	
からだづくり教室	第一地区 センター		毎週土曜日 10:00~11:15	25人	体力維持・向上 (中級)	筋力トレーニング、 ストレッチなど	
柔・酸・筋 教室	金岡地区 センター		毎週水曜日 10:00~11:15	30人	体力維持・向上 (中級)	3人の指導者がヨ ガ・エアロビ・筋ト レを交代で指導	
アップ・UP体操教室			毎週水曜日 13:30~14:45	30人	運動不足解消(初級)	ストレッチ リズム運動 ロコモ予防運動など	

3. NPO法人沼津市スポーツ協会

平成15年3月27日付でNPO法人格を取得したNPO法人沼津市スポーツ協会は、加盟38団体により組織され、「スポーツの香りのする街・沼津」をスローガンに掲げ、その実現を目指し、種目別ごとに大会を開催するなど競技レベルの向上を図っている。

また、平成17年度から市体育施設の管理を受託し、より利用しやすい施設の環境づくりを目指している。

4. 沼津市スポーツ推進委員

スポーツ基本法の規定に基づき、本市では自治会の推せんにより委員を委嘱している。スポーツ推進委員は地域スポーツ活動の中心的な役割を担い、住民に対してスポーツの実技指導や各種スポーツ行事の企画をするとともに、市のスポーツ事業に参画し、その推進に当たっている。

委員の数 78人(令和5年4月1日現在)

任期 2年

委員の要件 社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有し、職務を行うのに必要な熱意と能力を有する者

香陵アリーナ（沼津市総合体育館）

市民体育館、勤労者体育センター、香陵武道場の各機能を集約し、令和5年3月1日に開館した。日常的な健康づくりの場として、様々なスポーツ教室を開催し、「するスポーツ」の充実を図るとともに、プロスポーツの試合を開催し、「みるスポーツ」を市民に提供するほか、「支えるスポーツ」として、人材の育成や確保について支援する。

1. 施設の概要

所在地	沼津市御幸町15-1
電話	928-5231
敷地面積	14,569.4㎡
建築面積	8,275.3㎡
建築延面積	16,600.0㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造 4階建
開館	令和5年3月1日
休館日	年末年始（12月30日～1月2日）及び毎月第4月曜日
開館時間	午前8時30分～午後9時30分（利用時間 午前9時～午後9時）

◎ 1 階 7,487.7㎡

武道場（1,110.0㎡）	柔道、剣道、なぎなた他 各4面
弓道場（970.2㎡）	10人立ち
卓球場（307.3㎡）	8台
多目的室（157.8㎡）	フェンシング（2ピスト）、ダンス他
事務室、更衣室、シャワー室、トイレ、多目的トイレ、授乳室、キッズスペース	

◎ 2 階 6,776.8㎡

スポーツアリーナ（2,257.0㎡）	バスケットボール（3面）、バレーボール（3面）、 テニス（3面）、バドミントン（12面）
多目的アリーナ（1,276.8㎡）	バスケットボール（2面）、バレーボール（2面）、 テニス（2面）、バドミントン（6面）
トレーニング室（370.0㎡）	
多目的スタジオ（160.0㎡）	
防災管理室、大会本部室、放送室、選手控室、トイレ、多目的トイレ	

◎ 3 階 2,182.4㎡

スポーツアリーナ観客席（1,022席、うち車いす席10席）、多目的アリーナ観客席（90席、うち車いす席3席）、屋内ランニングコース（1周220m）、トイレ、多目的トイレ	
--	--

◎ 4 階 153.1㎡

機械室

2. 運営

令和4年8月1日から沼津NEXT株式会社を指定管理者に指定している。

3. 利用状況

施設別利用状況 (令和5年3月のみ)

施設名	利用者数
スポーツアリーナ	12,594 人
多目的アリーナ	2,180
武道場	1,809
弓道場	626
卓球場	1,453
トレーニング室	4,229
多目的スタジオ	397
多目的室	313
大会本部室	171
選手控室 1	102
選手控室 2	90
合計	23,964

市営野球場

沼津駅北部約1kmに位置し、立地条件に優れている当施設は軟式野球に使用でき、小・中学・一般・企業団体と多方面にわたって使用されている。

所在地 沼津市泉町2番1号

施設 総面積 16,617.2㎡

中堅 118m 両翼 90m

1階 本部席・審判控室・会議室・車椅子席・放送室・管理人室倉庫・ダッグアウト・更衣室・シャワー室

2階 長椅子形式の観覧席417席（バックネット裏237席、一塁側90席、三塁側90席）・内外野フェンス（ラバー付きフェンス）・スコアボード

駐車場 64台分（うち身体障がい者用2台）

設置 昭和24年

大規模改修 平成12・13年度及び平成29年度

利用時間 午前8時30分～午後5時

大岡公園内運動場

大岡公園の南側に位置し、サッカー及びソフトボール等に利用されている。平成24・25年度に大規模整備工事を行い、平成26年4月1日より供用開始した。令和5年4月1日より大岡公園区域の拡大に伴い、名称を大岡公園内運動場に変更した。

所在地 沼津市大岡字末広1298番地の1

施設 総面積 13,806.0㎡

照明設備

設置 昭和59年4月23日

大規模改修 平成24・25年度

利用時間	午前6時～午後9時（5月～9月） 午前7時～午後9時（10月～4月）
利用種目	ソフトボール（2面）、学童軟式野球（2面）、グラウンドゴルフ（2面）、サッカー（1面）※フットサル、ミニサッカーの場合2面、陸上競技、その他レクリエーション等

西部市民運動場

旧沼津技術専門校のグラウンドを整備し、市民が身近で気軽に使える屋外運動場施設として、ソフトボールやグラウンドゴルフ等に利用されている。

所在地	沼津市東椎路1749番地の1
施設	総面積 4,200.0㎡ 照明設備
設置	平成24年4月1日
利用時間	午前6時～午後9時（5月～9月） 午前7時～午後9時（10月～4月）
利用種目	ソフトボール、グラウンドゴルフ、ゲートボール、サッカー、その他レクリエーション等

中瀬市民運動場

香陵運動場の代替機能として整備し、グラウンドゴルフやキッズサッカーなどに利用されている。

所在地	沼津市上香貫2399番地の5
施設	総面積 3,750.0㎡
設置	平成27年11月1日
利用時間	午前8時30分～午後5時
利用種目	グラウンドゴルフ、キッズサッカー、その他レクリエーション等

戸田テニスコート

戸田B&G海洋センター敷地内に併設され、大人から子供まで多方面にわたって利用されている。

所在地	沼津市戸田3105番地の7
施設	ハードコート2面（夜間照明付）
設置	昭和54年
利用時間	午前7時～午後9時

○屋外施設の年度別利用状況

区分 年度	市営野球場		大岡公園内運動場		戸田テニスコート		西部市民運動場		中瀬市民運動場	
	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
4	274	10,857	625	22,657	78	219	506	8,118	421	6,132
3	118	8,705	731	21,474	73	214	515	9,188	437	5,845

戸田B & G海洋センター

本施設は平成4年にB & G財団により、青少年の健全育成と住民の健康づくりのための施設として、体育館とプールを備えた総合スポーツ施設として設置された。

平成7年に戸田村に無償譲渡され、平成17年4月1日に沼津市との合併により沼津市戸田B & G海洋センターとなる。

平成28年度にプール棟の改修工事を行い、平成29年4月1日にリニューアルオープンした。



1. 施設の概要

所在地	沼津市戸田2053番地
電話	0558-94-3501
構造	体育館 鉄筋コンクリート造2階建 プール 鉄骨造平屋建
敷地面積	9,781.4㎡
建築面積	2,282㎡
建築延面積	2,703㎡ (体育館棟 1,828㎡ プール棟 875㎡)
開館	平成4年7月24日
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)、毎週月曜日

◎ 体育館

- 利用区分
午前(9時～12時) 午後(13時～17時) 夜間(17時～21時)
- 利用できる種目
バレーボール(2面)、バスケットボール(1面)、バドミントン(2面)

◎ プール

- 利用区分
午前(9時～12時) 午後(13時～17時) 夜間(18時～20時30分)
- 設備
一般用 25m×13m・6コース(水深1.1m～1.2m)
幼児用 11m変形(水深0.5m～0.6m)

◎ トレーニングルーム

- 設備
柔道場 50畳 剣道場

◎ その他

会議室、更衣室等

2. 戸田B & G海洋センター運営審議会

戸田B & G海洋センターの適正かつ円滑な運営及び事業計画などについて審議する。

委員の数 10人以内

任期 2年

委員の構成 海洋センター利用団体、地区体育部等

3. 利用状況

(1) 年度別利用者数

(単位：人)

年度	プ ー ル				体 育 室		合 計
	個 人 利 用 者		体 力 づ くり 教 室		団 体 利 用 者		
	男	女	男	女	男	女	
4	965	1,014	411	332	2,748	2,749	8,219
	1,979		743		5,497		
3	702	958	476	330	2,605	2,742	7,813
	1,660		806		5,347		

(2) 目的・種目別利用状況（令和4年度）

区 分	目 的 ・ 種 目	利用回数 (コマ数)	利用者数
個 人 利 用	プ ー ル	一 回	1,979 人
団 体 利 用	バレーボール	33	683
	バドミントン	130	891
	バスケットボール	77	712
	卓 球	127	897
	ミニバス	8	138
	柔 道	96	1,169
	空 手	0	0
	その他（ダンス・カローリング等）	59	783
	会 議 室	8	224
	小 計	538	5,497
体 力 づ くり 教 室 (市主催)	体 力 づ くり 教 室 (9 教 室)	57	743
合 計			8,219

資 料

市内諸学校一覧（市立幼・小・中・高除く）

令和5年5月1日現在

校 種	学 校 名	所 在 地	学級数	教員数	生徒数	電 話
私立大学	東都大学沼津キャンパス	日の出町1-1	1	59	245	922-6688
国立高专	沼津工業高等専門学校	大岡3600	科25専2	112	1,016・64	921-2700
県立高校	沼津東高等学校	岡宮812	21	67	848	921-0341
	沼津西高等学校	本字千本1910-9	16	75	570	962-0345
	沼津城北高等学校	岡一色875	9	32	324	921-0344
	沼津工業高等学校	下香貫八重129-1	全15定4	63・19	497・39	931-0343
県立特別 支援学校	沼津視覚特別支援学校	米山町6-20	11	35	22	921-2099
	沼津聴覚特別支援学校	泉町4-1	15	48	31	921-3398
	沼津特別支援学校	大塚823-1	52	106	217	966-0980
	沼津特別支援学校愛鷹分校	岡一色875	6	19	52	943-5177
私立高校	沼津中央高等学校	杉崎町11-20	19	51	623	921-0346
	加藤学園高等学校	大岡自由ヶ丘1979	45	116	1,347	921-0347
	加藤学園暁秀高等学校	岡宮字中見代1361-1	17	80	393	924-1900
	飛龍高等学校	東熊堂491	44	127	1,084	921-7942
	桐陽高等学校	高島本町8-52	35	83	1,099	921-0096
	誠恵高等学校	沼北町2丁目9-12	20	49	681	921-5088
私立中学校	加藤学園暁秀中学校	岡宮字中見代1361-1	12	57	307	924-1900
私立小学校	加藤学園暁秀初等学校	大岡自由ヶ丘1979	19	42	510	922-0720
私立幼稚園	ルンビニ幼稚園	千本緑町2丁目7	3	8	16	962-1710
	四恩幼稚園	三芳町3-14	3	9	40	963-7538
	愛鷹幼稚園	西椎路610-2	7	18	146	966-2500
	沼津学園第二幼稚園	大岡字川窪3227-1	6	10	166	923-8850
	加藤学園幼稚園	大岡自由ヶ丘1979	11	22	241	921-4805
	沼津あすなろ幼稚園	西沢田244-2	6	7	87	922-8507
	双葉幼稚園	下香貫字柿原2843-1	4	9	38	933-1835
	光長寺幼稚園	岡宮字寺内1052-5	7	18	147	921-4213
	沼津梅花幼稚園	本郷町23-9	6	12	115	931-6146
認定こども園	原町幼稚園	原199-1	6	20	78	966-7338
	沼津聖マリア幼稚園	本郷町18-31	4	9	82	932-9911
	象山幼稚園	志下北通り72-1	8	20	151	931-3426
	耕雲寺幼稚園	大岡1092	7	19	113	951-3075
	第二耕雲寺幼稚園	大岡2242-14	4	15	85	923-3911
	認定こども園沼津学園第一幼稚園	寿町16-40	10	20	210	921-8140
	認定こども園春の木幼稚園	東椎路1547-1	7	22	86	923-5445
	認定こども園しょうえい幼稚園	大塚812-2	7	30	119	967-4521
	認定こども園片浜桜	今沢65	8	23	131	966-6349
	認定こども園中央幼稚園	幸町23-3	8	14	109	951-6694
	認定こども園かきつばたこども園	柳沢222	8	30	114	967-4188
	認定こども園こずわ幼稚園	小諏訪242-4	6	24	98	963-0721

学校・施設図



沼津の教育
令和5年度版

令和5年9月1日 発行

編集・発行 沼津市教育委員会事務局

青少年健全育成都市宣言

近年、青少年の非行が増加するにとどまらずその低年齢化と悪質化が著しいことは、誠に憂慮に堪えない。

次代を担う青少年の健全育成をはかることは私たち市民の重大な責務である。

よって、本市は市民の総力を結集して、青少年が明るく健やかに育つまちづくりに邁進することを決意し、ここに沼津市を「青少年健全育成都市」とすることを宣言する。

昭和55年12月10日

青少年健全育成都市宣言メモ

沼津市では、昭和55年12月10日の沼津市議会本会議で「青少年健全育成都市」としての宣言を提案し、満場一致で決議された。

これは、当時の沼津警察署管内の刑法犯少年の発生率が、昭和49年から毎年県下一ということへの危機感から、市民と行政が協力し合って市民総ぐるみで次代を担う青少年を非行から守ろうと青少年健全育成都市の宣言をしたものである。そして、この都市宣言を契機に、中学校単位での青少年を健やかに育てる会の結成をはじめ、電話・面接相談機能や補導活動の充実を図るための青少年教育センターの設置を図り、以来、青少年の健全育成と非行防止に大きな成果を上げてきている。

